

# 翻刻『論語義疏』（大槻本）――雍也篇・述而篇――

影山輝國

## はじめに

今回は、八佾篇・里仁篇・公冶長篇（『年報』第三十号平成二十三年三月）に引き続き、雍也・述而二篇の翻刻を掲載発表する。

## 凡例

一、本訓読文は慶応義塾大学附属研究所斯道文庫に蔵せられる文明十九年鈔本『論語義疏』（いわゆる「大槻本」）を、原文に附せられた訓点に従って読み下したものである。

一、原文は每半葉九行、毎行二十字、疏文小字双行であるが、翻刻に際してはこれにこだわらなかった。

一、使用する漢字は、コンピュータ処理の上で可能な限り旧字体とした。

一、原文の異体字は、原則として正字に改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当する漢字に改めた。

一、原文にはカタカナで振仮名や送仮名が附せられているので、それらはみなカタカナを用いて表記した。その際、「メ」「ㄣ」「寸」「云」「子」などは、それぞれ「シテ」「コト」「トキ」「イフ」「ネ」などに改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当するカタカナに改めた。

一、振仮名、送仮名には若干の例外を除き濁音符がないので、例外箇所を除き濁音符を付けることはしていない。

一、振仮名と送仮名は、なるべく原書に忠実に従うことに努めたが、両者の判別が困難な場合、原則として活用語は語幹を振仮名と見做して漢字の脇に、活用語尾を送仮名と見做して漢字の下に表記した。その他の語もなるべく読みやすい形で表記した。

一、カタカナが、読み的一部分だけしか示していない場合は、残りの読みを推定し、ひらがなを用いて補った。その際、原則として「歴史的仮名遣い」に則り、音便形を用いていない。

一、頻繁に用いられる「日」<sup>ノ</sup>、「則」<sup>ハ</sup>は、それぞれ「ノたうはク」、「ときハ」とも読めるが、ここでは「ノたまはク」、「ときんハ」と訓じた。また、「欲」、「雖」は、「ほりす」、「いふとも」ではなく、「ほつす」、「いへとも」と訓じた。

一、漢字の左右に二通りの訓がある場合は、右傍訓を優先して表記し、左傍訓は括弧に入れて表記した。間々、漢字の右側に二通りの訓がある事があるが、その場合はより漢字に近い訓を優先して表記し、遠い訓は括弧に入れた。

一、漢字の右側に附せられた振仮名は右側に、左側に附せられた振仮名は左側に附した。推定して補った読みも、右側にあるべきものは右側に、左側にあるべきものは左側に附した。

のは左側に附した。

一、訓読文中では不読字（置き字）はすべて省略した。どの文字を省略したかは、訓読文の前に示した白文（読点付き）から判断願いたい。

一、訓読文中では再読文字はその文字を再度表出して、あたかもその文字が二度使用されているかのごとく表記してある。その際、一々再読であることを示していないので、どの文字を再読したかについても、訓読文の前に示した白文から判断願いたい。

一、地名・人名・官名・書名などを示す朱引は、すべて省略した。

一、原文では句点と読点の区別がなく、すべて行の中央に朱点が附せられているので、ここでは句点を用いず、すべて読点を用いた。朱点はなるべく忠実に表示したが、明らかに誤り附けたと思われるものは無視した。また、附け落としたと思われる箇所には、読み易さに資する最少の範囲で白抜きの読点を補った。

一、原文には墨筆の縦線で、漢字の右脇に音読符、漢字間の中央に音合符、左側に訓合符が附せられている。これらはすべて忠実に再現するように努めたが、明らかに誤りのあるものは訂正して読んだ。その際、一々注記することはしていない。

一、原文に書き入れられている心覚えのためと思われる文字や記号は省略した。

一、一部に書き加えられている刑昺の疏は、省略した。

一、各章末に、武内義雄刊『論語義疏』（大正十三年一月懷徳堂記念会発行「武内本」と略称する）との文字の異同を記した。武内本は誤植が少なからずあり、必ずしも拠るべき最善のテキストとは言えないが、多くの方が参考にすると思われるからである。

翻刻掲載にあたっては、大槻本を所蔵する慶応義塾大学附属研究所斯道文庫の承諾を得た。特に記して感謝の意を表す。

雍也第六<sup>二</sup>

(一) 「六」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡卅章」三字(小字)。

【疏】

雍孔子弟子也、明其才堪南面、而時不與也、所以次前者、其雖無橫罪、亦是不遇之流、橫罪爲切、故公冶前明、而雍也爲次也

雍ハ孔子ノ弟子ナリ、其ノ才南<sup>ミ</sup>面スルニ堪<sup>タ</sup>トモ、而<sup>シ</sup>トモ時ニ與<sup>アツカ</sup>ラ不<sup>ス</sup>コトヲ明<sup>アカ</sup>ス、前<sup>マ</sup>ニ次<sup>ツ</sup>ツル所<sup>ユ</sup>以<sup>ハ</sup>ハ、其<sup>レ</sup>横<sup>ナシ</sup>罪無<sup>ト</sup>雖<sup>モ</sup>、亦<sup>モ</sup>是<sup>レ</sup>不<sup>ミ</sup>遇<sup>フ</sup>ノ流<sup>タ</sup>ナリ、横<sup>ミ</sup>罪ヲ切<sup>タ</sup>ナリト(切ナリト)爲<sup>ス</sup>、故ニ公冶ヲ前<sup>マ</sup>ニ明<sup>アカ</sup>シテ、而シテ雍也ヲ次<sup>ツ</sup>キト爲<sup>ス</sup>

【經】

子曰、雍也可使南面、

子曰ク、雍ヲハ南<sup>ミ</sup>面セ使<sup>シ</sup>メツ可<sup>ヘ</sup>、

【疏】

南面、謂爲諸侯也、孔子言、冉雍之德、可使爲諸侯也、

南<sup>ミ</sup>面トハ、諸侯爲ルヲ謂フ、孔子ノ冉雍カ德ヲ言<sup>ノ</sup>ク、諸侯爲<sup>タ</sup>ラ使<sup>シ</sup>メツ可<sup>ヘ</sup>、

【注】

苞氏曰、可使南面者、言任諸侯、可使治國政也、

苞氏カ曰ク、南<sup>ミ</sup>面セ使<sup>シ</sup>メツ可<sup>シ</sup>トハ、言<sup>ハ</sup>諸侯ニ任<sup>ニ</sup>シテ、國ノ政ヲ治<sup>マ</sup>メ使<sup>シ</sup>メツ可<sup>シ</sup>、

(二) 「政」、武内本作「故」。

【經】

仲弓問子桑伯子、

仲弓子桑伯子ヲ問フ、

【疏】

仲弓即冉雍也、問孔子云、有人、名子桑伯子、此何人也、



仲弓ハ即チ冉雍ナリ、孔子ニ問テ云ク、人有リ、名ハ子桑伯子、此レハ是レ何シ（一）人ソヤ、

【注】

王肅曰、伯子書傳無見也、

王肅カ曰ク、伯子ハ書傳ニ見ユルコト無シ、

【疏】

言書傳不見有子桑伯子也、

言（二）ハ書傳ニ子桑伯子有ルコトヲ見不（三）、

【經】

子曰、可也簡、

子ノ曰ク、可ナリ簡ナリ、

【疏】

可猶可謂也、謂簡疎大、無細行也、孔子答云、伯子人身、所行可謂疎簡也、

可ハ可謂ノ猶シ、簡ハ疎大ニシテ、細行無コトヲ謂フ、孔子答テ云ク、伯子カ人身ノ、行フ所疎簡ト謂ツ可、

【注】

以能其簡、故曰可也、

能ク其ノ簡ナルヲ以テノ、故ニ可ナリト曰フ、

【疏】

言伯子能爲簡略之行、故云可也、

言ハ伯子能ク簡略ノ行ヲ爲ス、故ニ可ナリト云フ、

【經】

仲弓曰、居敬而行簡、以臨其民、不亦可乎、

仲弓カ曰ク、敬ニ居テ簡ヲ行フ、其ノ民ニ臨ム、亦可ナラ

【疏】

孔子答曰、伯子所行、可謂疎簡、故仲弓更諮孔子評伯子之簡不合禮也、將說其簡不合於禮、故此先說於合禮之簡也、

言人若居身有敬、而寬簡以臨下民、能如此者、乃爲合禮、故云不亦可乎、言其可也、

孔子答テ曰ク、伯子カ行フ所、踈<sup>ノたまは</sup>簡ナリト謂ツ可シ、故ニ仲弓更ニ孔子ニ諮ツテ伯子カ簡ノ禮ニ合ハ不<sup>カサ</sup>ルコトヲ評ス、將ニ其ノ簡ニシテ禮ニ合ハ不<sup>かな</sup>ルコトヲ說將、故ニ此ニ先ツ禮ニ合フノ簡ヲ說ク、言ハ人若シ身ヲ敬有<sup>いふころ</sup>ルニ居イテ、寬簡ニシテ以テ下民ニ臨ム、能ク此ノ如キ者ハ、禮ニ合フト爲<sup>ス</sup>、故ニ云ク亦可ナラ不<sup>ス</sup>ヤ、言ハ其レ可ナリ、

【注】

孔安國曰、居身敬肅、臨下寬略則可也、

孔安國カ曰ク、身ヲ敬肅ニ居テ、下ニ臨ムニ寬略ナル則<sup>ときん</sup>ハ可ナリ、

【經】

居簡而行簡、無乃大簡乎、

簡ニ居テ簡ヲ行フ、無<sup>ムシロ</sup>乃大<sup>カ</sup>簡乎、

【疏】

此說伯子之簡不合禮也、而伯子身無敬、而以簡自居、又行簡對物、皆無敬、而簡如此、不<sup>レ</sup>及大簡乎、言其簡過甚也、

此ハ伯子カ簡ノ禮ニ合ハ不<sup>かな</sup>ルヲ說ク、而レハ伯子身ニ敬無<sup>し</sup>ク、而シテ簡ヲ以<sup>もて</sup>自居リ、又簡ヲ行<sup>おこなひ</sup>テ物ニ對シテ、皆敬無シ、而シテ簡此ノ如キンハ、大簡ニ及ハ不<sup>およ</sup>乎、言ハ其ノ簡ノ過タルコト甚シ、

【注】

荀氏曰、伯子之簡、大簡也、

荀氏カ曰ク、伯子カ簡ハ、大簡ナリ、

【經】

子曰、雍之言然、

子ノ曰ク、雍<sup>のたまは</sup>力言<sup>フツシカ</sup>然リ、

【疏】

雍論簡既是、故孔子然許之也、虞喜云、說苑曰、孔子見伯子、伯子不衣冠而處、弟子曰、夫子何爲見此人乎、曰其實

美、而無文繁、吾欲說而文之、孔子去、子桑伯子門人不說  
 曰、何爲見孔子乎、曰其質美而文繁、吾欲說而去其文、故  
 曰、文質修者謂之君子、有質而無文、謂之易野、子桑伯子  
 易野、欲同人道於牛馬、故仲尼曰大簡、

雍力簡ヲ論スルコト既ニ是レナリ、故ニ孔子然シテ之ヲ  
 許ス、虞喜カ云ク、說苑ニ曰ク、孔子伯子ニ見ユ、伯子  
 衣冠セ不シテ處ス、弟<sub>一</sub>子ノ曰ク、夫子何<sub>レ</sub>爲レソ此ノ  
 人ニ見ル乎、曰ク其ノ質美ニシテ、文繁無シ、吾說テ  
 之ヲ文アラシメント欲ス、孔子去ル、子桑伯子カ門人說  
 ハ不シテ曰ク、何<sub>レ</sub>爲レソ孔子ニ見ル乎、曰ク其ノ質美ニ  
 シテ文繁ナリ、吾說テ其ノ文ヲ去ケシメント欲ス、故ニ  
 曰ク、文質ヲ修スル者ヲ之ヲ君<sub>一</sub>子ト謂ヒ、質有テ文無  
 キヲ、之ヲ易野ト謂フ、子桑伯子易野ニシテ、人<sub>一</sub>道ヲ  
 牛馬ニ同フセント欲、故ニ仲尼ノ曰ク大簡ナリト、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「謂簡」、武内本作「簡謂」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「對物」之下、武内本有「對物」二字。
- (五) 「及」、武内本作「乃」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。

(七) 「簡」之下、武内本有「也」字。

【經】  
 哀公問曰、弟子孰爲好學、

哀公問テ曰ク、弟<sub>一</sub>子孰カ學好ムコトヲ爲ル、

【疏】  
 哀公問孔子諸弟子之中、誰爲好學者、

哀公孔子ニ問フ諸弟<sub>一</sub>子ノ中ニ、誰カ學ヲ好コトヲ爲ル、

【經】  
 孔子對曰、有顏回者、好學、

孔子對テ曰ク、顏回トイフ者有リキ、學ヲ好ム、

【疏】  
 答云、弟子之中、唯有顏回好學、

答テ云ク、弟<sub>一</sub>子ノ中ニ、唯<sub>一</sub>顏回有リ學ヲ好ム、

【經】

不遷怒、

怒ヲ遷サス、

【疏】

此舉顏淵好學分滿所得之功也、凡夫識味、有所瞋怒、不當道理、唯顏回學至庶幾、而行藏同於孔子、故識照以道、怒不乖中、故云不遷、遷猶移也、怒必是理、不遷移也、

此レハ顏淵カ學ヲ好ム分「滿」テ得ル所ノ功ヲ舉ク、凡夫ハ識「味」フシテ、瞋「り」怒ル所有テ、道「理」ニ當ラ不、唯顏回ノ學庶「幾」ニ至テ、行藏孔子ニ同シ、故ニ識「照」シテ道ヲ以テス、怒ルコト中ヲ乖カ不、故ニ云ク遷サ不ト、遷ハ移「ノ」猶シ、怒ルコト必ス是レ理アリ、遷シ「移」サ不、

【經】

不貳過、

貳「タ」ヒ「過」チ不、

【疏】

但不能照機、機非己所得、故於已成過、凡情有過必文、是爲再過、而回當機時不見、己乃有過、機後即知、知則不復文飾以行之、是不貳也、故易云、顏氏之子、其殆庶幾乎、有不善、未嘗不知、知之未嘗復行。是也。然學至庶幾、其美非一、今獨舉怒過二條者、蓋有以也、當時哀公濫怒貳過、欲因答寄箴者矣、

但タ機ヲ照スコト能ハ不、機ハ己カ得ル所ニ非ス、故ニ己ニ於テ過ヲ成ス、凡ソノ情ハ過チ有ルトキハ必ス「文」ル、是レ再タヒ「過」ツト爲、而ルヲ回ハ機ノ時ニ當テ見不、己乃チ過チ有リ、機ノ後ニハ即チ知ル、知ル「則」ハ復タ文リ「飾」テ之ヲ行ハ不、是レ貳タヒセ不ルナリ、故ニ易ニ云ク、顏氏カ子、其レ庶「幾」ニ殆キカ、不「善」有ルトキハ、未タ嘗テ知不「ン」ハアラ未、之ヲ知ルトキハ未タ嘗テ復行ハ未トイフ。是ナリ。然シテ學「庶」幾ニ至テ、其ノ美「一」ニ非ス、今獨リ怒過ノ二「條」ヲ舉ルコトハ、蓋シ以有リ、當時哀公濫ニ怒リ貳ヒ過チアリ、答ニ因テ箴「箴」ヲ寄セント欲スル者ナリ、

【經】

不幸短命死矣、

不幸短命ニシテ死シキ、

【疏】

凡應死而生曰幸、應生而死曰不幸、若顔子之德、非應死、而今死、故曰不幸也、命者稟天所得以生、如受天教命也、天何言哉、設言之耳、但命有短長、顔生所得短者也、不幸而死、由於短命、故曰不幸短命死矣、

凡ソ死ス應クシテ生スルヲ幸ト曰フ、生ス應クシテ而シテ死スルヲ不幸ト曰フ、顔子ノ德ノ若キンハ、死ス應キニ非ス、而ルヲ今死ス、故ニ不幸ト曰フ、命トハ天ニ稟テ得テ生ルル所、天ノ教命ヲ受クルカ如シ、天何ヲカ言ハンヤ、設テ之ヲ言フ耳、但タ命ニ短長有リ、顔生ノ得ル所ハ短者ナリ、不幸ニシテ死スルハ、短命ニ由ナリ、故ニ曰ク不幸短命ニシテ死スト、

【經】

今也則亡、

今ハ則チ亡シ、

【疏】

亡無也、言顔淵既已死、則無復好學者也。然游夏文學著於四科、而不稱之、便謂無者何也、游夏非體之人、不能庶幾、尚有遷有貳、非關喪予、唯顔生鄰亞、故曰無也、

亡ハ無ナリ、言ハ顔淵既已死シテ、則チ復學ヲ好ム者無シ。然ルニ游夏ハ文ニ學ニシテ四科ニ著ル、而ルヲ之ヲ稱セ不シテ、便チ無シト謂フコトハ何ソヤ、游夏ハ之ヲ體スルノ人ニ非ス、庶幾ニ能ハ不、尚ヲ遷スコト有リ、貳ヒスルコト有リ、喪予ニ關ルニ非、唯タ顔生ハ鄰亞ナリ、故ニ無シト曰フ、

【經】

未聞好學者也、

未タ學ヲ好ムトイフ者ヲ聞カ未、

【疏】

好學庶幾、曠世唯一、此士難重得、故曰未聞也、

學ヲ好ム庶幾ハ、曠世ニ唯タ一リナリ、此ノ士重テ得難シ、故ニ曰ク未タ聞カ未ト、

【注】

凡人任情、喜怒違理、

凡<sup>およそ</sup>ノ人ハ情ニ任<sup>まか</sup>セテ、喜<sup>レ</sup>怒理ニ違<sup>タカ</sup>フ、

【疏】

未得坐忘、故任情、不能無偏、故違理也、

未タ坐忘スルコトヲ得未、故二情ニ任<sup>まか</sup>ス、偏無キコト能ハ不<sup>す</sup>、故二理ニ違<sup>タカ</sup>フ、

【注】

顏淵任道、怒不過分、

顏淵ハ道ニ任<sup>まか</sup>ス、怒ルコト分ニ過<sup>す</sup>キ不<sup>す</sup>、

【疏】

過猶失也、顏子道同行捨、不自任己、故曰任道也、以道照物、物豈逃形、應可怒者、皆得其實、故無失分也、

過ハ失ノ猶シ、顏子ハ道ト行<sup>ミツカラ</sup>捨ヲ同ス、自己ニ任<sup>マカ</sup>セ不<sup>す</sup>、故二道ニ任<sup>まか</sup>スト曰フ、道ヲ以<sup>もて</sup>物ヲ照ス、物豈二形ヲ逃<sup>の</sup>レン

ヤ、怒ル可キ者ニ應シテハ、皆<sup>みな</sup>其ノ實ヲ得、故二分ヲ失スルコト無シ、

【注】

遷者移也、怒當其理、不移易也、

遷ハ移、怒ルコト其ノ理ニ當テ、移リ<sup>カ</sup>易ヘ不<sup>す</sup>、

【疏】

照之故當理、當理而怒之、不移易也、

之ヲ照スカ故二理ニ當ル、理ニ當テ而シテ之ヲ怒ル、移リ<sup>カ</sup>易ヘ不<sup>す</sup>、

【注】

不貳過者、有不善、未嘗復行也、

貳タヒ過チセ不<sup>ス</sup>トハ、不善有ルハ、未タ嘗<sup>ムカシ</sup>ヨリ復タ<sup>レ</sup>行ハ未<sup>ス</sup>、

【疏】

即用易繫爲解也、未嘗復行、謂不文飾也

易繫ヲ用テ解ヲ爲ス、未タ嘗ヨリ復行ハ未トハ、文リ  
 飾ラ不ルヲ謂フ

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「也」、武内本作「爲」。

(三) 「矣」、武内本作「也」。

(四) 「復」、武内本作「得」。

【經】

子華使於齊、

子華齊ニ使ス、

【疏】

子華弟子。字冉也、姓公西、名赤。有容儀、故爲使往齊國也、但不知時爲魯君之使爲孔子之使耳

子華ハ弟<sub>ニ</sub>子。字ハ冉、姓ハ公西、名ハ赤。容儀有リ、故ニ使ト爲<sub>シ</sub>テ齊國ニ往ク、但タ時ニ魯ノ君ノ使トヤ爲<sub>セ</sub>ン孔子ノ使トヤ爲<sub>セ</sub>ンコトヲ知ラ不<sub>ル</sub>耳

【經】  
 冉子爲其母請粟、

冉子其ノ母ノ爲ニ粟ヲ請フ、

【疏】

冉子冉求也、其母子華母也、請粟就孔子請粟也、時子華既出使、而母在家、冉有由朋友之情、故爲子華之母、就孔子請粟也、

冉子ハ冉求ナリ、其ノ母トハ子華カ母ナリ、粟ヲ請トハ孔子ニ就テ粟ヲ請フ、時ニ子華既ニ出テテ使シテ、而シテ母家ニ在リ、冉有朋友ノ情ニ由ル、故ニ子華カ母ノ爲ニ、孔子ニ就テ粟ヲ請フ、

【經】

子曰、與之釜、

子ノ曰ク、之ニ釜ヲ與ヘヨ、

【疏】

孔子得冉求之請、故命與粟一釜、釜容六斗四升也、

孔子冉求カ請<sup>コトヲ</sup>得テ、故ニ命シテ粟一釜ヲ與フ、釜ハ六斗四升ヲ容<sup>イ</sup>ル、

【注】

馬融曰、子華弟子公西華。赤字也、六斗四升曰釜也、

馬融カ曰ク、子華ハ弟子公西華。赤ハ字ナリ、六斗四升ヲ釜ト曰フ、

【疏】

春秋昭公三年冬、晏子云、齊舊四量、豆、甌、釜、鐘、四升爲豆、各加其四、以登於釜、釜十則鐘、案如茲說、是四升爲豆、四豆爲甌、甌一斗四升也、四甌爲釜、釜六斗四升、如馬注也、若鐘則六斛四斗也、

春秋ニ昭公三年ノ冬、晏子カ云ク、齊ニ舊ト四量アリ、豆、甌、釜、鐘、四升ヲ豆ト爲<sup>ス</sup>、各其ノ四ヲ加フ、釜ニ登ス、釜十八鐘ナリ、案スルニ茲ノ說ヲ如キハ、是レ四升ヲ豆ト爲<sup>ス</sup>、四豆ヲ甌ト爲<sup>ス</sup>、甌ハ一斗四升ナリ、四甌ヲ釜ト爲<sup>ス</sup>、釜ハ六斗四升ナリ、馬ノ注ノ如シ、鐘ノ若キンハ六斛四斗ナリ、

【經】  
請益、

益請フ、

【疏】

冉求嫌一釜之少、故更就孔子、請益也、

冉求一釜ノ少コトヲ嫌フ、故ニ更ニ孔子ニ就テ、益請フ、

【經】

曰與之庾、

ノたまは  
曰ク之ニ庾ヲ與ヘヨ、

【疏】

冉子既請益、故孔子令與之庾也、十六斗也、然初請唯得六斗四升、請益而得十六斗、是益多於初、如爲不次、政恐益足前釜、以成十六斗也、

冉子既ニ益請フ、故ニ孔子之ニ庾ヲ與ヘ令ム、十六斗ナリ、然ハ初メ請フニ唯タ六斗四升ヲ得セシメ、益請ニシ



テ而シテ十一斗ヲ得シム、是レ益スコト初メヨリ多シ、  
次タラ不ト爲ルカ如シ、政ニ恐ハ前ノ釜ニ益シ足テ、  
十一斗ト成スカ、

【注】

苞氏曰、十六斗爲庾也、

苞氏カ曰ク、十一斗ヲ庾ト爲ス、

【疏】

然案苞注、十六斗爲庾、與賈氏注國語同而不合周禮、周禮  
施人職云、豆實三而成穀、鄭云、豆實四升、則穀實一斗二  
升也、又陶人職云、庾實二穀、案如陶施二文、則庾二斗四  
升矣、而苞氏注曰、十六斗爲庾、即是聘禮之數也、聘禮  
十六斗曰數、不知苞賈當別有所出多耳、

然ルニ苞カ注ヲ案スルニ、十一斗ヲ庾ト爲ス、賈氏カ注ノ  
國語與トシクス周禮ニ合ハ不、周禮ノ施人職ニ云ク、豆三  
ヲ實レテ穀ヲ成ス、鄭カ云ク、豆ハ四升ヲ實ルル、則ハ  
穀ハ一斗二升ヲ實ル、又陶人職ニ云ク、庾ハ二斗四升ナ  
ル、案スルニ陶施ノ二文ノ如キンハ、庾ハ二斗四升ナ  
リ、而ルヲ苞氏カ注ニ曰ク、十一斗ヲ庾ト爲ス、即チ是レ

聘禮ノ數ナリ、聘禮ニハ十一斗ヲ數ト曰フ、知ラ不苞賈  
當ニ別ニ出ル所有テ多カル當キ耳、

【經】

冉子與之粟五秉、

冉子之ニ粟五秉ヲ與フ、

【疏】

十六斛曰秉、五秉八十斛也、孔子與粟既竟、故冉子又自以  
己粟八十斛、與之也、

十一斗斛ヲ秉ト曰フ、五秉ハ八十一斛ナリ、孔子粟ヲ與  
フルコト既ニ竟テ、故ニ冉子又タ自己カ粟八十一斛  
ヲ以、之ニ與フ、

【注】

馬融曰、十六斛爲秉、五秉合八十斛也、

馬融カ曰ク、十一斗斛ヲ秉ト爲ス、五秉ハ合セテ八十一斛  
ナリ、

【疏】

聘禮云、十斗曰斛、十六斗曰簋、十簋曰秉、是馬注曰與同也、

聘禮ニ云ク、十斗ヲ斛ト曰ヒ、十六斗簋ト曰フ、十簋ヲ秉ト曰フ、是レ馬カ注ニ曰フト、與ニ同シ、

【經】

子曰、赤之適齊也、乘肥馬、衣輕裘、

子ノ曰ク、赤ハ適<sup>ユ</sup>クトキニ、肥タル馬ニ乘リ、輕<sup>ケ</sup>キ裘ヲ衣リ、

【疏】

孔子說我所以與少、又說冉求不應與多意也、肥馬馬之食穀者也、輕裘裘之皮精毛軟、及新綿爲著者也、若家貧則、馬不食穀、而瘦、裘用麕皮毛強、而故絮爲著、縕袍是也、今子華往使於齊、去時所乘馬肥、其所衣裘、輕軟則、是家富、其母不乏也、

孔子我カ與ルコトノ少キナル所以ヲ說キ、又冉求カ多ヲ與フ應ラ不ルノ意ヲ說ク、肥馬ハ馬ノ穀ヲ食ム者ナリ、

輕裘ハ裘ノ皮ノ精シク毛ノ軟ニシテ、及ヒ新綿ヲ著ルコトヲ爲ス者ナリ、若シ家貧キ則ハ、馬穀ヲ食マ不シテ、瘦セン、裘麕皮毛強ニシテ、而シテ故絮ヲ著ルコトヲ爲ルコトヲ用ン、縕袍是ナリ、今子華往テ齊ニ使ス、去ル時ニ乘ル所ノ馬肥タリ、其ノ衣ル所ノ裘、輕ク軟ナル則ハ、是レ家富テ、其ノ母乏カラ不、

【經】

吾聞之也、君子周急、不繼富、

吾聞ク、君子ハ急ニ周シテ、富メルニ繼不ト、

【疏】

孔子云、吾聞舊語、夫君子施但周贍人之急者耳、不係繼足人、爲富蓄也

孔子云ク、吾舊語ヲ聞ク、夫レ君子ノ施ハ但人ノ急ニ周シ贍ス者耳、足レル人ニ係ケ繼テ、富メルヲ蓄フコトヲ爲サ不

【注】

鄭玄曰、非冉求與之太多也、

鄭玄カ曰ク、冉求カ之ニ與ルコトノ太<sup>はなは</sup>タ、多コトヲ非<sup>ソシ</sup>ル、

【疏】

非猶譏也、孔子此語、是譏冉求與子華母粟之太多也。然舊說疑之、子華之母爲當定乏、爲當定不乏、若實乏、而子華肥輕、則爲不孝、孔子不多與、是爲不仁、若不乏、而冉求<sup>(三)</sup>有與之則、爲不智、誰爲得失、舊通者云、三人皆得宜也、子華中人、豈容己乘肥馬、衣輕裘、而令母乏、必不能然矣、且夫子明言不繼富則、知其家富也、實富而冉求爲請、與多者、明朋友之親有同己親、既一人不在則、一人宜相共恤故也、今不先直以己粟與之、而先請於孔子者、己若直與則、人嫌子華母有乏、故先請孔子、孔子再與、猶不至多、<sup>(四)</sup>明不係富也、故多與、欲招不繼富之責、是知華母不乏也、華母不乏、而已與之、爲於朋友之義故也、不乏尚與、況乏者乎、<sup>(五)</sup>

非ハ譏ノ猶シ、孔子ノ此ノ語ハ、是レ冉求子華カ母ニ粟ヲ與ルコトノ太<sup>はなは</sup>タ多コトヲ譏<sup>そし</sup>ル。然ルニ舊說ニ之ヲ疑フ、子華カ母當ニ定<sup>さだめ</sup>乏シカル當シトヤ爲<sup>せ</sup>ン、當ニ定メテ乏シカラ不<sup>さ</sup>ル當シトヤ爲<sup>せ</sup>ン、若シ實ニ乏シクシテ、子華肥輕セハ、則チ不<sup>へ</sup>孝ト爲<sup>せ</sup>ン、孔子多ク與ヘ不<sup>さ</sup>ルハ、是レ不<sup>せ</sup>仁ト爲<sup>せ</sup>ン、若シ乏シカラ不<sup>す</sup>シテ、而シテ冉求之ニ與

ルコト有ル則ハ、不<sup>せ</sup>智ト爲<sup>せ</sup>ン、誰<sup>たれ</sup>ヲカ得<sup>え</sup>失ト爲<sup>せ</sup>ン、舊通ノ者云ク、三人皆宜キコトヲ得、子華ハ中人ナリ、豈ニ己<sup>おのれ</sup>肥<sup>お</sup>馬ニ乘リ、輕<sup>かろ</sup>裘ヲ衣テ、而シテ母ヲ令<sup>し</sup>テ乏シカラ令<sup>め</sup>ム容<sup>へ</sup>ケンヤ、必ス然ルコト能ハ不<sup>し</sup>、且<sup>ま</sup>タ夫<sup>そ</sup>子明カニ富メルニ繼カ不<sup>ス</sup>ト言フ則ハ、知ヌ其ノ家富メルナリ、實ニ富テ而シテ冉求請コトヲ爲<sup>な</sup>シテ、與ルコト多キコトハ、朋友ノ親ハ己カ親ニ同コト有ルコトヲ明ス、既ニ一人在ラ不<sup>さ</sup>ル則ハ、一人宜ク相ヒ共ニ恤<sup>あは</sup>ス(恤ム)(恤ム)宜キ故ナリ、今先ツ直ニ己カ粟ヲ以テ之ニ與ヘ不<sup>アハレ</sup>シテ、而シテ先ツ孔子ニ請フコトハ、己若シ直ニ與ル則ハ、人子華カ母乏シキコト有コトヲ嫌<sup>ウタ</sup>ハ、故ニ先ツ孔子ニ請フ、孔子再ヒ與ルニ、猶ヲ多キニ至ラ不<sup>さ</sup>ルコトハ、富メルニ係ケ不<sup>カ</sup>ルコトヲ明ス、故ニ多ク與フルコトハ、富メルニ繼カ不<sup>さ</sup>ルノ責<sup>せ</sup>ヲ招カント欲ス、是レ知ヌ華カ母ノ乏シカラ不<sup>さ</sup>ルコトヲ、華カ母乏シカラ不<sup>ス</sup>、而ルヲ己<sup>おのれ</sup>之ニ與ルコトハ、朋友ノ義ヲ爲<sup>な</sup>ス故ナリ、乏カラ不<sup>さ</sup>ルタモ尚ヲ與フ、況ヤ乏キ者ヲ乎、

【經】

原思爲之宰、  
原思宰爲リ、

【疏】

弟子原憲也、孔子爲魯司寇、有采邑、故使原思爲邑宰也、

弟子原憲ソ、孔子魯ノ司寇爲リ、采邑有リ、故ニ原思ヲ使<sup>シ</sup>テ邑宰爲<sup>タ</sup>ラ使ム、

【注】

苞氏曰、弟子原憲也、思字也、孔子爲魯司寇、以原憲爲家邑宰也、

苞氏カ曰ク、弟<sup>一</sup>子原憲ソ、思ハ字ナリ、孔子魯ノ司寇爲<sup>タ</sup>リ、原憲ヲ以テ家<sup>一</sup>邑ノ宰ト爲<sup>ス</sup>、

【疏】

余見鄭注本云、孔子初仕魯爲中都宰、從中都宰、爲司空、從司空、爲司寇也、

余鄭カ注ノ本ヲ見ルニ云ク、孔子初メ魯ニ仕ヘテ中都ノ宰爲<sup>タ</sup>リ、中都ノ宰從<sup>リ</sup>、司空爲<sup>タ</sup>リ、司空從<sup>リ</sup>、司寇爲<sup>タ</sup>リ、

【經】

與之粟九百、

粟九百ヲ與フ、

【疏】

九百九百斗也、原憲既爲邑宰、邑宰宜得祿、故孔子以粟九百斗、與之也、

九百トハ九百斗ナリ、原憲既ニ邑<sup>一</sup>宰爲<sup>リ</sup>、邑宰ハ宜ク祿ヲ得<sup>タ</sup>宜シ、故ニ孔子粟九百斗ヲ以<sup>モテ</sup>、之<sup>これに</sup>與フ、

【經】

辭、

辭ス、

【疏】

原性廉讓、辭不受粟也、

原カ性廉讓ナリ、辭シテ粟ヲ受ケ不<sup>ス</sup>、

【注】

孔安國曰、九百九百斗也、辭讓不受也、

孔安國カ曰ク、九百ハ九百斗ソ、辭讓シテ受ケ不<sup>ス</sup>、

## 【疏】

漫云九百、而孔必知九百斗者、孔政當嫌九百升爲少、九百斛爲多、故應是斗也、且與粟五秉、亦相類也、

漫<sup>ミタリ</sup>ニ九百ト云フ、而ルヲ孔必ス九百斗ト知ルコトハ、孔政當嫌<sup>マサニキウ</sup>フ九百升ハ少ナリト爲<sup>ス</sup>、九百斛ハ多シト爲<sup>ス</sup>、故ニ是ヲ斗トス應シ、且タ粟五秉ヲ與<sup>アタ</sup>ルト、亦タ相類ス、

## 【經】

子曰母

子ノ曰ク母<sup>のたまは</sup>レ

## 【疏】

原辭不肯受、故孔子止之也、母母辭也、

原辭シテ肯テ受ケ不<sup>ス</sup>、故ニ孔子之ヲ止ム、母<sup>ト</sup>レトハ辭スルコト母<sup>なか</sup>レソ、

## 【注】

孔安國曰、祿法所得當、受無以讓也、

孔安國カ曰ク、祿法ノ當ル得所ヲハ、受テ以テ讓ルコト無シ、

## 【經】

以與爾鄰里鄉黨乎、

爾<sup>なんぢ</sup>カ鄰里鄉黨ニ與ヘヌ乎、

## 【疏】

又恐原憲不肯受、故又說云、汝莫辭、但受之、若無用、當還分與爾鄰里鄉黨也、此是示賢人仕官、潤澤州鄉之教也、

又原憲カ肯テ受ケ不ランコトヲ恐ル、故ニ又說テ云ク、汝辭スルコト莫<sup>なか</sup>レ、但タ之ヲ受ケヨ、若シ用ルコト無ハ、當ニ還テ爾カ鄰里ノ鄉黨二分チ與フ當シ、此ハ是<sup>こ</sup>レ賢人ノ官ニ仕ヘテ、州郷ヲ潤澤スルノ教ヲ示ス、

【注】

鄭玄曰、五家爲鄰、五鄰爲里、萬二千五百家爲鄉、五百家爲黨也、

鄭玄カ曰ク、五<sub>一</sub>家ヲ鄰ト爲<sub>ス</sub>、五<sub>一</sub>鄰ヲ里ト爲<sub>ス</sub>、萬二千五<sub>一</sub>百家ヲ鄉ト爲<sub>ス</sub>、五<sub>一</sub>百家ヲ黨ト爲<sub>ス</sub>、

【疏】

内外互言之耳、鄰里在百里之外、鄉黨在百里之内也、

内<sub>一</sub>外互<sub>たか</sub>ヘテ之ヲ言フ耳、鄰里八百<sub>一</sub>里ノ外ニ在リ、鄉黨八百<sub>一</sub>里ノ内ニ在リ、

- (一) 「請」、武内本作「情」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「鐘」、武内本作「鍾」。下同。
- (四) 「各」下、武内本有「自」字。
- (五) 「一」、武内本無此字。
- (六) 「四」、武内本作「六」。
- (七) 「十」上、武内本有「庾」字。
- (八) 「施」、武内本作「施」。
- (九) 「施」、武内本作「施」。

(一〇) 「藪」、武内本作「藪」。下同。

(一一) 「多」、武内本無此字。

(一二) 「云」、武内本作「曰」。

(一三) 「有」、武内本無此字。

(一四) 「係」、武内本作「繼」。

(一五) 「故」上、武内本有「己」字。

(一六) 「乎」、武内本作「也」。

(一七) 「孔」下、武内本有「子」字。

(一八) 「且」、武内本作「宜」。

【經】

子謂仲弓曰、

子仲弓ヲ謂<sub>カたり</sub>テ曰<sub>ノたまは</sub>ク、

【疏】

此明不以父無德、而廢子之賢也、仲弓父劣、當是于時爲仲弓父劣而不用仲弓、故孔子明言之也、范寧曰、謂非必對言也、

此ハ父ノ德無ヲ以<sub>もて</sub>、子ノ賢ヲ廢セ<sub>さる</sub>不コトヲ明ス、仲弓カ父<sub>一</sub>劣ナリ、當ニ是レ時<sub>ニ</sub>于仲弓父<sub>一</sub>劣ナリトシテ仲弓ヲ用ヒ不<sub>さ</sub>

ルカ爲ニ、故ニ孔子明ニ之ヲ言フ、范寧カ曰ク、謂トハ必  
ス對<sub>レ</sub>言<sub>二</sub>非<sub>一</sub>ス、

## 【經】

犁牛之子騂且角、

犁<sub>一</sub>牛ノ子騂<sub>二</sub>(騂<sub>セ</sub>イ)フシテ且ツ角アリ、

## 【疏】

爲設譬也、犁<sub>二</sub>(<sub>二</sub>)文也、雜文曰犁、或音狸、狸雜文也、或言音  
犁、犁謂耕犁也、騂赤色也、周家所貴也、角角周正、長短  
尺寸合禮也、言假令犁牛、而生好子、色角合禮也

爲ニ譬ヲ設ク、犁ハ文ナリ、雜<sub>一</sub>文ヲ犁ト曰フ、或ハ音ハ  
狸、狸ハ雜<sub>一</sub>文ナリ、或ハ言<sub>二</sub>ハ音ハ犁、犁トハ耕犁ヲ  
謂フ、騂<sub>二</sub>赤<sub>一</sub>色ナリ、周家ニ貴フ所ナリ、角アリトハ角ノ  
周<sub>一</sub>正ニシテ、長<sub>一</sub>短<sub>一</sub>尺<sub>一</sub>寸<sub>一</sub>禮<sub>二</sub>ニ合フ、言<sub>二</sub>ハ假<sub>一</sub>令犁<sub>一</sub>牛ニ  
シテ、好<sub>一</sub>子ヲ生テ、色<sub>一</sub>角禮<sub>二</sub>ニ合ナリ

## 【經】

雖欲勿用、山川其舍諸、

用ルコト勿<sub>レ</sub>ラマク欲スト雖、山<sub>一</sub>川其<sub>レ</sub>舍<sub>二</sub>諸<sub>一</sub>メヤ、

## 【疏】

勿猶不也、舍猶棄也、言犁牛生好子、子既色角悉正、而時  
人或言、此牛出不佳之母、急欲捨棄此牛、而不用、特祭於  
鬼神、則山川百神、豈薄此牛母惡、而棄捨其子、遂不歆饗  
此祭乎、必不捨矣、譬如仲弓之賢、其父雖劣、若遭明王聖  
主、豈爲仲弓父劣、而捨仲弓之賢、不用爲諸侯乎、明必用  
也、故鯀則極死、禹乃嗣興是也、

勿ハ不<sub>レ</sub>猶シ、舍ハ棄<sub>レ</sub>ノ猶シ、言<sub>二</sub>ハ犁<sub>一</sub>牛好<sub>一</sub>子ヲ生ム、  
子<sub>一</sub>既<sub>二</sub>色<sub>一</sub>角<sub>二</sub>悉<sub>一</sub>正シ、而ルヲ時ノ<sub>一</sub>人或ハ言ク、此ノ  
牛佳ナラ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>ルノ母ヨリ出ツトイヒテ、急ニ此ノ<sub>一</sub>牛ヲ捨テ  
棄テ、用ヒ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>ト欲トモ、特ニ鬼<sub>一</sub>神ヲ祭ハ、山<sub>一</sub>川ノ百<sub>一</sub>神、  
豈ニ此ノ牛ノ母ノ惡ヲ薄シテ、而シテ其ノ<sub>一</sub>子ヲ棄テ<sub>レ</sub>捨テ  
テ、遂ニ此ノ<sub>一</sub>祭ヲ歆ケ<sub>レ</sub>饗ケ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>ラン乎、必シモ捨テ不<sub>レ</sub>、譬  
ハ仲弓カ賢ノ如シ、其ノ父劣ナリト雖モ、若シ明<sub>一</sub>王聖<sub>一</sub>主  
ニ遭ハ、豈ニ仲弓カ父ノ劣ナルカ爲ニシテ、而シテ仲弓カ  
賢ヲ捨テ、用テ諸侯ト爲<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>ランヤ、必<sub>一</sub>用インコトヲ明  
ス、故ニ鯀ハ極<sub>一</sub>死シテ、禹ハ乃チ嗣<sub>一</sub>ト興<sub>レ</sub>ルトイフはナ  
リ、

【注】

犁雜文也、騂赤色也、角者、角周正中犧牲也、雖欲以其所生犁、而不用、山川寧肯捨之乎、言父雖不善、不害於其子之美也、

犁ハ雜一<sup>セ</sup>文、騂ハ赤一<sup>セ</sup>色ナリ、角アリトハ、角周正ニシテ犧牲ニ中ルソ、其ノ生ム所ノ犁<sup>アタ</sup>（犁）ナルヲ以テ、用ヒ不ラマク欲スト雖<sup>いへども</sup>、山川寧口肯テ之ヲ捨ンヤ、言ハ<sup>マタラ</sup>父不<sup>シ</sup>善ナリト雖モ、其ノ子ノ美ヲ害セ不<sup>シ</sup>、

【疏】

然周禮牧人職云、凡陽祀用騂牲毛之、陰祀以黝牲毛之、望祀各以其方之色牲毛之、鄭云、陽祀祭南郊及宗廟也、陰祀祭北郊地及社稷也、望祀五嶽、四鎮、四瀆也、然今云山川者、趣舉言之也、若南方則用赤、是有其方色也、且既云山川、則宗廟亦可知、亦互之也、

然ルニ周禮ノ牧人職ニ云ク、凡ソ陽一<sup>シ</sup>祀ニハ騂一<sup>シ</sup>牲ヲ用テ之ヲ毛ニス、陰一<sup>シ</sup>祀ニハ黝一<sup>シ</sup>牲ヲ以テ之ヲ毛ニス、望一<sup>シ</sup>祀ニハ各其ノ方ノ色ノ牲ヲ以テ之ヲ毛ニス、鄭カ云ク、陽一<sup>シ</sup>祀ニハ南一<sup>シ</sup>郊及ヒ宗一<sup>シ</sup>廟ヲ祭ル、陰一<sup>シ</sup>祀ニハ北一<sup>シ</sup>郊ノ地及ヒ社一<sup>シ</sup>稷ヲ祭ル、望一<sup>シ</sup>祀ニハ五一<sup>シ</sup>嶽、四一<sup>シ</sup>鎮、四一<sup>シ</sup>瀆ナリ、然レハ今山一<sup>マ</sup>

川ト云コトハ、趣ヲ舉テ之ヲ言フ、若シ南方ナラハ赤ヲ用フ、是レ其ノ方ノ色有リ、且タ既ニ山一<sup>マ</sup>川ト云フ、則ハ宗一<sup>マ</sup>廟モ亦タ知ヌ可シ、亦之ヲ互ニス、

- (一) 「犁」下、武内本有「牛」字。
- (二) 「言」、武内本無此字。
- (三) 「極」、武内本作「極」。
- (四) 「祭」下、武内本有「天於」二字。
- (五) 「北郊地」、武内本作「地北郊」。

【經】

子曰、回也、其心三月不違仁、

子ノ曰ク、回ハ、其ノ心三月マテ仁ニ違ハ不<sup>ハ</sup>、

【疏】

仁是行盛、非體仁則不能、不能者、心必違之、能不違者、唯顏回耳、既不違則應終身、而止舉三月者、三月一時、爲天氣一變、一變尚能行之則、他時能可知也、亦欲引汲、故不言多時也、故苞云、顏子不違仁、豈但一時、將以勗群子之志、故不絕其階耳、



仁ハ是レ行ノ盛ナルモノナリ、仁ヲ體スルニ非ル則ハ能ハス、能ハ不<sup>ス</sup>ル者ハ、心必ス之ニ違フ、能ク違ハ不<sup>ス</sup>ル者ハ、唯タ顔回耳ナリ、既ニ違ハ不<sup>ス</sup>ル則ハ身ヲ終フ應シ、而ルヲ止タ三月ヲ舉ルコトハ、三月ハ一時ナリ、天ノ氣一變ト爲<sup>ス</sup>、一變スルマテニ尚<sup>ナ</sup>ヲ能ク之ヲ行フ則ハ、他ノ時モ能クスルコト知ヌ可シ、亦引<sup>レ</sup>汲セント欲ス、故ニ多<sup>シ</sup>時ヲ言ハ不<sup>ス</sup>、故ニ苞<sup>□</sup>云ク、顔子仁ニ違ハ不<sup>ス</sup>ルコト、豈ニ但タ二一時ノミナランヤ、將ニ群<sup>ニ</sup>子ノ志ヲ勗ケント<sup>(勗メント)</sup>將<sup>ス</sup>、故ニ其ノ階ヲ絶セ不<sup>ス</sup>ル耳、

## 【經】

其餘、則日月至焉而已矣、

其ノ餘ハ、則チ日<sup>ひ</sup>月<sup>つき</sup>ニ至ル而<sup>レ</sup>已<sup>ミ</sup>、

## 【疏】

其餘、謂他弟子也、爲仁竝不能一時、或至一日、或至一月、故云日月至焉而已矣<sup>(三)</sup>也、

其ノ餘トハ、他ノ弟子ヲ謂フ、仁ヲ爲ルコト竝ニ一時ナルコト能ハ不<sup>ス</sup>、或ハ一日ニ至リ、或ハ一月ニ至ル、故ニ日<sup>ひ</sup>月<sup>つき</sup>ニ至ル而<sup>レ</sup>已<sup>ミ</sup>矣ト云フ、

## 【注】

言餘人、暫有至仁時、唯回移時、而不變也、

言ハ餘人ハ、暫ク仁ニ至ル時有リ、唯<sup>タ</sup>回ハ時ヲ移シテモ、變セ不<sup>ス</sup>、

## 【疏】

既言三月不違、不違故知移時也、

既ニ言<sup>のたまは</sup>ク三月マテニ違ハ不<sup>ス</sup>ト、違ハ不<sup>ス</sup>ルカ故ニ時ヲ移スコトヲ知ル、

(一) 空格、武内本有「述」字。

(二) 「矣」、武内本無此字。

## 【經】

季康子問、仲由可使從政也與、

季康子問ハク、仲由ヲハ政<sup>まつりごと</sup>ニ從ハ使<sup>し</sup>メツ可シヤ、

## 【疏】

仲由子路也、魯卿季康子問孔子云<sup>(二)</sup>、子路可使從政爲官長諸

侯不也、

仲由ハ子路ナリ、魯ノ卿季康子孔子ニ問テ云ク、子路ヲハ政ニ從テ諸侯ニ官<sup>タ</sup>長爲<sup>タ</sup>ラ使メツ可シヤ不<sup>イナ</sup>ヤ、

【經】

子曰由也果、

子ノ曰ク由ハ果ナリ、

【疏】

答康子說子路才行可爲政也、言子路才性、果敢能決斷也、

康子ニ答テ子路カ才行ノ政ヲ爲<sup>ス</sup>可キコトヲ說ク、言ハ子路カ才性、果<sup>ト</sup>敢ニシテ能ク決斷ナリ、

【注】

荀氏曰、果謂果敢決斷也、

荀氏カ曰ク、果トハ果<sup>ト</sup>敢ニシテ決斷スルヲ謂フソ、

【經】

於從政乎何有、

政ニ從フニ於テ何カ<sup>ナ</sup>有ラン、

【疏】

既解決斷則、必能從政也、何有、言不足有也、故衛瓘<sup>ニ</sup>云、何有者、有餘力也、

既ニ決斷スルコトヲ解<sup>ト</sup>ク則ハ、必ス能ク政ニ從ハン、何カ<sup>ナ</sup>有ラントハ、言<sup>イハ</sup>ハ有リトスルニ足ラ<sup>ス</sup>不<sup>サ</sup>ルソ、故ニ衛瓘カ云ク、何カ<sup>ナ</sup>有ラントハ、餘力有ルソ、

【經】

曰賜也可使從政也與、

曰<sup>イハ</sup>ク賜ヲハ政ニ從ハ使メツ可シヤ、

【疏】

又問孔子云<sup>ニ</sup>、子貢可使從政不也、

又孔子ニ問テ云ク、子貢ヲハ政ニ從ハ使メツ可シヤ不<sup>イナ</sup>ヤ、

【經】

子曰、賜也達、

子ノ曰ク、賜ハ達ナリ、

【疏】

亦答才能也、言賜能達於物理也、

亦才<sub>一</sub>能ヲ答フ、言ハ賜ハ能ク物<sub>一</sub>理ニ達ス、

【注】

孔安國曰、達謂通於物理也、

孔安國カ曰ク、達トハ物<sub>一</sub>理ニ通スルヲ謂フソ、

【經】

於從政乎何有、

政ニ從ニ於テ何カ<sub>一</sub>有ラン、

【疏】

既達物理、故云亦何有也、

既ニ物<sub>一</sub>理ニ達ス、故ニ亦何カ<sub>一</sub>有ラント云フ、

【經】

曰求也可使從政也與、

曰ク求<sub>イハ</sub>ヲハ政ニ從ワ使メツ可シ與<sub>ヤ</sub>、

【疏】

又問孔子云<sub>四</sub>、冉求何如、又孔子ニ問テ云ク、冉求ハ何<sub>イカン</sub>如、

【經】

曰求也藝、

曰<sub>ノたまは</sub>ク求ハ藝アリ、

【疏】

又答才能也、言求多才能也、

又才<sub>一</sub>能ヲ答フ、言ハ求ハ才<sub>一</sub>能多シ、

【注】

孔安國曰、藝謂多才能也、

孔安國カ曰ク、藝トハ才能多キヲ謂フ、

【經】

於從政乎何有、

政ニ從フニ於何カ<sup>おいてなん</sup>有ラン、

【疏】

何有、才能、故云亦何有也、

何カ<sup>なん</sup>有ラントハ、才能アリ、故ニ云ク<sup>のたまは</sup>亦何カ<sup>なん</sup>有ラン、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「何」、武内本無此字。

【經】

季氏使閔子騫爲費宰

季氏閔子騫ヲ使<sup>して</sup>費ノ宰<sup>タ</sup>爲<sup>ら</sup>ラ使<sup>とも</sup>

【疏】

弟子閔損也、費邑也、季氏菜邑也、時季氏邑宰叛、聞閔子騫賢、故遣使召之、爲費宰也、

弟<sup>イ</sup>子閔損ナリ、費ハ邑ナリ、季氏カ菜<sup>ソム</sup>邑ナリ、時ニ季氏カ邑<sup>イ</sup>宰<sup>サマ</sup>叛ク、閔子騫カ賢ナルコトヲ聞ク、故ニ使<sup>つか</sup>ヲ遣ハシテ之ヲ召シテ、費ノ宰<sup>サマ</sup>爲<sup>ら</sup>ラ遣ム、

【注】

孔安國曰、費季氏邑也、季氏不臣、

孔安國カ曰ク、費ハ季氏カ邑ナリ、季氏不<sup>レ</sup>臣ニシテ、

【疏】

強僭於魯、故曰不臣也、

魯ニ強<sup>レ</sup>僭ス、故ニ不<sup>レ</sup>臣ト曰フ、

【注】

而其邑宰數叛、

其ノ邑一宰シハシハ數ソム一叛ク、

【疏】

其邑宰、即公山不擾也、亦賢人也、見季氏惡、故叛也、所  
以後引云、公山不擾以費叛、召子、欲往、是也、

其ノ邑一宰トハ、即チ公一山不擾ナリ、亦賢一人ナリ、季氏  
カ惡ヲ見ル、故ニ叛ク、所以ニ後ニ引テ云ク、公山不擾  
費ヲ以叛ク、子ヲ召ス、往カマク欲ストイフ、是ナリ、

【注】

聞閔子騫賢、故欲用也、

閔子騫カ賢ナルコトヲ聞きこ、故ニ用ヒマク欲ス、

【經】

閔子騫曰、善爲我辭焉、

閔子騫カ曰ク、善ク我カ爲ニ辭セヨ、

【疏】

子騫賢、不願爲惡人爲宰、故謂季氏之使者云、汝還可善好  
爲我作辭、辭於季氏道我不欲爲宰之意也、

子騫ハ賢ナリ、惡一人ノ爲ニ宰爲ランコトヲ願ハ不ず、故ニ  
季氏カ使者ニ謂テ云ク、汝還テ善ヨク我カ爲ニ辭ヲ作つく  
テ、季氏ニ辭シテ我カ宰爲ランコトヲ欲セ不まルノ意ヲ道  
フ可シ、

【注】

孔安國曰、不欲爲季氏宰、語使者曰、善爲我作辭說、令不  
復召我也、

孔安國カ曰ク、季氏カ宰爲ランコトヲ欲セ不ず、使者ニ語  
テ曰ク、善ク我カ爲ニ辭說ヲ作つくテ、復我ヲ召サ不まラ令メ  
ヨ、

【經】

如有復我者、

如シ我ヲ復またタスルコト有ラハ、

【疏】

復又也、子鶯(四)云、汝若不能爲我作善辭、而令有使又來召我者、語在下也、

復ハ又ナリ、子鶯カ云ク、汝なんぢ若シ我カ爲ニ善辭ヲ作スコト能ハ不シテ、而シテ使有テ又タ來テ我ヲ召サ令メハ、語ハ下ニ在リ、

【注】

孔安國曰、復我者、重來召我也、

孔安國カ曰ク、我ヲ復またタスルトハ、重ネテ來テ我ヲ召スソ、

【經】

則吾必在汶水上矣、

吾必ス汶水ノ上ホトリニ在ラン、

【疏】

汶水名也、汶在魯北齊南、子鶯時在魯謂使者云、若又來召我、我當北渡汶水之上、往入齊也、

汶ハ水ノ名ナリ、汶ハ魯ノ北齊ノ南ニ在リ、子鶯時ニ魯ニ在テ使し者ニ謂テ云ク、若シ又來テ我ヲ召サハ、我當ニ北カタ汶水ノ上ホトリヲ渡テ、往テ齊ニ入ル當シ、

【注】

孔安國曰、去之汶水上、欲北如齊也、

孔安國カ曰ク、去テ汶水上ニ之ホトリテ、北カタ齊ニ如カマク欲ス、

(一) 「數」、武内本無此字。

(二) 「可善」、武内本無此二字。

(三) 「作」、武内本無此字。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「又」、武内本作「人」。

(六) 「水」、武内本無此字。

【經】

伯牛有疾、

伯牛やまひあり疾有、

【疏】

伯牛弟子冉耕字也、魯人、有疾、時其有惡疾也、

伯牛ハ弟子冉耕カ字、魯人ナリ、疾有リトハ、時ニ其  
レ惡疾有ルソ、

【注】

馬融曰、伯牛弟子冉耕也、

馬融カ曰ク、伯牛ハ弟子冉耕ソ、

【經】

子問之、

子之ヲ問フ、

【疏】

孔子往問伯牛之疾差不也、

孔子往テ伯牛カ疾差ルヤ不ヤト問フ、

【經】

自牖執其手、

牖自リ其ノ手ヲ執テ、

【疏】

牖南窓也、君子有疾、寢於北壁下、東首、今師來、故遷出  
南窓下、亦東首、令師從戸入於床北、得面向南也、孔子恐  
其惡疾不欲見人、故不入戸、但於窓上、而執其手也、牖ハ南窓ナリ、君子疾有ルトキハ、北壁ノ下ニ寢テ、  
東首ス、今師來ル、故ニ遷テ南窓ノ下ニ出テテ、亦東  
首シテ、師令テ戸從リ床ノ北ニ入レテ、面南ニ向コトヲ  
得令ム、孔子其ノ惡疾ノ人ヲ見シコトヲ欲セ不ランコト  
ヲ恐ル、故ニ戸ニ入ラ不シテ、但タ窓上ニ於テ、而シテ  
其ノ手ヲ執ル、

【注】

荀氏曰、牛有惡疾、不欲見人、故孔子從牖執其手也、

荀氏カ曰ク、牛惡疾有リ、人ヲ見シコトヲ欲セス、故ニ  
孔子牖從リ其ノ手ヲ執ル、

【經】

曰亡之、

ノたまは  
曰ク亡ナンカ、

【疏】

亡喪也、孔子執牛手而云、喪之、言牛必死也、

亡ハ喪ナリ、孔子牛カ手ヲ執テ云ク、喪ナンカト、  
いふころ  
言ハ牛必ス死セン、

【注】

孔安國曰、亡喪也、疾甚、故持其手曰喪也、

孔安國カ曰ク、亡ハ喪、疾甚シ、故ニ其ノ手ヲ持テ曰ク喪ナンカ、  
ノたまは

【經】

命矣夫、

命ナル矣夫、  
カナ

【疏】

亦是不幸之流也、言如汝才德、實不應死、而今喪之、豈非稟命之得矣夫、矣夫助語也、

亦タ是レ不幸ノ流ナリ、言ハ汝カ才德ノ如ハ、實ニ死ス應ラ不、而ルヲ今喪ナンカ、豈ニ命ヲ稟ルコトヲ得ルニ非ランヤ、矣夫ハ助ノ語ナリ、  
タクひ  
いふころ  
ことしき

【經】

斯人也而有斯疾也、斯人也而有斯疾也、

斯ノ人ニシテ斯ノ疾有ルコト、斯ノ人ニシテ斯ノ疾有ルコト、  
やまひ  
やまひ

【疏】

斯此也、言有此善人、而嬰此之惡疾、疾與人反、故歎之也、再言之者、痛歎之深也、

斯ハ此ナリ、言ハ此ノ善人ニシテ、此ノ惡疾ヲ嬰（嬰）ルニ有ルコト、疾人與反ス、故ニ之ヲ歎ス、再ヒ之ヲ言フコトハ、痛ミ歎スルコトノ深ナリ、  
やまひ  
ト  
カカル



【注】

苞氏曰、再言之者、痛惜之甚也、

苞氏カ曰ク、再ヒ之ヲ言フコトハ、痛ミ惜ムコトノ甚シキナリ、

(一) 「寢」、武内本作「寐」。

(二) 「向」、武内本無此字。

(三) 「牛」、武内本作「其」。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、賢哉回也、

子ノ曰ク賢ナル哉回、

【疏】

美顏淵之賢行、故先言賢哉回也、

顏淵カ賢行ヲ美ム、故ニ先ツ賢ナル哉回ト言フ、

【經】

一簞食一瓢飲、

一簞ノ食一瓢ノ飲シテ、

【疏】

簞竹筥之屬也、用貯飯、瓢匏片也、持盛飯也、言顏淵食不重饒、及無雕鏤之器、唯有一簞飯、一瓢飲而已也、

簞ハ竹筥ノ屬、用テ飯ヲ貯フ、瓢ハ匏片ナリ、持テ飯ヲ盛ル、言ハ顏淵ハ食饒ヲ重ンセ不、及ヒ雕鏤ノ器ノ無し、唯タ一簞ノ飯、一瓢ノ飲有ルラク而已、

【注】

孔安國曰、簞筥、

孔安國カ曰ク、簞ハ筥、

【疏】

以竹爲之、如箱篋之屬也

竹ヲ以之ヲ爲ス、箱篋ノ屬ノ如シ

【注】

瓢瓠也、

瓢ハ瓠、

【經】

在陋巷、

陋巷ニ在リ、

【疏】

不顧爽塏、而居處之、在窮陋之巷中也、

爽（爽）<sup>ガイ</sup>塏<sup>ガイ</sup>ヲ顧<sup>かへりみ</sup>、居リ處<sup>ス</sup>ラ不、窮陋ノ巷<sup>イサキヨシ</sup>中ニ在  
リ、

【經】

人不堪其憂、

人ハ其ノ憂ニ堪ヘ<sup>ス</sup>不、

【疏】

凡人以此爲憂、而不能處、故云、不堪其憂也、

凡<sup>およそ</sup>ノ人ハ此ヲ以テ憂<sup>シ</sup>ト爲<sup>テ</sup>、處<sup>ヲ</sup>ルコト能ハ<sup>ス</sup>不、故ニ云<sup>ノたまは</sup>

【經】

回也不改其樂、

回ハ其ノ樂ヲ改メ<sup>ス</sup>不、

【疏】

顏回以此爲樂、久而不變、故云不改其樂也、

顏回ハ此ヲ以テ樂ト爲、久シケレ<sup>トモ</sup>而變セ<sup>ス</sup>不、故ニ云ク  
其ノ樂ヲ改メ<sup>ス</sup>不、

【經】

賢哉回也、

賢ナル<sup>カ</sup>哉<sup>カ</sup>回、

【疏】

美其樂道情篤、故始末言賢也、

其ノ道ヲ樂ム情ノ篤キコトヲ美ム、故ニ始末ニ賢ト言フ、

【注】

孔安國曰、顏淵樂道、雖簞食在陋巷、不改其所樂也、

孔安國カ曰ク、顏淵ハ道ヲ樂ム、簞<sup>シ</sup>食シテ陋巷ニ在リト

雖モ、其ノ樂ム所ヲ改メ<sup>ナ</sup>不、

【疏】

所樂、即謂道也、

樂ム所トハ、即チ道ヲ謂フ、

(一) 「匏」、武内本作「瓠」。

(二) 「持」上、武内本有「瓠」字。

(三) 「飯」、武内本作「飲」。

(四) 「雕」、武内本作「彫」。

(五) 「飯」、武内本作「食」。

(六) 「也」、武内本無此字。

(七) 「箒」下、武内本有「也」字。

(八) 「故」下、武内本有「歎」字。

(九) 「即」、武内本作「則」。

【經】

冉求曰、非不悅子之道、力不足也、

冉求カ曰ク、子ノ道ヲ悅ヒ<sup>キ</sup>不ルニハ非ス、力ノ足ラ不レハナリ、

【疏】

冉求<sup>(二)</sup>諸孔子云、求之心、誠非不喜悅夫子之道、而欲行之、只才力不足、無如之何也、

冉求孔子ニ<sup>ト</sup>諸ツテ云ク、求カ心、誠ニ夫子ノ道ヲ喜悅セ<sup>キ</sup>不ルニハ非ス、之ヲ行ハント欲スルニ、只才力足ラ不<sup>ナ</sup>シテ、之如何トモスルコト無シ、

【經】

子曰、力不足者中道而廢、

子ノ<sup>のたまは</sup>曰ク、力足ラ不<sup>チカラ</sup>ンハ中道ニシテ廢<sup>スタ</sup>レナン、

【疏】

孔子抑冉求無企慕之心也、言汝但學不行之矣、若行之而力不足者、當中道而廢任耳、莫發初自誠不能行也、

孔子冉求力企テ慕フノ心無コトヲ抑フ、言ハ汝但ニ學ヒ行ハ不、若シ之ヲ行テ力足ラ不シハ、當ニ中道ニシテ廢任ス當キ耳、發初ヨリ自誠ニ行フコト能ハ不トイフコト莫シ、

【經】

今汝畫、

今汝畫ス、

【疏】

畫止也、汝今云力不足、非力不足矣、是汝自欲止耳、

畫ハ止ナリ、汝今力足ラ不ト云フ、力ノ足ラ不ルニハ非ス、是レ汝自止ト欲スル耳、

【注】

孔安國曰、畫止也、力不足者、當中道而廢、今汝自止耳、

非力極也、

孔安國カ曰ク、畫ハ止ナリ、力足ラ不シハ、當ニ中道ニシテ廢ル當シ、今汝自止ラク耳、力ノ極ムルニ非ス、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「任」、武内本作「住」。

(三) 「非力不足」、武内本無此四字。

【經】

子謂子夏曰、汝爲君子儒、無爲小人儒、

子子夏ニ謂テ曰ク、汝君子ノ儒ヲ爲ヨ、小人ノ儒ヲ爲コト無レ、

【疏】

儒者濡也、夫習學事、久則濡潤身中、故謂久習者爲儒也、且君子所習者、道、道是君子儒也、小人所習者矜誇、矜誇是小人儒也、孔子語子夏云、當爲君子儒、不得習爲小人儒也、

儒ハ濡ナリ、夫レ習ヒ學フ事、久キ則ハ身中ヲ濡潤

ス、故ニ久ク習フ者ヲ謂テ儒ト爲、且タ君子ノ習フ所ハ、道ナリ、道ハ是レ君子ノ儒ナリ、小人ノ習フ所ハ矜<sup>ケラ</sup>誇ナリ、矜<sup>ノたまは</sup>誇ハ是レ小人ノ儒ナリ、孔子子夏ニ語テ云ク、當ニ君子ノ儒ヲ爲<sup>ス</sup>當シ、習テ小人ノ儒ヲ爲ルコトヲ得<sup>ス</sup>不、

## 【注】

君子爲儒、將以明其道、小人爲儒、則矜其名也、

君子ノ儒ヲ爲ルハ、將ニ其ノ道ヲ明サント將、小人ノ儒ヲ爲ルハ、其ノ名ニ矜<sup>ホコ</sup>ル、

(一) 「且」、武内本作「但」。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「君」上、武内本有「馬融曰」三字。

## 【經】

子游爲武城宰

子游武城ノ宰爲<sup>タ</sup>リ

## 【疏】

弟子子游也、時爲武城邑宰也、

弟子子游ソ、時ニ武城ノ邑宰爲<sup>タ</sup>リ、

## 【注】

苞氏曰、武城魯下邑也、

苞氏カ曰ク、武城ハ魯ノ下邑ナリ、

## 【經】

子曰、汝得人焉耳乎哉、

子ノ曰<sup>のたまは</sup>ク、汝人ヲ得タリヤ焉<sup>なんぢ</sup>耳乎哉、

## 【疏】

孔子問子游言、汝作武城宰而武城邑民、有好德行之人爲汝所得者不平、故云、汝得人焉耳乎哉、故袁氏云、謂得其邦之賢才不也、

孔子子游ニ問テ言<sup>のたまは</sup>ク、汝武城ノ宰ト作<sup>なり</sup>テ武城ノ邑民、德<sup>のたまは</sup>行ヲ好ムノ人汝カ爲ニ得<sup>なんぢ</sup>ラ所ル者有リヤ不ヤ、故ニ云ク、汝人ヲ得タリヤ焉<sup>なんぢ</sup>耳乎哉、故ニ袁氏カ云ク、其ノ邦ノ賢才ヲ得タリヤ不ヤト謂フ、

【注】

孔安國曰、焉耳乎哉皆辭也、

孔安國カ曰ク、焉耳乎哉ハ皆ナ辭ソ、

【疏】

皆是送句之辭也、

皆ナ是レ送句ノ辭ナリ、

【經】

曰、有儋臺滅明者、行不由徑、

曰ク、儋臺滅明トイフ者有リ、行クトキニ徑ニ（徑ニ）由  
ラヌ、

【疏】

答爲宰而所得邑中之人也、儋臺滅明亦孔子弟子也、言滅明  
每事方正、故行出皆不邪徑於小路也、一云、滅明德行方  
正、不爲邪徑小路行也、

宰ト爲テ得ル所邑中ノ人ヲ答フ、儋臺滅明ハ亦孔子ノ弟

子ナリ、言ハ滅明事毎ニ方一正ナリ、故ニ行キ出ルト  
キニ皆小路ニ邪徑セ不、一ニ云ク、滅明カ德行方一正ナ  
リ、邪徑小路ノ行ヲ爲不、

【經】

非公事、未嘗至於偃之室也、

公事ニ非レハ、未タ嘗テ（嘗ヨリ）偃カ室ニ至ラ未、

【疏】

公事、其家課税也、偃子游名也、偃之室、謂子游所住邑之  
廨舍也、子游又言、滅明既方可、若非非公税之事、則不嘗  
無事至偃住處也、舉其明不託狎倚勢於朋友也、

公事トハ、其ノ家ノ課税ナリ、偃ハ子游カ名ナリ、偃カ  
室トハ、子游カ住スル所ノ邑ノ廨舍ヲ謂フ、子游又タ言  
ク、滅明ハ既ニ方一可ナリ、若シ常ニ公税ノ事ニ非ル、  
則ハ嘗テ無事ニシテ偃カ住處ニ至ラ不、舉テ其ノ勢ニ  
倚テ朋友ニ託狎セ不ルコトヲ明ス、

【注】

苞氏曰、儋臺姓、滅明名也、字子羽。言其公且方也、

苞氏カ曰ク、儋臺ハ姓、滅明ハ名ナリ、字ハ子羽。言ハ其  
レ公ニシテ且ツ方ナリ、

【疏】

公謂非公事、不至偃室、方謂不由徑

公トハ公事ニ非サレハ、偃力室ニ至ラ不ルヲ謂フ、方ト  
ハ徑ニ由ラ不ルヲ謂フ

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「皆是送句之辭也」、武内本無此七字。

(三) 「於」、武内本無此字。

(四) 「可」、武内本作「正」。

【經】

子曰、孟之反不伐、

子ノ曰ク、孟之反伐ラ不<sup>ホコ</sup>す、

【疏】

魯臣也、不伐、謂有功不自稱也、

魯ノ臣ナリ、伐ラ不トハ、功有テ自<sup>ミツカラ</sup>稱セ不ルヲ謂フ、

【注】

孔安國曰、魯大夫孟之側也、與齊戰、軍大敗、不伐者不自  
伐其功也、

孔安國カ曰ク、魯ノ大夫孟之側ソ、齊與戰フトキニ、軍  
大ニ敗ル、伐ラ不トハ自<sup>ミツカラ</sup>其ノ功ニ伐ラ不ルソ、

【疏】

此不伐之源、魯哀公十一年、魯帥及齊師、戰于郊之事也、  
見春秋也、余見鄭注本、姓孟。名之側。字子反也、

此レハ伐ラ不ルノ源ナリ、魯ノ哀公十一年ニ、魯ノ帥  
齊ノ師及<sup>イサト</sup>、郊ニ戰フノ事ナリ、春秋ニ見ヘタリ、余鄭カ  
注ノ本ヲ見ルニ、姓ハ孟。名ハ之側。字ハ子反、

【經】

奔而殿、

奔ルトキニ而<sup>シテ</sup>殿タリ、

【疏】

此不伐之事也、軍前曰啓、軍後曰殿、于時魯與齊戰、魯軍大敗、退奔、而孟之側獨住軍後爲殿、以捍衛奔者、故曰奔而殿也、

此レハ伐ラ不ルノ事ナリ、軍ノ前ヲ啓ト曰ヒ、軍ノ後ヲ殿ト曰フ、時于魯齊與戰フ、魯ノ軍大ニ敗レテ、退キ奔ルトキニシテ、孟之側獨リ軍ノ後ニ住テ殿ト爲テ、奔ル者ヲ捍<sup>フセ</sup>キ衛ル、故ニ奔ルトキニ而殿タリト曰フ、

【經】

將入門策其馬

將ニ門ニ入ラント將ルトキニ其ノ馬ニ策<sup>むちうち</sup>テ

【疏】

門魯國門也、策杖也、初敗奔時、在郊去國門遠、孟之側在後、及還將至入國門、而孟之側杖馬、令在奔者前也。然六籍唯用馬乘車、無騎馬之文、唯又曲禮云、前有車騎、是騎馬耳、今云策其馬、不知爲馬、爲乘車也、

門ハ魯ノ國門ナリ、策ハ杖ナリ、初メ敗レテ奔ル時ニ、

郊ニ在テ國門ヲ去ルコト遠シ、孟之側後ニ在テ、還テ將

ニ至テ國門ニ入ント將ルニ及テ、孟之側馬ニ杖ツテ、奔ル者ノ前ニ在ラ令ム。然シテ（然ルニ）六籍ニ唯タ馬ヲ用テ車ニ乘ス、馬ニ騎ルノ文無シ、唯タシ又タ曲禮ニ云ク、前ニ車ニ騎有リトイフ、是ハ馬ニ騎ル耳、今其ノ馬ニ策ト云フ、知ラ不馬トヤ爲ン、車ニ乗ルトヤ爲ン、

【經】

曰非敢後也、馬不進也、

曰ク敢テ後レタルニ非ス、馬ノ進マ不レハナリ、

【疏】

其既在後、而國人皆迎之、謂正有功、己不欲獨受其功、將入門、杖馬而云、我非敢在後距敵、政是馬行不進、故在後耳、所以杖馬、示馬從來不進也、

其レ既ニ後ニ在リ、而シテ國人皆之ヲ迎ヘテ、正ニ功有リト謂フ、己獨リ其ノ功ヲ受ケンコトヲ欲セ不、將ニ門ニ入ラント將ルトキニ、馬ニ杖テ云ク、我敢テ後ニ在テ敵ヲ距クニ非、政ニ是レ馬ノ行テ進マ不レハナリ、故ニ



後<sup>しりへ</sup>ニ在ルヲク耳、馬ニ杖<sup>よう</sup>ツ所以ハ、馬ノ從<sup>しりへ</sup>來進マ不<sup>き</sup>ルコトヲ示ス、

【注】

馬融曰、殿在軍後者也、前曰啓、後曰殿、

馬融カ曰ク、殿ハ軍<sup>いん</sup>ノ後<sup>しりへ</sup>ニ在ル者ナリ、前ニアルヲ啓ト曰ヒ、後ニアルヲ殿ト曰フ、

【注】

孟之反賢而有勇、軍大奔、獨立<sup>③</sup>後爲殿、

孟之反賢ニシテ勇有リ、軍大ニ奔ルトキニ、獨<sup>ひとり</sup>後<sup>しりへ</sup>ニ立テ殿爲<sup>タ</sup>リ、

【疏】

故停軍後、爲捍敵也、

故<sup>ゆゑ</sup>軍<sup>いん</sup>後<sup>しりへ</sup>ニ停<sup>た</sup>テ、爲<sup>な</sup>ニ敵<sup>てき</sup>ヲ捍<sup>フセ</sup>ク、

【注】

人迎爲功之、

人迎ヘテ功ト爲<sup>ス</sup>、

【疏】

在國人、迎軍見其在後、而爲謂之有功、故云功之也、

國ニ在ルノ人、軍ヲ迎ヘテ其ノ後<sup>しりへ</sup>ニ在ルヲ見テ、之ヲ謂テ功有リト爲<sup>ス</sup>、故ニ功ト云フ、

【注】

不欲獨有其名、故云、我非敢在後距敵也、馬不能前進耳、

獨<sup>ひとり</sup>リ其ノ名有<sup>ナ</sup>アランコトヲ欲セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ云ク、我敢テ後<sup>しりへ</sup>ニ在<sup>ナ</sup>テ敵<sup>てき</sup>ヲ距<sup>あは</sup>クニ非<sup>ズ</sup>、馬ノ前<sup>まへ</sup>ニ進ムコト能ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>ル耳、

【疏】

前猶進也、

前ハ進<sup>ことし</sup>ノ猶、

(一) 「于」、武内本無此字。

(二) 「將」上、武内本有「故」字。

(三) 「立」、武内本作「在」。

【經】

子曰、不有祝鮀之佞、而有宋朝之美、難乎免於今之世矣、

子ノ曰ク、祝鮀カ佞有ラ不シハ（不シテ）、宋朝カ美有ラン（有ラハ）、難イ乎今ノ世ニ免ルコト、

【疏】

祝鮀能作佞也、宋朝宋國之美人、善能姪慾者也、當于爾時、貴佞重姪、此二人竝有其事、故得寵幸、而免患難、故孔子云、言人若不有祝鮀佞、反宜有宋朝美、若二者竝無則、難免今世之患難也、故范寧云、祝鮀以佞諂、被寵於靈公、宋朝以美色、見愛於南子、無道之世、竝以取容、孔子惡時民濁亂、唯佞色是尚、忠正之人不容其身、故發難乎之談、將以激亂俗也、亦欲發明君子全身遠害也、

祝鮀ハ能ク佞ヲ作ス、宋朝ハ宋國ノ美人ナリ、善能姪慾ナル者ナリ、爾時ニ當テ、佞ヲ貴ヒ姪ヲ重ス、此ノ二人竝ニ其ノ事有リ、故ニ寵幸ヲ得テ、患難ヲ免ル、故ニ孔子ノ云ク、言ハ人若シ祝鮀カ佞有ラ不シハ、反テ宜ク宋朝カ美有ル宜シ、若シニツノ者竝ニ無クン則、今ノ世ノ患難ニ免ルコト難ラン、故ニ范寧カ云ク、祝鮀ハ佞諂ヲ以テ寵ヲ靈公ニ被ル、宋朝ハ美色ヲ以、南子

ニ愛セ見ル、無道ノ世ニ、竝ニ容レラルルコトヲ取ル、孔子時ノ民ノ濁亂ニシテ、唯タ佞色是ヲ尚テ、忠正ノ人ノ其ノ身ヲ容レラレ不コトヲ惡ム、故ニ難イ乎ノ談ヲ發シテ、將ニ亂俗ヲ激サント將、亦君子ノ身ヲ全シテ害ヲ遠ルコトヲ發明セント欲ス、

【注】

孔安國曰、佞口才也、祝鮀衛大夫。名子魚也、時世貴之、

孔安國カ曰ク、佞ハ口才ソ、祝鮀ハ衛ノ大夫。名ハ子魚、時世之ヲ貴フ、

【疏】

貴其能佞也

其ノ能ク佞ナルコトヲ貴フ

【注】

宋朝宋國之美人也、而善姪、

宋朝ハ宋國ノ美人ナリ、善ク姪ナリ、

【疏】

于時在衛通靈公夫人南子也、

時于衛<sup>ニ</sup>在テ靈公ノ夫人南子ニ通ス、

【注】

言當如祝鮀之佞、而反如宋朝之美、難矣免於今世之害也、

言ハ當<sup>まさ</sup>ニ祝鮀カ佞ノ如クナル當シ、而シテ反テ宋朝カ美ノ如クナラハ、難イ<sup>カ</sup>矣<sup>ヘ</sup>今ノ世ノ害ニ免レンコト、

【疏】

一本云、反如宋朝之美也、通者云、佞與淫異、故云反也、

一本ニ云ク、反テ宋朝カ美ノ如シトハ、通者ノ云ク、佞ト淫<sup>ト</sup>與異ナリ、故ニ反ト云フ、

(一) 「慾」、武内本作「欲」。

(二) 「故」下、武内本有「曰」字。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「也」、武内本無此字。

【經】

子曰、誰能出不由戸者、何莫由斯道也、

子ノ曰<sup>ノたまは</sup>ク、誰カ能ク出ルトキニ戸ニ由ラ不ラン、何ソ斯ノ道ニ由ルコト莫<sup>ナ</sup>カラン(莫<sup>ナ</sup>キ)、

【疏】

道先王之道也、人生得在世、皆由於先王道理、而通、而世人多違理背道、故孔子爲譬以示解時惑也、言人之在室、出入由戸而通、亦如在世由道理而生、而人皆知出室由戸、而未知在世由道、故云、誰能出不由戸、何莫由斯道也、莫無也、斯此也、故范寧云、人咸知由戸而行、莫知由學而成也、

道トハ先王ノ道ソ、人生テ世ニ在ルコトヲ得ルコト、皆先王ノ道理ニ由テ、通ス、而シテ世人多ク理ニ違イ道ニ背ク、故ニ孔子譬ヲ爲シテ以テ時ノ惑ヲ解<sup>とく</sup>コトヲ示ス、言ハ人ノ室ニ在ルコト、出入戸ニ由テ而シテ通ス、亦世ニ在テ道理ニ由テ而シテ生スルカ如シ、人皆室ヲ出ルニ戸ニ由ルコトヲ知テ、而シテ未タ世ニ在テ道ニ由ルコトヲ知ラ未、故ニ云ク、誰カ能ク出ルトキニ戸ニ由ラ不ラン、何ソ斯ノ道ニ由ルコト莫<sup>ナ</sup>キ、莫ハ無ナリ、斯ハ此ナ

リ、故ニ范寧カ云ク、人咸コトコトクニ由テ行コトヲ知テ、  
學ニ由テ成ルコトヲ知ルコト莫シ、

【注】

孔安國曰、言人立身成功當由道、譬猶人出入要當從戸、

孔安國カ曰ク、言いふことハ人身ヲ立テ功ヲ成スコト當ニ道ニ  
由ル當キコト、譬ヘハ人ノ出<sup>ヘ</sup>入スルコト要ス戸從リス當  
キカ猶シ、

- (一) 「行」下、武内本有「也」字。  
(二) 「戸」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、質勝文則野、

子ノ曰ク、質文ニ勝ツ則ハ野ナリ、

【疏】

謂凡行禮及言語之儀、質實也、勝多也、文華也、言若實多  
而文飾少則、如野人、野人鄙略大樸也、

凡ソ禮ヲ行ヒ及ヒ言<sup>ノ</sup>語ノ儀ヲ謂フ、質ハ實ナリ、勝ハ多  
ナリ、文ハ華ナリ、言いふことハ若シ實<sup>シヨク</sup>多シテ文<sup>シヨク</sup>飾少キ則  
ハ、野人ノ如シ、野人ハ鄙略ヤロシカナリ(鄙略)ニシテ大樸  
(大樸)ナリ、  
スナワリ

【注】

苞氏曰、野如野人、言鄙略也、

苞氏カ曰ク、野ハ野人ノ如シ、言いふことハ鄙略ナリ、

【經】

文勝質則史、

文質ニ勝ツ則ハ史ナリ、

【疏】

史記書史也、史書多虛華、無實、妄語欺詐、言人若爲事、  
多飾少實則、如書史也、

史ハ書ヲ記スル史ナリ、史ハ書スコト虛華多フシテ、實  
無シ、妄<sup>ゴツ</sup>語欺詐(欺詐)ナリ、言いふことハ人若シ事ヲ爲ス  
コト、飾リ多シテ實少キ則ハ、書史ノ如シ、

【注】

苞氏曰、史者文多而質少也、

苞氏カ曰ク、史ハ文多シテ質<sub>レ</sub>少シ、

【經】

文質彬彬、然後君子、

文質彬<sub>レ</sub>彬トシテ、然<sub>レ</sub>シテ<sub>レ</sub>後ニ君<sub>一</sub>子ナリ、

【疏】

彬彬文質相半也、若文與質、等半則、爲會時之君子也、

彬<sub>レ</sub>彬ハ文<sub>一</sub>質相ヒ<sub>レ</sub>半<sub>ナカ</sub>ハスルナリ、若シ文ト質與<sub>ト</sub>、等シク  
半ハナル<sub>レ</sub>則ハ、時ニ會<sub>アフ</sub>ノ君<sub>一</sub>子ト爲<sub>ス</sub>、

【注】

苞氏曰、彬彬文質相半之貌也、

苞氏カ曰ク、彬彬ハ文<sub>一</sub>質相ヒ<sub>レ</sub>半スルノ貌<sub>カタチ</sub>ナリ、

(一)「儀」下、武内本有「也」字。

(二)「若」、武内本無此字。

【經】

子曰、人生也直、

子ノ曰<sub>ノたまは</sub>ク、人ノ生<sub>イ</sub>ケルコト也<sub>ハ</sub>直ナレハナリ、

【疏】

言人得生居世者、必由直行故也、故李充云、人生之道、唯  
其身直乎、

言<sub>イふことろ</sub>ハ人ノ生<sub>イキ</sub>テ世ニ居ルコトヲ得ルコトハ、必ス直<sub>レ</sub>行ニ  
由ルカ故ナリ、故ニ李充カ云ク、人ノ生<sub>イ</sub>ケルノ道ハ、唯タ  
其ノ身直<sub>レ</sub>ナラン乎、

【注】

馬融曰、言人之所以生於世、而自終者、以其正直之道也、

馬融カ曰ク、言<sub>いふことろ</sub>ハ人ノ世ニ生テ、自<sub>みづから</sub>終<sub>ハ</sub>ル所<sub>ゆゑん</sub>以<sub>レ</sub>ハ、  
其ノ正<sub>レ</sub>直ノ道ヲ以テナリ、

【疏】

自終、謂用道故不橫夭殤也、

ミツカラ

自終トハ、道ヲ用ル故ニ横ニ夭<sup>ミツカラ</sup>殤<sup>ミツカラ</sup>セ<sup>ミツカラ</sup>不<sup>ミツカラ</sup>ルコトヲ謂フ、

【經】

罔之生也幸而免、

罔イテ生<sup>シ</sup>ケルハ幸ニシテ免レタルナリ、

【疏】

罔謂爲邪曲、誣罔者也、應死而生曰幸、生既由直、若有誣罔之人、亦得生世者、獲是幸而免死耳、故李充曰、失平生之道者、則動之死地矣、必或免之善、由於幸耳、故君子無幸而有不幸、小人有幸而無不幸也、

罔トハ邪<sup>シ</sup>曲ヲ爲<sup>シ</sup>テ、誣<sup>シ</sup>イ<sup>シ</sup>罔ル者ヲ謂フ、死ス應<sup>ヘ</sup>クシテ生スルヲ幸ト曰フ、生ルコトハ既ニ直ニ由ル、若シ誣<sup>ヒ</sup>罔ルノ人有<sup>テ</sup>、亦タ世ニ生ルコトヲ得ルコトハ、是レ幸ニシテ死ヲ免ルルコトヲ獲ル耳<sup>ミ</sup>、故ニ李充カ曰ク、平生ノ道ヲ失スル者ハ、則チ動スレハ<sup>ミ</sup>（動ケハ）死<sup>ミ</sup>地ニ之<sup>ミ</sup>ク、必ス或ハ免ルルハ善ニシテ、幸ニ由ル耳<sup>ミ</sup>、故ニ君子ハ幸無

シテ不<sup>レ</sup>幸有リ、小人ハ幸有<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>幸無シ、

【注】

荀氏曰、誣罔正直之道、而亦生是幸而免也、

荀氏カ曰ク、正直ノ道ヲ誣<sup>ヒ</sup>罔<sup>ヒ</sup>テ、亦タ<sup>ミ</sup>生ケルハ是レ幸ニシテ免タルナリ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「其」、武内本作「人」。

(三) 「既」、武内本作「即」。

【經】

子曰、知之者不如好之者、

子<sup>ノ</sup>曰<sup>ク</sup>、之ヲ知<sup>ル</sup>者ハ之ヲ好<sup>ミ</sup>スル者ニハ如<sup>シ</sup>カ不<sup>ス</sup>、

【疏】

謂學者深淺也、知之謂知學問有益者也、好之謂欲好學之以爲好者也、夫知有益、而學之則、不如欲學之、以爲好者也、故李充云<sup>ミ</sup>、雖知學之爲益、或有計、而後知學利在其中、故不如好之者篤也、

學者ノ深<sup>シ</sup>淺<sup>ハ</sup>ヲ謂フ、之ヲ知トハ學<sup>ノ</sup>問<sup>ノ</sup>益有ルコトヲ知  
ル者ヲ謂フ、之ヲ好<sup>ミ</sup>ミスルトハ之ヲ學<sup>コト</sup>ヲ好<sup>ミ</sup>セント欲  
シテ好<sup>シト</sup>爲<sup>ス</sup>ル者ヲ謂フ、夫レ益有ルコトヲ知テ、之ヲ學  
フ則ハ、之ヲ學ハント欲シテ、好<sup>ト</sup>爲<sup>ス</sup>ル者ニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、故  
ニ李充カ云ク、之ヲ學テ益爲<sup>ル</sup>コトヲ知ルト雖モ、或ハ計  
コト有テ、後ニ學ノ利ノ其ノ中ニ在ルコトヲ知ル、故ニ之  
ヲ好<sup>ム</sup>者ノ篤<sup>キ</sup>ニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

【經】

好之者、不如樂之者、

之ヲ好<sup>ミ</sup>スル者ハ、之ヲ樂<sup>シム</sup>者ニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

【疏】

樂謂歡樂之也、好有盈厭、故不如性歡而樂之、如顏淵樂在  
其中也、故李充云、好有盛衰、不如樂之者深也

樂トハ之ヲ歡<sup>ハ</sup>樂<sup>スル</sup>ヲ謂フ、好ムトキハ盈<sup>イ</sup>厭<sup>エン</sup>有リ、故ニ  
性<sup>ヨウ</sup>歡<sup>カン</sup>テ之ヲ樂<sup>ム</sup>ニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、顏淵カ樂其ノ中ニ在ルカ  
如シ、故ニ李充カ云ク、好ムトキハ盛<sup>シ</sup>衰<sup>シ</sup>有リ、之ヲ樂<sup>ム</sup>  
者ノ深<sup>シ</sup>キニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>

【注】

苞氏曰、學問知之者、不如好之者篤、好之者、又不如樂之  
者深也、

苞氏カ曰ク、學ヒ問テ之ヲ知ル者ハ、之ヲ好<sup>ミ</sup>ミスル者ノ  
篤<sup>キ</sup>ニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、之ヲ好<sup>ミ</sup>ミスル者ハ、又之ヲ樂<sup>ム</sup>者ノ深<sup>シ</sup>キ  
ニハ如カ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

(一) 「好」、武内本無此字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、中人以上可以語上也、中人以下不可以語上也

子曰、<sup>のたまは</sup>中人以上二ハ上語ル可シ、中人以下二ハ  
上語ル可<sup>ヘ</sup>ラ<sup>カ</sup>不<sup>ス</sup>

【疏】

此謂爲教化法也、師說云、就人之品識、大判有三、謂上中  
下也、細而分之則有九也、有上上、上中、上下也、又有中  
上、中中、中下也、又有下上、下中、下下也、凡有九品、

上上則是聖人、聖人不須教也、下下則是愚人、愚人不移、亦不須教也、而可教者、謂上中以下、下中以上、凡七品之人也、今云、中人以上可謂以語上、即以上道語於上分也、中人以下、不可以語上、雖不可語上、猶可語之以中、及語之以下、何者、夫教之爲法、恆導引分前也、聖人無待於教、故以聖人之道、可以教顏、以顏之道、可以教閔、斯則中人以上、可以語上也、又以閔道、可以教中品之上、此則中人亦可語上也、又以中品之上道、以教中品之中、又以中品之中道、教中品之下、斯則中人亦有可以語之以中也、又以中品之下道、教下品之上、斯即中人以下、可以語中、又以下品之上道、教下品之中、斯則中人以下、可以語下也、此云中人以上中人以下、大略言之耳、既有九品、則第五爲正中人也、以下則六七八也、以上即四三二也

此ハ教化ヲ爲スノ法ヲ謂フ、師ノ說ニ云ク、人ノ品識ニ就テ、大判三有リ、謂ハユル上ノ中ノ下ナリ、細ニ而之ヲ分ツ則ハ九有リ、上ノ上、上ノ中、上ノ下有リ、又中ノ上、中ノ中、中ノ下有リ、又下ノ上、下ノ中、下ノ下有リ、凡ソ九品有リ、上ノ上ハ則チ是レ聖人ナリ、聖人ハ教ヲ須タ不、下ノ下ハ則チ是レ愚人ナリ、愚人ハ移ラ不、亦タ教ルコトヲ須イ不、而シテ教フ可キ者ハ、謂ル上ノ中以一下、下ノ中以一上ナリ、凡ソ七品ノ人ナリ、今

云ク、中人以上上ニハ謂テ以テ上語ル可シトハ、即チ上道ヲ以テ上二分ニ語ル、中人以上以下ニハ、上語ル可不トハ、上語ル可不ト雖モ、猶ヲ之ニ語ルニ中ヲ以テシ、及ヒ之ニ語ルニ下ヲ以テス可シ、何者、夫レ教ヘ之法爲ルコト、恆二分前ニ導キ引ク、聖人ハ教ヘヲ待ツコト無シ、故ニ聖人ノ道ヲ以テハ、顔ニ教フ可シ、顔カ道ヲ以テハ、閔ニ教フ可シ、斯レ則チ中人以上上ニハ、以テ上語ル可キナリ、又閔カ道ヲ以テ、中品ノ上ニ教フ可シ、此レ則チ中人ニモ亦上語ル可キナリ、又中品ノ上道ヲ以テハ、中品ノ中ニ教ヘ、又中品ノ中道ヲ以テハ、中品ノ下ニ教フ、斯レ則チ中人ニモ亦之ニ語ルニ中ヲ以テス可キコト有リ、又中品ノ下道ヲ以テハ、下品ノ上ニ教フ、斯レ即中人以下ニハ、中語ル可キナリ、又下品ノ上道ヲ以、下品ノ中ニ教フ、斯レ則チ中人以上以下ニハ、下ヲ語ル可キナリ、此ニ中人以上中人以上以下ト云フハ、大ニ略シテ之ヲ言フ耳、既ニ九品有ル、則ハ第十五ヲ正中一人ト爲、以下ハ六七七八ナリ、以上ハ即チ四三二ナリ

### 【注】

王肅曰、上謂上智之人所知也、



王肅カ曰ク、上トハ上ニ智ノ人ノ知ル所ヲ謂フ、

【疏】

上知所知、謂聖人之道、可教顔閔者也、

上ニ知ノ知ル所トハ、聖人ノ道ヲ謂フ、顔閔ヲ教フ可キ者ナリ、

【注】

兩舉中人、以其可上可下也、

兩タヒ中ニ人ヲ舉ルコトハ、其ノ上タル可ク下タル可キヲ以テナリ、

【疏】

若分九品、則第五以上、可以語上、第五以下、不可語上、今但應云中人以上、可以語上、以下不可語上、而復云中人以下、是再舉中人也、所以爾者、明中人之大分、有可上可下也、若中人以上、可以語上、中人之下、不可語上、故再言中人也、又一云、中人若遇善師則可上、若遇惡人則可下、故再舉中人、明可上可下也、

若シ九品二分ツ、則ハ第五以上ハ、上語ル可シ、第五以下ハ、上語ル可<sup>へからず</sup>不<sup>い</sup>、今但タ中人以上ニハ、上語ル可ク、以下ニハ上語ル可<sup>へからず</sup>不<sup>い</sup>ト云フ應クシテ、而シテ復タ中人以上ト云テ、是レ再ヒ中人以上ヲ舉ルコトハ、爾カル所以ハ、中人ノ大分、上タル可ク下タル可キコト有ルコトヲ明カス、若シ中人以上ニ、上語ル可クシハ、中人ノ下ハ、上語ル可<sup>へからず</sup>不<sup>い</sup>、故ニ再ヒ中人以上ヲ言フ、又一ニ云ク、中人ハ若シ善師ニ遇フ則ハ上タル可シ、若シ惡人ニ遇フ則ハ下タル可シ、故ニ再ヒ中人以上ヲ舉テ、上タル可ク下タル可キコトヲ明ス、

- (一) 「謂」、武内本無此字。
- (二) 「則」、武内本作「即」。
- (三) 「則」、武内本作「即」。
- (四) 「則」、武内本作「即」。
- (五) 「智」、武内本作「知」。

【經】

樊遲問智、

樊遲智ヲ問フ、

【疏】

問孔子爲智之道也、

孔子ニ智ヲ爲ルノ道ヲ問フ、

【經】

子曰、務民之義、

子ノ曰ク、民ノ義ヲ務ム、

【疏】

答曰、若欲爲智、當務在化導民之義也、

答テ曰ク、若シ智ヲ爲ント欲セハ、當ニ務テ民ヲ化導スルノ義ニ在ル當シ、

【注】

王肅曰、務所以化導民之義也、

王肅カ曰ク、民ヲ化導スル所以ノ義ヲ務ム、

【經】

敬鬼神而遠之、

鬼ノ神ヲ敬シテ遠ル、

【疏】

鬼神不可慢、故曰敬鬼神、可敬不可近、故宜遠之也、

鬼神ハ慢ル可不、故ニ鬼神ヲ敬スト曰フ、敬ス可シ近ク可不、故ニ宜ク遠カル宜シ、

【經】

可謂智矣、

智ト謂ツ可シ、

【疏】

如上二事、則可爲智也

上ノ二事ノ如キンハ、智ト爲可シ

【注】

荀氏曰、敬鬼神而不瀆也、

荀氏カ曰ク、鬼一神ヲ敬シテ瀆サ不<sup>ケカ</sup>ス、

【疏】

瀆猶數近也、

瀆ハ數<sup>トク</sup>（數<sup>サ</sup>）一近トイフカ猶シ、  
シハシハ

【經】

問仁、

仁ヲ問フ、

【疏】

樊遲又問爲仁也、

樊遲又仁ヲ爲ルコトヲ問フ、  
ス

【經】

子曰、仁者先難、而後獲可謂仁矣、

子ノ曰ク、仁一者ハ先ツ難<sup>オヤ</sup>ンテ、而シテ後ニ獲ルヲ仁ト謂ツ可シ、

【疏】

獲得也、言臣必<sup>二</sup>先歷爲難事、而後乃可得祿受報則、是仁也、若不先勞事、而食則爲不仁、故范寧<sup>三</sup>云。艱難之事則爲物先、獲功之事、而處物後則、爲仁矣、獲ハ得ナリ、言ハ臣ハ必ス先ツ難事ヲ歴<sup>ヘ</sup>爲シテ、而シテ後ニ<sup>イマ</sup>乃シ祿ヲ得<sup>エ</sup>報ヲ受ク可キ則ハ、是レ仁ナリ、若シ勞事ヲ先キンセ不<sup>ス</sup>シテ、食ムハ不<sup>ハ</sup>仁ト爲<sup>ス</sup>、故ニ范寧カ云ク。艱難ノ事ハ則チ物ノ先爲<sup>タ</sup>リ、功ヲ獲ルノ事ハ、而シテ物ノ後ニ處スル則ハ、仁ト爲<sup>ス</sup>、

【注】

孔安國曰、先勞苦、乃後得功、此所以爲仁也、

孔安國カ曰ク、先ツ勞苦シテ、乃シ<sup>いま</sup>後ニ功ヲ得ル、此レ仁ト爲<sup>ス</sup>ル所以ナリ、

(一) 「神」下、武内本有「也」字。

(二) 「必」、武内本作「心」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、智者樂水、

子ノ曰ク、智<sup>のたまは</sup>者ハ水ヲ樂ム、

【疏】

陸特進<sup>(二)</sup>云、此章、極辨智仁之分、凡分爲三段、自智者樂水仁者樂山、爲第一、明智仁之性、又智者動仁者靜、爲第二、明智仁之用、先既有性、性必有用也、又智者樂仁者壽、爲第三、明智仁之功、己有用、用宜有功也、今第一明智仁之性、此明智者性也、智者識用之義也、樂者貪樂之稱也、水者流動、不息之物也、智者樂運其智、化物如水流之不息、故樂水也、

陸特進<sup>リク</sup>カ云ク、此ノ章ニハ、極テ智<sup>チ</sup>仁<sup>ニ</sup>ノ分ヲ辨ス、凡ソ分テ三<sup>ナ</sup>段ト爲ス、智<sup>チ</sup>者ハ水ヲ樂<sup>タノシ</sup>ミ仁<sup>ニ</sup>者ハ山ヲ樂ムトイフ自<sup>よ</sup>り、第一ト爲<sup>ス</sup>、智<sup>チ</sup>仁<sup>ニ</sup>ノ性ヲ明ス、又智<sup>チ</sup>者ハ動ク仁<sup>ニ</sup>者ハ靜ナリトイフヲ、第二ト爲<sup>ス</sup>、智<sup>チ</sup>仁<sup>ニ</sup>ノ用ヲ明ス、先<sup>ま</sup>ツ既<sup>レ</sup>二性有<sup>リ</sup>、性アルトキハ必<sup>かならず</sup>有用<sup>ナ</sup>リ、又智<sup>チ</sup>者ハ樂ム仁<sup>ニ</sup>者ハ壽<sup>イデカ</sup>シトイフヲ、第三ト爲<sup>ス</sup>、智<sup>チ</sup>仁<sup>ニ</sup>ノ功ヲ明ス、已

ニ用有ルトキハ、用宜ク功有ル宜シ、今第一<sup>イマ</sup>ニ智<sup>チ</sup>仁<sup>ニ</sup>ノ性ヲ明ス、此<sup>コ</sup>レハ智<sup>チ</sup>者ノ性ヲ明ス、智<sup>チ</sup>者トハ識<sup>シ</sup>用ノ義ナリ、樂<sup>ハ</sup>ト<sup>レ</sup>者貪<sup>ヘ</sup>樂<sup>ハ</sup>ノ稱ナリ、水ハ流動シテ、息<sup>ヤ</sup>マ不<sup>キ</sup>ル物ナリ、智<sup>チ</sup>者ハ其ノ智ヲ運<sup>めぐらし</sup>テ、物ヲ化シテ水<sup>ニ</sup>流<sup>ス</sup>ノ息<sup>マ</sup>マ不<sup>キ</sup>ルカ如ナルコトヲ樂ム、故ニ水ヲ樂ム、

【注】

苞氏曰、智者樂運其才智、以治世、如水流而不知已之也、

苞氏カ曰ク、智<sup>イハ</sup>者ハ其ノ才<sup>イハ</sup>智ヲ運<sup>めぐらし</sup>テ、世ヲ治ムルコト、水ノ流<sup>ヤ</sup>テ已<sup>ヤ</sup>ムコトヲ知<sup>キ</sup>ラ不<sup>キ</sup>ルカ如ナルコトヲ樂ム、

【經】

仁者樂山、

仁<sup>ニ</sup>者ハ山ヲ樂ム、

【疏】

此明<sup>エ</sup>仁<sup>ニ</sup>者之性也、仁者惻隱之義、山者不動之物也、仁人之性、願四方安靜、如山之不動、故云樂山也、

此ハ仁<sup>ニ</sup>者ノ性ヲ明ス、仁<sup>ニ</sup>者トハ側<sup>イタクム</sup>（側）隱ノ義ナリ、

山<sup>ハ</sup>者動セ<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>ル物ナリ、仁<sup>ニ</sup>人ノ性、四<sup>ノ</sup>方安<sup>ニ</sup>靜ニシテ、山ノ動カ不<sup>ル</sup>カ如<sup>ク</sup>ナルコトヲ願フ、故ニ云<sup>ハ</sup>ク山ヲ樂ム、

## 【注】

仁者、樂如山之安固、自然不動、而萬物生焉也、

仁者ハ、山ノ安固ニシテ、自然ニ動セ<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>シテ、萬物ノ生スルカ如<sup>ク</sup>ナルコトヲ樂ム、

## 【經】

智者動、

智者ハ動ク、

## 【疏】

此第二、明用也、智者何故如水耶、政自欲動進其識、故云、智者動也、

此ハ第一ニシテ、用ヲ明ス、智者ハ何力故ニ水<sup>ニ</sup>如ナルヤ、政<sup>ニ</sup>自<sup>ニ</sup>動<sup>ニ</sup>テ其ノ識ヲ進メント欲<sup>ス</sup>、故ニ云<sup>ハ</sup>ク、智者ハ動クト、

## 【注】

荀氏曰、自進故動也、

荀氏力曰ク、自<sup>ミツカラ</sup>進ム故ニ動ク、

## 【經】

仁者靜、

仁者ハ靜ナリ、

## 【疏】

仁者何故如山耶、其心寧靜故也、

仁者ハ何力故ニ山<sup>ノ</sup>如ナルヤ、其ノ心寧靜ナル力故ナリ、

## 【注】

孔安國曰、無欲故靜也、

孔安國力曰ク、欲無キ力故ニ靜ナリ、

【經】

智者樂、

智者ハ樂ム、

【疏】

第三明功也、樂懽也、智者得運其識、故得從心而暢、故懽樂也、

第三ハ功ヲ明ス、樂ハ懽<sup>クハシ</sup>、智者ハ其ノ識ヲ運<sup>めくらす</sup>コトヲ得、故ニ心ニ從テ暢ルコトヲ得、故ニ懽樂ナリ、

【注】

鄭玄曰、智者自役得其志、故樂之也、

鄭玄カ曰ク、智者ハ自役<sup>みづからエキ</sup>シテ其ノ志ヲ得、故ニ樂ム、

【經】

仁者壽、

仁者ハ壽<sup>イノチナカ</sup>シ、

【疏】

性靜如山之安固、故壽考也、然則仁既壽亦樂、而智樂不必壽、緣所役用多故也、

性靜ナルコト山ノ安固ナルカ如シ、故ニ壽考ナリ、然レハ則チ仁ハ既ニ壽<sup>いのちなく</sup>シテ亦樂ム、而シテ智ノ樂ハ必ス壽カラ不、役<sup>ス</sup>用スル所多キニ緣ルカ故ナリ、

【注】

荀氏曰、性靜故壽考也、

荀氏カ曰ク、性靜ナリ故ニ壽考ナリ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「辨(弁)」、武内本作「棄(弁)」。
- (三) 「分」下、武内本有「也」字。
- (四) 「者」、武内本無此字。
- (五) 「此」下、武内本有「章」字。
- (六) 「山」、武内本作「此」。

【經】

子曰、齊一變至於魯、魯一變至於道、

子ノ曰ク、齊ヲ一ヒ變セハ魯ニ至リナン、魯ヲ一ヒ變セハ道ニ至リナン、

【疏】

太公封於營丘之地、爲齊國、周公封於曲阜之地、爲魯國、周公大聖、太公大賢、賢聖既有優劣、雖同致太平、而其化不得不微異、故末代二國、齊有景公之昏闇、魯有定公之寡德、然其國猶有望旦之遺風、故禮記云、孔子曰、吾捨魯何適耶、明魯猶勝餘國也、今孔子歎其君之竝惡、故有此言也、言若齊有明君、一變、便得如魯太平之日、魯有明君、一變、便如大道之時也、此是引汲之教耳、實理則不然矣、若明君興之、政當得水如其初、何容得還淳反本耶、

太公ヲ營丘ノ地ニ封ス、齊國爲リ、周公ヲ曲阜ノ地ニ封ス、魯國爲リ、周公ハ大聖ナリ、太公ハ大賢ナリ、賢聖既ニ優劣有リ、同ク太平ヲ致スト雖モ、其ノ化微シ異ナラ不ルコトヲ得不、故ニ末代二國、齊ニ景公ノ昏闇ナル有リ、魯ニ定公ノ寡德ナル有リ、然トモ其ノ國猶ヲ望旦ノ遺風有リ、故ニ禮記ニ云ク、孔子ノ曰ク、吾魯ヲ捨テテ何ニカ適カンヤ、魯ノ猶ヲ餘國ニ勝レルコトヲ明ス、今孔子其ノ君ノ竝ニ惡キコトヲ歎ス、故ニ此ノ言有リ、言ハ若シ齊ニ明君有テ、一變セハ、便チ魯ノ

太平ノ日ノ如ナルコトヲ得ン、魯ニ明君有テ、一變セハ、便チ大道ノ時ノ如クナラン、此ハ是レ引汲ノ教ヘ耳、實理ハ則チ然ラ不、若シ明君之ヲ興サハ、政ニ當ニ水ノ其ノ初ノ如ナルコトヲ得當シ、何ソ淳ニ還リ本ニ反ルコトヲ得容ケンヤ、

【注】

苞氏曰、言齊魯有太公周公之餘化也、太公大賢、周公聖人、今其政教雖衰、若有明君興之者、齊可使如魯、魯可使如大道行之時也、

苞氏カ曰ク、言ハ齊魯ニ太公周公ノ餘化有リ、太公ハ大賢ナリ、周公ハ聖人ナリ、今其ノ政教衰ヘタリト雖モ、若シ明君有テ之ヲ興サハ、齊ヲハ魯ノ如ナラ使メツ可、魯ヲハ大道ノ行ハレシ時ノ如クナラ使メツ可シ、

- (一) 「太公」、武内本作「大公」。下同。
- (二) 「魯」下、武内本有「之」字。
- (三) 「之」、武内本無此字。
- (四) 「水」、武内本作「各」。

【經】

子曰觚不觚、

子ノ曰ク觚コナラス不、

【疏】

觚コ禮器也、禮云、觚酌酒一獻之禮、賓主百拜、此則明有觚之用也、當于爾時、用觚、酌酒而沈メ酒無度、故孔子云、觚不觚也、故王肅曰、當時沈酒于酒、故曰觚不觚、言不知禮也、蔡謨云、酒之亂德、自古所患、故禮設三爵之制、尚書著明酒誥之篇、易有儒ニ首之戒、詩列賓筵之刺、皆所以防沈酒、王氏曰之說是也、觚失其禮、故曰、觚不觚、猶言君臣不君臣耳、

觚ハ禮ノ酒ノ器ナリ、禮ニ云ク、觚ハ酒ヲ酌テ一獻ノ禮、賓主百拜ス、此レハ則チ觚有ルノ用ヲ明ス、爾ノ時ニ當テ、觚ヲ用テ、酒ヲ酌テ沈メ酒シテ度無シ、故ニ孔子ノ云ク、觚コナラス不、故ニ王肅カ曰ク、當時酒ニ沈メ酒ス、故ニ曰ク觚コナラス不ト、言ハ禮ヲ知ラズルナリ、蔡謨カ云ク、酒ノ德ヲ亂ルコト、古ヨリ患ル所ナリ、故ニ禮ニ三爵ノ制ヲ設ケ、尚書ニ酒誥ノ篇ヲ著シ明ニス、易ニ儒首（首ヲ儒ス）ノ戒メ有リ、詩ニ賓筵ノ刺リヲ列

ス、皆沈メ酒ヲ防ク所以ナリ、王氏カ曰フノ說是ナリ、觚其ノ禮ヲ失ス、故ニ曰ク、觚コナラス不ト、猶ナラシ君臣君臣ナラス不ト言ハンカ猶ナキ耳、

【注】

馬融曰、觚コ禮器也、一升曰爵、二升曰觚也、

馬融カ曰ク、觚ハ禮ノ器ソ、一升ヲ爵ト曰ヒ、二升ヲ觚ト曰フ、

【經】

觚哉觚哉

觚ナレ哉觚ナレ哉

【疏】

言用觚之失道也、故重云觚哉觚哉、

言ハ觚ヲ用ルコト道ヲ失ス、故ニ重テ觚コナレ哉觚コナレト云フ、



【注】

觚哉觚哉、言非觚、

觚「哉觚」哉トハ、言ハ觚ニ非ルソ、

【疏】

何此注、亦得同王蔡之釋也、

何カ此ノ注、亦王蔡釋ト同コトヲ得、

【注】

以喩爲政而不得其道、則不成也、

政まつりごとヲ爲ルニ其ノ道ヲ得不得レハ、成ラ不ルニ喩フ、

【疏】

如何此注、則與王蔡小異也、何意言、用觚不得其道則、非復觚德、譬如人所爲、不得其道者、則事亦不成也、若欲知氣味、何說則特前觚不觚如王蔡之釋、後云、觚哉觚哉、自因前以寄後、喩事不乖王蔡、而有兼得之美也、故褚仲都云、作觚而不用觚法、觚終不成、猶爲政、而不用政法、豈成哉、不九。疾世爲政不用政、故再言焉、

何カ此ノ注ノ如ハ、王蔡與小シ異ナリ、何カ意ニ言ク、觚ヲ用テ其ノ道ヲ得不得ルトモハハ、復タ觚ノ德ニ非ス、譬ハ人ノ爲ル所、其ノ道ヲ得不得ル者ハ、則チ事コト亦タ成ラ不ルカ如シ、若シ氣味ヲ知ラント欲セハ、何カ說ハ則チ特ニ前ニ觚觚ナラ不トイフハ王蔡カ釋ノ如シ、後ニ云ク、觚「哉觚」哉トハ、自前二因テ後ニ寄テ、事ニ喩フ王蔡ト乖カ不、而シテ兼ネ得ルノ美有リ、故ニ褚仲都カ云ク、觚ヲ作シテ觚ノ法ヲ用ヒ不レハ、觚終ニ成ラ不、猶シ政ヲ爲テ、政ノ法ヲ用ヒ不ンハ、豈ニ成ラン哉、不ヤ。世ニ政ヲ爲テ政コトヲ用不コトヲ疾ム、故ニ再タヒ焉ヲ言フ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「設」、武内本作「說」。
- (四) 「儒」、武内本作「濡」。
- (五) 「所」、武内本作「可」。
- (六) 「曰」、武内本無此字。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。
- (八) 「云」、武内本作「曰」。
- (九) 「不」、武内本無此字。

【經】

宰我问曰、仁者雖告之曰、井有仁者、焉其從之與、

宰我问テ曰ク、仁者ニ雖ヒ之ニ告テ曰ハン、井ニ仁者有  
リトイハハ、其レ之ニ從ハンヤ、

【疏】

宰我欲極觀仁者之懷、故假斯以問也、言有人告於仁者云、  
彼處有仁者墮井、而仁者常救人於急難、當自投入井、救取  
之不耶

宰我仁者ノ懷ヲ極メ觀マク欲、故ニ斯ラ假テ問フ、  
言ハ人有テ仁者ニ告テ云ク、彼ノ處ニ仁者有テ井ニ  
墮ツト、而ルヲ仁者ハ常ニ人ヲ急難ニ救フ、當ニ自井  
ニ投入シテ、救テ之ヲ取ル當シヤ不ヤ

【注】

孔安國曰、宰我以爲仁者必濟人於患難、故問有仁人墮井、  
將自投下、從而出之乎否乎、欲極觀仁人憂樂之所至也、

孔安國カ曰ク、宰我以爲ラク仁者ハ必ス人ヲ患難ニ濟  
フト（仁者ハ必ス人ヲ患難ニ濟フト以爲ヘリ）、故ニ問

フ仁人有テ井ニ墮チハ、將ニ自投下シテ、從テ之ヲ出  
サント將ンヤ否ヤ、仁人憂樂ノ至ル所ヲ極メ觀マク欲  
ス、

【經】

子曰、何爲其然也、

子ノ曰ク、何爲レソ其レ然ラン、

【疏】

孔子距之、故云、何爲其然也、言仁者雖復救濟、若審有人  
墮井、當爲方計出之、豈容自投從之、

孔子之ヲ距ク、故ニ云ク、何爲レソ其レ然ラン、  
言ハ仁者ハ復救ヒ濟ト雖、若人有テ井ニ墮ツルコ  
トヲ審セハ、當ニ方計ヲ爲シテ之ヲ出ス當シ、豈ニ  
自投從ス容ケンヤ、

【經】

君子可逝也、不可陷也、

君子ヲハ逝カシム可シ、陷ラシム可不、

## 【疏】

逝往也、陷沒也、言聞有人墮井、乃可往看之耳、不遂投井取之也

逝ハ往ナリ、陷ハ沒ナリ、言ハ人有テ井ニ墮ツト聞カハ、乃チ往テ之ヲ看ル可キ耳、遂ニ井ニ投シテ之ヲ取ラ不

## 【注】

荀氏曰、逝往也、言君子可使往視之耳、不肯自投從之耳、

荀氏カ曰ク、逝ハ往、言ハ君子ヲハ往テ之ヲ視セ使ム可キ耳、自投シテ之ニ從コトヲ肯セ不ラマク耳、

## 【經】

可欺也、不可罔也、

欺ク可シ、罔ユ可不、

## 【疏】

欺者謂遙相語也、罔者、謂面相誣也、初彼來見告云、井中有仁人、我往視之、是可欺也、既至井實無人、不可受通而自投入井、是不可罔也、

欺クトハ遙ニ相ヒ語ルヲ謂フ、罔ト者、面シテ相

ヒ誣ヲ謂フ、初メ彼來テ見ニ告テ云ク、井中ニ仁人有リト、我往テ之ヲ視ン、是レ欺ク可ナリ、既ニ井ニ至テ實ニ人無クンハ、受ケ通シテ自井ニ投入ス可ラ不、是レ罔フ可不ルナリ、

## 【注】

馬融曰、可欺者、可使往也、不可罔者、不可得誣罔令自投下也、

馬融カ曰ク、欺ク可シトハ、往カ使ム可キノ、罔ユ可不トハ、誣ヒ罔テ自投下セ令ムルコトヲ得可不ルソ、

## 【疏】

或問曰、仁人救物、一切無偏、何不但云井中有人者、而必云有仁人者耶、若唯救仁者、則非仁人墮井、則仁人所不救乎、答曰、仁者能好人、能惡人、其雖惻隱濟物、若聞惡人墮井、亦不往也、又李充云、欲極言仁、設云、救井爲仁、便當從不耶、故夫子答云、何爲其然也、言何至如此、是君子之人、若於道理、宜爾身猶可亡、故云可逝、逝往也、若理有不可、不肯陷於不知、故云不可陷也、君子不逆詐、故可以闇昧欺、大德居正、故不可以非道罔也、

或ヒト問テ曰ク、仁人ハ物ヲ救テ、一切偏無シ、何ソ但タ井中二人有ト云ハ不シテ、而シテ必ス仁人有リト云フヤ、若シ唯タ仁者ヲ救ハハ、仁人ニ非シテ井ニ墮チハ、仁人ノ救ハ不ル所ナランヤ、答テ曰ク、仁者ハ能ク人ヲ好ミシ、能ク人ヲ惡ニス、其レ側隱シテ物ヲ濟フト雖、若シ惡人井ニ墮ツト聞カハ、亦往カ不、又李充カ云ク、仁ヲ極メ言ハマク欲、設テ云ク、井ニ救ヲ仁ト爲、當ニ從フ當シヤ不ヤ、故ニ夫子答テ云ク、何爲レソ其レ然ラン、言ハ何ソ此ノ如ナルニ至ン、是レ君子ノ人、若シ道一理ニ於テハ、宜ク爾ノ身モ猶ヲ亡ス可シ、故ニ云ク逝ク可シト、逝ハ往ナリ、若シ理不<sub>レ</sub>可ニ有テハ、肯テ不<sub>レ</sub>知ニ陷ラ不、故ニ云ク陷ラシム可不、君<sub>レ</sub>子ハ逆メ詐ラ不、故ニ闇昧ヲ以テ欺ク可シ、大<sub>レ</sub>德ハ正ニ居ル、故ニ非<sub>レ</sub>道ヲ以罔フ可ラ不、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「陷」、武内本作「誣罔令投下」五字。

【經】

子曰、君子博學於文、約之以禮、亦可以弗畔矣夫、

子ノ曰ク、君子ハ博ク文ヲ學テ、之ヲ約スルニ、禮

ヲ以テス、亦畔カ弗ル可シ、

【疏】

博廣也、約束也、畔違也、背也、言君子廣學六籍之文、又用禮自約束、能如此者、亦可得不違背於道理也、

博ハ廣ナリ、約ハ束ナリ、畔ハ違ナリ、背ナリ、言ハ君<sub>レ</sub>子ハ廣ク六籍ノ文ヲ學テ、又タ禮ヲ用テ自約束スルコト、能ク此ノ如キハ、亦道一理ニ違背セ不<sub>レ</sub>ルコトヲ得可シ、

【注】

鄭玄曰、弗畔不違道也、

鄭玄カ曰ク、畔カ弗トハ道ニ違ハ不<sub>レ</sub>ルソ、

【經】

子見南子、

子南子ニ見ユ、

【疏】

南子衛靈公夫人也、淫亂、而孔子入衛欲與之相見也、所以欲相見者、靈公唯婦言是用、孔子欲因南子說靈公使行正道也、故繆播云、應物而不擇者道也、兼濟而不辭者聖也、靈公無道、烝庶困窮、鍾救於夫子、物困不可以不救、理鍾不可以不應、應救之道、必明有路、路由南子、故尼父見之、渥而不緇、則處汚不辱、無可無不可、故兼濟而不辭、以道觀之、未有可猜也、

南子ハ衛ノ靈公ノ夫人ナリ、淫亂ナリ、而ルヲ孔子衛ニ入テ之與相ヒ見ント欲、相ヒ見ント欲スル所以ハ、靈公唯タ婦ノ言ヲ用フ、孔子南子ニ因テ靈公ニ說テ正道ヲ行ハ使メマク欲ス、故ニ繆播カ云ク、物ニ應シテ擇ハ不ル者ハ道ナリ、兼ネ濟テ辭セ不ル者ハ聖ナリ、靈公無道ニシテ烝庶困窮ナリ、救ヒ夫子ニ鍾ル、物困シテ救ハ不ハアル可不、理應セ不ハアル可ラ不ルニ鍾ル、救ニ應スルノ道、必ス路有ルコトヲ明ス、路ハ南子ニ由ル、故ニ尼父之ニ見ユ、渥スレ而緇マ不ル、則ハ汚ニ處ルトモ辱アラ不、可モ無ク不可モ無シ、故ニ兼ネ濟テ辭セ不、道ヲ以之ヲ觀レハ、未タ猜フ可キコト有ラ未、

【經】

子路不悅、

子路悅ヒ不、

【疏】

子路于時隨夫子、在衛、見夫子與淫亂婦人相見、故不悅也、繆播云、賢者守節慳之宜也。或以亦發孔子之答、以曉衆也、王弼云、案本傳、孔子不得已、而見南子、猶文王拘羑里、蓋天命之窮會也、子路以君子宜防患辱、是以不悅也

子路時于夫子ニ隨テ、衛ニ在リ、夫子淫亂ノ婦人與相ヒ見コトヲ見ル、故ニ悅ヒ不、繆播カ云ク、賢者ハ節ヲ守テ之ヲ慳フスル宜ナリ。或ハ亦孔子ノ答ヲ發シテ、衆ヲ(衆ニ)曉ス、王弼カ云ク、本傳ヲ案スルニ、孔子已ムコトヲ得不シテ、南子ニ見ユ、文王ノ羑里ニ拘ハルルカ猶シ、蓋シ天命ノ窮會ナリ、子路以ラク君子ハ宜ク患辱ヲ防宜シト(子路君子ハ宜ク患辱ヲ防宜シト以ヘリ)、是ヲ以テ悅ヒ不

【經】

夫子矢之曰、予所否者、天厭之天厭之

夫<sup>チカ</sup>子矢<sup>ノ</sup>ツテ<sup>ノ</sup>曰<sup>ノ</sup>ク、予カ否<sup>ス</sup>キ所<sup>ス</sup>ヲハ天<sup>フサ</sup>厭<sup>フサ</sup>カン天<sup>フサ</sup>厭<sup>フサ</sup>カル<sup>フサ</sup>（矢<sup>ノ</sup>ヘテ<sup>ノ</sup>曰<sup>ノ</sup>ク、予カ否<sup>ス</sup>キ所<sup>ス</sup>アルハ天<sup>フサ</sup>厭<sup>フサ</sup>カル天<sup>フサ</sup>厭<sup>フサ</sup>カル）

【疏】

矢誓也、予我也、否不也、厭塞也、子路既不悅、而孔子與之呪誓也、言我見南子。若有不善之事者、則天當厭塞我道也、繆播云、否不也、言體聖、而不爲聖者之事、天其厭塞此道耶、王弼曰、否泰有命、我之所屈不用於世者、乃天命厭之、言非人事所免也、重言之者、所以誓其言也、蔡謨云、矢陳也、尚書敍曰、臯陶矢<sup>（九）</sup>厭<sup>（一〇）</sup>謀也、春秋經曰、公矢<sup>（二）</sup>魚于堂、皆是也、夫子爲子路矢陳天命、非誓也、李充云、男女之別國之大節、聖人明義、敎正内外者也、而乃廢常違禮、見淫亂之婦人者、必以權道、有由而然、子路不悅、固其宜也、夫道消運否則、聖人亦否、故曰、予所否者、天厭之、厭亦否也、明聖人與天地、同其否泰耳、豈區區自明於子路而已、

矢ハ誓ナリ、予ハ我ナリ、否ハ不ナリ、厭ハ塞ナリ、子路既二悅ヒ不<sup>（一）</sup>、而ルヲ孔子之レ與呪誓ス、言ハ我レ南子ニ見ユ。若シ不<sup>（二）</sup>善ノ事有ラハ、則チ天當ニ我カ道ヲ厭<sup>（三）</sup>キ塞<sup>（四）</sup>ク當シ、繆播カ云ク、否ハ不ナリ、言ハ聖ヲ體シテ、聖者ノ事ヲ爲不<sup>（五）</sup>ンハ、天其レ此ノ道ヲ厭<sup>（六）</sup>キ塞<sup>（七）</sup>カン

耶、王弼カ曰ク、否泰命有リ、我カ屈シテ世ニ用ヒラレ不<sup>（八）</sup>ル所ハ、乃チ天ノ命厭<sup>（九）</sup>カル、言ハ人事ノ免ルル所ニ非ス、重テ之ヲ言フコトハ、其ノ言ヲ誓フ所以ナリ、蔡謨カ云ク、矢ハ陳ナリ、尚書ノ敍ニ曰ク、臯陶厭<sup>（一〇）</sup>ノ謀ヲ矢フ、春秋ノ經ニ曰ク、公魚ヲ堂ニ矢ヌ、皆是ナリ、夫<sup>（一一）</sup>子子路カ爲ニ天命ヲ矢ヘ陳フ、誓フニ非ス、李充カ云ク、男<sup>（一二）</sup>女ノ別ハ國ノ大節ナリ、聖人ハ義ヲ明シテ、内<sup>（一三）</sup>外ヲ敎ヘ正ス者ナリ、而ルヲ乃チ常ヲ廢シテ禮ニ違シテ、淫亂ノ婦人ニ見ルコトハ、必ス權道ヲ以テス、由有テ然カリ、子路悅ヒ不<sup>（一四）</sup>ルハ、固ニ其レ宜ナリ、夫レ道消<sup>（一五）</sup>運<sup>（一六）</sup>否ナル則ハ、聖人モ亦タ否ナリ、故ニ曰ク、予カ否<sup>（一七）</sup>キ所アルハ、天<sup>（一八）</sup>厭<sup>（一九）</sup>カル、厭ハ亦否ナリ、明ケシ聖人ハ天地與、其ノ否泰ヲ同フスル耳、豈ニ區區トシテ自<sup>（二〇）</sup>子路ニ明カス而已ナランヤ、

【注】

孔安國曰、等以爲南子者衛靈公夫人也、淫亂而靈公惑之、孔子見之者、欲因以說靈公、使行治道也、矢誓也、子路不悅、故夫子誓之、曰行道既非婦人之事、而弟子不說、與之咒誓義可疑也、

孔安國カ曰ク、等ク以爲ラク南子ハ衛ノ靈公ノ夫人、

淫<sup>ヒトシ</sup>亂ニシテ靈公之ニ惑フト(等ク南子ハ衛ノ靈公ノ夫人、淫<sup>ヒトシ</sup>亂ニシテ靈公之ニ惑フト以爲ヘリ)、孔子之ヲ見ルコトハ、因テ以テ靈公ニ説テ、治道<sup>おも</sup>ヲ行ハ使メマク欲ス、矢ハ誓ナリ、子路悦ヒ不<sup>ス</sup>、故ニ夫子之ニ誓テ、曰ク道ヲ行フコトハ既ニ婦人ノ事ニ非ス、而レハ弟子説ハ不<sup>ス</sup>、之與<sup>ト</sup>咒<sup>ス</sup>誓スルコトハ義疑フ可ケレハナリ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「烝」、武内本作「衆」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「慳」、武内本作「怪」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「者」、武内本無此字。
- (七) 「予我也」、武内本無此三字。
- (八) 「云」、武内本作「曰」。
- (九) 「云」、武内本作「曰」。
- (一〇) 「厥」、武内本作「其」。
- (一一) 「堂」、武内本作「棠」。
- (一二) 「云」、武内本作「曰」。
- (一三) 「天厭之」下、武内本又有「天厭之」三字。

【經】

子曰、中庸之爲德也、其至矣乎、民鮮久矣、

子ノ曰ク、中<sup>のたまは</sup>庸ノ德爲ルコト、其レ至レル<sup>カナ</sup>矣、民鮮<sup>ス</sup>キコト久シ、

【疏】

中中和也、庸常也、鮮少也、言中和可常行之德、是先王之  
道、其理甚至善、而民少有行此者也、已久言可歎之深也、

中ハ中和ナリ、庸ハ常ナリ、鮮ハ少ナリ、言<sup>いふこと</sup>ハ中和  
ハ常ニ行フ可キノ德ナリ、是レ先王ノ道ナリ、其ノ理甚  
タ至<sup>いた</sup>善ニシテ、民此ヲ行フ者有ルコト少シ、已<sup>いふこと</sup>ニ久トハ  
言<sup>いふこと</sup>ハ歎ス可キノ深ナリ、

【注】

庸常也、中和可常行之德也、世亂先王之道廢、民鮮能行此  
道、久矣非適今也、

庸ハ常、中<sup>のたまは</sup>和ハ常ニ行フ可キノ德ナリ、世<sup>ハ</sup>亂レテ先王  
ノ道<sup>ノ</sup>廢ス、民能ク此ノ道ヲ行フコト鮮<sup>すな</sup>シ、久ト<sup>ハ</sup>矣<sup>ハタ</sup>適<sup>タ</sup>タ  
今<sup>けふ</sup>ノミニ<sup>あらす</sup>非、

【經】

子貢曰、如能博施於民、而能濟衆者何如、可謂仁乎、

子貢カ曰ク、如シ<sup>モ</sup>能ク博ク民ニ施シテ、能ク衆ヲ濟ハハ<sup>ス</sup>何<sup>イカ</sup>如、仁ト謂フ可シヤ、

【疏】

子貢問言、若有人所能廣施恩惠於民、又能救濟衆民之患難、能如此者何如、可得謂爲仁人否乎

子貢問テ言ク、若シ人能ク<sup>一</sup>廣ク恩惠ヲ民ニ施ス所有テ、又能ク衆<sup>一</sup>民ノ患難ヲ救ヒ<sup>一</sup>濟フコト、能ク此ノ如ハ<sup>一</sup>何<sup>イカ</sup>如、得テ謂テ仁<sup>一</sup>人ト爲可シヤ否ヤ

【經】

子曰、何事於仁、必也聖乎、

子ノ曰ク、何ソ仁ヲシモ事トセン、必ス聖ヲ乎、<sup>カ</sup>

【疏】

孔子答也、云若能如此者、何事是仁乎、乃是聖人之行、而聖人猶、病其事之難行也、

孔子ノ答ナリ、云<sup>ノたまは</sup>ク若シ能ク此ノ如キンハ、何ソ是レ仁ヲシモ事トセン乎<sup>ヤ</sup>、乃チ是レ聖<sup>一</sup>人ノ行ニシテ、聖<sup>一</sup>人タモ猶ヲ、其ノ事ノ行ヒ難コトヲ病メリ、

【經】

堯舜其猶病諸、

堯舜モ其レ猶ヲ病メリ、<sup>ヤ</sup>

【疏】

堯舜古聖天子也、病猶患也、諸之也、又言、前所能之事、乃是聖人之行、而聖人猶病患其事之難行也、

堯舜ハ古ノ聖<sup>一</sup>天子ナリ、病ハ患ノ猶シ<sup>こと</sup>、諸ハ之ナリ、又言<sup>いふこと</sup>ハ、前ノ能クスル所<sup>ところ</sup>ノ事ハ、乃チ是レ聖<sup>一</sup>人ノ行ニシテ、而シテ聖<sup>一</sup>人猶ヲ其ノ事ノ行ヒ難コトヲ病患ス、

【注】

孔安國曰、若能廣施恩惠、濟民於患難、堯舜至聖、猶病其難也、

孔安國カ曰ク、若シ能ク廣ク恩惠ヲ施シテ、民ヲ患難ニ



濟スフコトハ、堯舜ノ至<sup>一</sup>聖タモ、猶レヲ其ノ難カタキコトヲ病メ  
リ、

【經】

夫仁者、己欲立而立人、己欲達而達人、

夫レ仁<sup>一</sup>者ハ、己立<sup>おのレ</sup>ント欲シテ人ヲ立ツ、己達<sup>おのレ</sup>セント欲  
シテ人ヲ達ス、

【疏】

既云、前事不啻是仁、爲聖所難、故此更答爲仁之道也、言  
己若欲自立自達、則必先立達他人、則是<sup>レ</sup>有仁之者也、

既ニ云ク、前ノ事ハ啻<sup>タ</sup>タ是レ仁ノミニ不、聖ノ難シト  
スル所ト爲、故ニ此ニ更ニ仁ヲ爲ルノ道ヲ答フ、言ハ  
己若<sup>おのレ</sup>シ自<sup>ミツカラ</sup>立<sup>ミツカラ</sup>シ自<sup>ミツカラ</sup>達セント欲シテ、則チ必ス先ツ他  
人ヲ立<sup>ミツカラ</sup>達セハ、則チ是レ仁有ルノ者ナリ、

【經】

能近取譬、可謂仁之方也已、

能ク近ク譬ヲ取ル、仁ノ方ト謂フ可ラク已、

【疏】

能近取譬於諸身、遠取諸物、己所不欲、勿施於人、能如此  
者、可謂爲仁之方也、方猶道也、

能ク近ク譬ヲ身ニ取テ、遠ク物ニ取ル、己カ欲セ<sup>ミ</sup>不<sup>ス</sup>ル所  
ヲハ、人ニ施スコト勿レ、能ク此ノ如キンハ、仁ヲ爲ルノ  
方ト謂ツ可シ、方ハ道ノ猶シ、

【注】

孔安國曰、更爲子貢、說仁者之行也、方道也、但能近取譬  
於己、皆恕、己所不欲、而勿施人也、

孔安國カ曰ク、更ニ子貢カ爲ニ、仁者ノ行ヲ説ク、方ハ  
道ナリ、但タ能ク近ク譬ヲ己ニ取ル、皆<sup>みな</sup>恕<sup>おもんばかり</sup>テ、己  
カ欲セ<sup>ミ</sup>不<sup>ス</sup>ル所ヲハ、人ニ施スコト勿レ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「乎」、武内本作「也」。
- (三) 「病」下、武内本有「患」字。
- (四) 「方」、武内本作「道」。

論語義疏卷第三經一千七百一十一字／注二千八百二十字

(一) 「卷」、武内本無此字。

(二) 「經一千七百一十一字／注二千八百二十字」、小字  
雙行。

論語義疏第四述而／泰伯  
述而第七疏

梁國子助教具郡皇侃撰

(一) 「第一」上、武内本有「卷」字。

(二) 「述而／泰伯」、小字雙行。

(三) 「述」上、武内本有「論語」二字。

(四) 「七」下、武内本有「何晏集解」四字、「舊卅九章」今卅八章」八字(小字雙行)。

(五) 「疏」、武内本別行跳格。

# 【疏】

述而者、明孔子行教、但祖述堯舜、自比老彭、而不制作也、所以次前者、時既夷嶮、聖賢地閉、非唯二賢之不遇、而聖亦乖常、故以聖不遇、證賢不遇非賢之失、所以述而次雍也

述而ハ孔子教ヲ行フコト、但タ堯舜ヲ祖述シテ、自老彭ニ比シテ、制作セサルコトヲ明ス、前ニ次ツル所以ハ、時既ニ夷嶮ニシテ、聖賢ノ地閉ツ、唯タ二賢ノ遇ハサルノミニ非ス、而シテ聖モ亦タ常ニ乖ク、故ニ聖ノ遇ハサルヲ以、賢ノ遇ハサルカ賢ノ失ニ非コトヲ證ス、

述而ヲ雍也ニ次ク所以ナリ

(一) 「乖」、武内本作「失」。

# 【經】

子曰、述而不作、

子ノ曰ク、述ヘ而作セズ、

# 【疏】

此孔子自説也、述者傳於舊章也、作者新作制禮樂也、孔子自言、我但傳述舊章、而不新制禮樂也、夫得制禮樂者、必須德位兼竝、德爲聖人、尊爲天子者也、所以然者、制作禮樂、必使天下行之、若有德無位、既非天下之主、而天下不畏則、禮樂不行、若有位無德、雖爲天下之主、而天下不服則、禮樂不行、故必須竝兼者也、孔子是有德無位、故述而不作也、

此ハ孔子自説ク、述者トハ舊章ヲ傳ルナリ、作スルトハ新ニ禮樂ヲ作制スルナリ、孔子自言ク、我但タ舊章ヲ傳ヘ述ヘテ新ニ禮樂ヲ制セズ、夫レ禮樂ヲ制スルコトヲ得ル者ハ、必ス德位兼竝フコトヲ須ツ、德聖

人爲<sup>タ</sup>リ、尊<sup>ト</sup>天子爲<sup>タ</sup>ル者ナリ、然ル所<sup>ユ</sup>以<sup>ン</sup>ハ、禮樂ヲ制作シテ、必<sup>カナラ</sup>天下ヲ使<sup>シ</sup>シテ之ヲ行ハ使<sup>シ</sup>ム、若シ德有テ位無クンハ、既<sup>ス</sup>天下ノ主ニ非ス、而シテ天下畏<sup>ス</sup>レ不<sup>ス</sup>ル則<sup>ト</sup>ハ、禮樂行ハレ不<sup>ス</sup>、若シ位有テ德無キトキハ、天下ノ主爲<sup>タ</sup>リト雖<sup>イヘ</sup>モ、天下服セ不<sup>ス</sup>ル則<sup>ト</sup>ハ、禮樂行ハレ不<sup>ス</sup>、故ニ必ス竝<sup>ニ</sup>ヘ<sup>ル</sup>兼<sup>ニ</sup>コトヲ須<sup>マ</sup>ツ者ナリ、孔子ハ是レ德有テ位無シ、故ニ述<sup>テ</sup>ヘ<sup>ル</sup>而作セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、

### 【經】

信而好古、

信シテ古ヲ好ム、

### 【疏】

又言、已常存於忠信、而復好古先<sup>（一）</sup>土之道、故云信而好古也、所以中庸云、仲尼祖述堯舜、憲章文武是也、

又<sup>ノ</sup>言<sup>ハ</sup>ク、已<sup>オノ</sup>常<sup>ニ</sup>二忠<sup>一</sup>信ヲ存シテ、復<sup>マ</sup>古<sup>ノ</sup>先<sup>（二）</sup>土ノ道ヲ好ム、故ニ云ク信シテ古ヲ好ム、所<sup>コノ</sup>以<sup>ユ</sup>ニ中庸ニ云ク、仲尼堯舜ヲ祖<sup>ノ</sup>述シテ、文<sup>ノ</sup>武ヲ憲<sup>ニ</sup>章ニストイフ是レナリ、

### 【經】

竊比於我於老彭

竊ニ我ヲ老彭ニ比ス

### 【疏】

竊猶盜也、老彭彭祖也、年八百歲、故曰老彭也、老彭亦有德無位、但述而不作、信而好古、孔子欲自比之、而謙不敢<sup>（三）</sup>灼<sup>（四）</sup>然、故云竊比也、

竊ハ盜ノ猶<sup>ニ</sup>シ、老彭ハ彭祖ナリ、年八百歳、故ニ老彭ト曰フ、老彭モ亦德有テ位無シ、但タ述ヘ<sup>テ</sup>而作セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、信シテ古ヲ好ム、孔子自<sup>ミツ</sup>之ニ比セント欲ス、而シテ謙シテ敢テ灼<sup>シヤク</sup>然タラ不<sup>ス</sup>、故ニ竊ニ比スト云フ、

### 【注】

荀氏曰、老彭殷賢大夫也、好述古事、我若老彭矣、但述之耳也、

荀氏カ曰ク、老彭ハ殷ノ賢大夫ナリ、好<sup>コノ</sup>テ古ノ事ヲ述フ、我老彭ノ若<sup>コト</sup>シ、但タ之ヲ述フラク耳、

〔一〕「作」、武内本無此字。

〔二〕「土」、武内本作「王」。

〔三〕「云」、武内本作「曰」。

〔四〕「灼」、武内本作「均」。

〔五〕「云」、武内本作「曰」。

〔六〕「但」、武内本作「祖」。

【經】

子曰、默而識之、

子ノ曰ク、默<sup>のたまは</sup>而之ヲ識リ(識ル)、

【疏】

見事心識、而口不言、謂之默識<sup>(二)</sup>者也、

事ヲ見テ心ニ識テ、口ニ言ハ不<sup>す</sup>之ヲ默シテ識ルト謂フ者ナリ、

【經】

學而不厭、

學テ厭ハ不<sup>ス</sup>、

【疏】

又學先王之道、而不厭止也、<sup>(三)</sup>

又先王ノ道ヲ學テ、厭<sup>いと</sup>ヒ止マ不<sup>や</sup>ス、

【經】

誨人不倦、

人ヲ誨<sup>ヲシ</sup>ヘテ倦<sup>う</sup>マ不<sup>ス</sup>、

【疏】

誨教也、又教一切之人、而不疲倦也、

誨ハ教ナリ、又一一切ノ人ヲ教ヘテ、疲倦セ不<sup>す</sup>、

【經】

何有於我哉、

何ソ我ニ有ルヤ、

【疏】

何有於我者、言世人無此諸行、故天下貴於我耳、若世人皆

有此三行、則何復貴有於我哉、故李充云、言人若有此三行者、復何有貴於我乎、斯勸學敦誨誘之辭也、

何ソ我ニ有ルヤトハ、言ハ世一人此ノ諸行無シ、故二天一我ヲ貴フ耳、若シ世一人皆此ノ三行有ラハ、何ソ復タ貴キコト我ニ有ランヤ、故二李充カ云ク、言ハ人若シ此ノ三行有ラハ、復何ソ我ヲ貴コト有ランヤ、斯レ學ヲ勸メテ敦ク誨ヘ誘クノ辭ナリ、

【注】

鄭玄曰、言人無有是行、

鄭玄カ曰ク、言ハ人は一人行有ルコト無シ、

【疏】

言天下人、皆無此三行也、

言ハ天下ノ人、皆此ノ三行無シ、

【注】

於我、我獨有之也、

於我トハ、我獨リ之レ有ルソ、

【疏】

釋於我哉也、言由我獨有之、故天下貴有於我也、

於我哉ヲ釋ス、言ハ我獨リ之レ有ルニ由ル、故二天下貴コト我ニ有リ、

(一) 「心」、武内本作「必」。

(二) 「者」、武内本無此字。

(三) 「止」、武内本無此字。

(四) 「何有於我者」、武内本無此五字。

(五) 「世」、武内本無此字。

(六) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、德之不修也、

子ノ曰ク、徳ヲ修メヌ、

【疏】

得理之事、宜修治在身也、而世人不修也、

理ヲ得ルノ事ハ、宜ク修治シテ身ニ在ク宜シ、而ルヲ世人修メ不<sup>+</sup>、

【經】

學之不講也、

學テ講セ不<sup>+</sup>、

【疏】

所學經業、恆宜講說使決了也、而世人不講也、

學フ所ノ經業、恆ニ宜ク講說シテ決了セ使ム宜シ、而ルヲ世人講セ不<sup>+</sup>、

【經】

聞義不能徙也、

義ヲ聞テ徙ルコト能ハ不<sup>+</sup>、

【疏】

聞有仁義之事、徙意從之也、而世人不徙也、

仁義有ルノ事ヲ聞カハ、意ヲ徙シテ之ニ從ハン、而ルヲ世人徙ラ不<sup>+</sup>、

【經】

不善不能改也、

不<sup>+</sup>善ヲ改ムルコト能ハ不<sup>+</sup>、

【疏】

身本有不善、當自改正令善也、而世人不改也、

身ニ本ト不<sup>+</sup>善有ラハ、當ニ自改正シテ善カラ令ム當シ、而ルヲ世人改メ不<sup>+</sup>、

【經】

是吾憂、

是レ吾カ「憂ナリ、

【疏】

吾孔子自謂也、言孔子恆憂世人不爲上四事也、

吾トハ孔子自謂ナリ、言ハ孔子恆ニ世一人ノ上ノ四事ヲ爲不ルコトヲ憂フ、

【注】

孔安國曰、夫子常以此四者、爲憂也、

孔安國カ曰ク、夫子常ニ此ノ四ノ者ヲ以テ、憂ト爲、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「徙」、武内本作「從」。

(三) 「也」、武内本無此字。

(四) 「徙」、武内本作「從」。

(五) 「憂」下、武内本有「也」字。

(六) 「此」、武内本無此字。

【經】

子之燕居申申如也、夭夭如也、

子ノ燕居スルトキニ申申如タリ、夭夭如タリ、

【疏】

明孔子居處有禮也、燕居者、退朝而居也、申申者心和也、

夭夭者貌舒也、玉藻云、燕居、告溫溫、注告謂教便也、溫溫恭大、鄉黨云、居不容、故當燕居時、所以心和而貌舒也、故孫綽云、燕居無事、故云、心内夷和、外舒暢者也、

孔子居處ニシテ禮有ルコトヲ明ス、燕居トハ、朝ヨリ退ツテ居ルナリ、申申ハ心ノ和スルソ、夭夭ハ貌ノ舒フルソ、玉藻ニ云ク、燕居スルトキニ、告ルニ溫溫タリ、注ニ告トハ教便ヲ謂フ、溫溫ハ恭大ナリ、鄉黨ニ云ク、居ルトキニ容リセ不、故ニ燕居ノ時ニ當テ、心和シテ貌舒ル所以ナリ、故ニ孫綽カ云ク、燕居スルトキハ無事ナリ、故ニ云ク、心内夷和シテ、外舒暢ナル者ナリ、

【注】

馬融曰、申申夭夭、和舒之貌也、

馬融カ曰ク、申申夭夭ハ、和舒ノ貌ソ、

【疏】

申申心申暢、故和也、貌舒緩故夭夭也、詩云、桃之夭夭、灼灼其華、即舒美義也、



申<sup>カ</sup>申<sup>カ</sup>トハ心ハ申暢タリ、故ニ和ナリ、貌<sup>カタチ</sup>舒<sup>シヤク</sup>緩ナリ故ニ天<sup>シヤク</sup>天タリ、詩ニ云ク、桃ノ夭<sup>シヤク</sup>夭タル、灼灼タル其ノ華アリ、即チ舒<sup>シヤク</sup>美ノ義ナリ、

(一) 「告」、武内本作「貌」。

(二) 「注告謂教便也、温温恭大」、武内本無此十字。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「舒美」、武内本作「美舒」。

【經】

子曰、甚矣吾衰也、久矣吾不復夢見周公也、

子ノ曰ク、甚シイ<sup>カナ</sup>矣<sup>カ</sup>吾カ<sup>カ</sup>衰ヘタルコト、久シイ<sup>カナ</sup>矣<sup>カ</sup>吾復タ夢ニタモ周公ヲ見ス、

【疏】

夫聖人行教、既復<sup>(一)</sup>須得<sup>(二)</sup>德位兼竝、若不爲人主、則必爲佐相、聖而君相者周公是也、雖不九五、亦得<sup>(三)</sup>制作<sup>(四)</sup>禮樂、道化流行、孔子乃不敢期於天位、亦猶願放乎周公、故年少之日、恆存慕發夢、及至年齒衰朽、非唯道教不行、抑亦不復夢見、所以知己德衰、而發衰久矣、即歎不夢之微也。然聖人懸照、本無俟夢想、而云夢者、同物而示衰故也、故李充

云、聖人無想、何夢之有、蓋傷周德之日衰、哀道教不行、故寄慨於不夢、發歎於鳳鳥也、

夫レ聖人ノ教ヲ行フコト、既ニ復<sup>またす</sup>須<sup>から</sup>ク德位兼不<sup>カ</sup>竝コトヲ得<sup>う</sup>須<sup>も</sup>シ、若シ人主爲<sup>タ</sup>ラズレハ、必ス佐<sup>サ</sup>相爲<sup>タ</sup>リ、聖ニシテ君ノ相タル者ハ周公是ナリ、九一五ニ不ト雖、亦禮樂ヲ制作シテ、道化流行スルコトヲ得、孔子乃チ敢テ天位ヲ期セ不、亦猶<sup>また</sup>ハ周公ニ放<sup>ナラ</sup>ハンコトヲ願フ、故ニ年少ノ日ハ、恆<sup>つね</sup>ニ慕<sup>ス</sup>シテ夢ヲ發ス、年齒衰朽スルニ至ルニ及テ、唯道教ノ行ハレ不<sup>ス</sup>ルニ非ス、抑モ亦タ復夢ニタモ見不、己カ德ノ衰コトヲ知ル所以ニシテ、衰ヘタルコト久<sup>カナ</sup>矣<sup>カ</sup>トイフコトヲ發シテ、即チ夢ミ不<sup>ス</sup>ルノ微ヲ歎ス。然ルニ聖人ハ懸ニ(懸ニ)照シテ、本ト夢<sup>シ</sup>想ヲ俟<sup>マ</sup>ツコト無シ、而ルヲ夢ト云フコトハ、物ニ同シテ衰ヘタルコトヲ示ス故ナリ、故ニ李充カ云ク、聖人ハ想フコト無シ、何ノ夢カ有ラン、蓋シ周ノ德ノ日ニ衰ルコトヲ傷ミ、道教ノ行ハレ不<sup>ス</sup>ルコトヲ哀ム、故ニ慨<sup>カイ</sup>ヲ(慨ヲ)不夢ニ寄セ、歎ヲ鳳鳥ニ發ス、

【注】

孔安國曰、孔子衰老、不復夢見周公也、明盛時夢見周公、欲行其道也、

孔安國カ曰ク、孔子衰<sup>レ</sup>老シテ、復夢タモ周公ヲ見<sup>ス</sup>不<sup>ズ</sup>、明ケシ盛<sup>さかん</sup>ナツシ<sup>レ</sup>時ハ夢ニ周公ヲ見<sup>また</sup>テ、其ノ道ヲ行ハマク欲セシコトヲ、

【疏】

即謂攝行天子事、而復制禮作樂也、

天子ノ事ヲ攝シ<sup>レ</sup>行テ、復タ禮ヲ制シ樂ヲ作スコトヲ謂フ、

- (一) 「復」、武内本無此字。
- (二) 「得」、武内本無此字。
- (三) 「亦」、武内本作「而」。
- (四) 「制作禮樂」、武内本作「制禮作樂」。
- (五) 「日」上、武内本有「即」字。
- (六) 「云」、武内本作「日」。
- (七) 「教」下、武内本有「之」字。

【經】

子曰志於道、

子ノ曰ク道ニ志シ、

【疏】

此章明人生處世、須道藝自輔、不得徒然而已也、志者在心向慕之謂也、道者通而不壅者也、道既是通、通無形相、故人當恆存志之在心、造次不可暫捨離者也、

此ノ章ニハ人<sup>レ</sup>生レテ世ニ處ツテ、道<sup>レ</sup>藝ヲ須イテ自<sup>ミツから</sup>輔ケテ、徒<sup>レ</sup>然ヲ得<sup>さ</sup>不<sup>レ</sup>ルコトヲ明ス而<sup>レ</sup>已、志ト<sup>ハ</sup>者心ニ在テ向<sup>レ</sup>慕スルノ謂ナリ、道<sup>レ</sup>者通シテ壅カラ<sup>さ</sup>不<sup>レ</sup>ル者ナリ、道ハ既ニ是レ通ス、通シテ形<sup>ハ</sup>相無シ、故ニ人當ニ恆<sup>もつね</sup>ニ志ノ心ニ在ルコトヲ存ス當シ、造次<sup>スミヤカニ</sup>（造次）ニモ暫クモ捨テ<sup>ヘ</sup>離ル可<sup>か</sup>ラ<sup>ま</sup>不<sup>レ</sup>ル者ナリ、

【注】

志慕也、道不可體、故志之而已矣、

志ハ慕ナリ、道ハ體ス可<sup>へから</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ之ニ志ス而<sup>レ</sup>已、

【疏】

不可體、謂無形體也、

體ス可<sup>へから</sup>不<sup>ス</sup>トハ、謂フ形體無キヲ、

【經】

據於德、

德二據リ、

【疏】

據者執杖之辭也、德謂行事得理者也、行事有形、有形故可據杖也、

據<sup>ヨ</sup>ルトハ執<sup>ト</sup>リ杖<sup>ヨ</sup>ルノ（杖<sup>ヨ</sup>ルノ）辭ナリ、德トハ事ヲ行テ理ヲ得ル者ヲ謂フ、行フ事ハ形有リ、形有ルカ故ニ據<sup>ヨ</sup>リ杖<sup>ヨ</sup>ル可シ、

【注】

據杖也、德有成形、故可據也、

據<sup>キヨ</sup>ハ杖、德ハ成<sup>キ</sup>形有リ、故ニ據<sup>ヨ</sup>ル可シ、

【疏】

前事有涯、故云有形也、

前事ハ涯<sup>カキ</sup>リ有リ、故ニ形<sup>カタチ</sup>有リト云フ、

【經】

依於仁、

仁ニ依リ、

【疏】

依<sup>ニ</sup>倚也、仁者施惠之謂也、施惠、於事宜急、故當倚之而行也、仁者劣<sup>ニ</sup>於德倚減於據、故隨事而配之、

依ハ倚ナリ、仁ト者惠ヲ施スノ謂ナリ、惠ヲ施スコト、事ニ於テ宜ク急<sup>スミヤカ</sup>ナル宜シ、故當ニ之ニ倚テ行フ當シ、仁ハ德ヨリ劣<sup>ヲト</sup>リ倚ハ據ヨリ減ス（減<sup>ヲト</sup>ル）、故ニ事ニ隨テ之ヲ配ス、

【注】

依倚也、仁者功施於人、故可倚之也、

依ハ倚ナリ、仁者ハ功ヲ人ニ施ス、故ニ之ニ倚ル可シ、

【經】

遊於藝、

藝二遊フ、

【疏】

遊者履歷之辭也、藝六藝、謂禮、樂、書、數、射、御也、其輕於仁、故云不足依據、而宜遍遊歷以知之也、

遊フト者履ミ歴ルノ辭ナリ、藝ハ六藝ナリ、禮、樂、書、數、射、御ヲ謂フ、其レ仁ヨリ輕シ、故ニ云ク依リ據ルニ足ラ不、而シテ宜ク遍ク遊歴シテ以テ之ヲ知ル宜シ、

【注】

藝六藝也、不足據依、故曰遊也、

藝ハ六藝ナリ、據リ依ルニ足ラ不、故ニ遊フト曰フ、

- (一) 「壅者」、武内本作「擁」。
- (二) 「矣」下、武内本有「也」字。
- (三) 「依」下、武内本有「依」字。
- (四) 「者」、武内本無此字。
- (五) 「云」、武内本無此字。
- (六) 「依」、武内本無此字。

【經】

子曰、自行束脩以上、吾未嘗無誨焉、

子ノ曰ク、自束脩以<sub>ミ</sub>上<sub>ニ</sub>ヲ行ツルトキハ、吾未<sub>レ</sub>タ嘗<sub>レ</sub>ヨリ誨フルコト無シハ未<sub>レ</sub>、

【疏】

此明孔子教化有感必應者也、束脩十束脯也、古者相見、必執物爲贄、贄至也、表已來至也、上則人君用玉、中則卿羔、大夫雁、士雉、下則庶人執鵷、工商執雞、其中或束脩壺酒一犬、悉不得無也、束脩最是贄之至輕者也、孔子言、人若能自施贄、行束脩以上、來見謁者則我未嘗不教誨之、故江熙云、見其翹然向善思益也、古以贄見、脩脯也、孔注雖不云脩是脯、而意亦不得離脯也、

此レハ孔子教<sub>レ</sub>化<sub>シ</sub>ノ感有テ必ス應スルコトヲ明ス者ナリ、束脩ハ十束ノ脯ナリ、古ニハ相ヒ見ルトキハ、必物ヲ執テ贄ト爲<sub>ス</sub>、贄ハ至ナリ、己カ來<sub>ニ</sub>至<sub>ル</sub>ヲ表<sub>ス</sub>、上ハ則チ人君ハ玉ヲ用フ、中ハ則チ卿ハ羔、大夫ハ雁、士ハ雉、下ハ庶人ハ鵷<sub>（鵷）</sub>ヲ執リ、工商ハ雞ヲ執ル、其ノ中或ハ束脩壺酒一犬アリ、悉ニ無キコトヲ得<sub>ス</sub>不、束脩ハ最モ是レ贄ノ至<sub>ニ</sub>テ輕キ者ナリ、孔子ノ言ク、人若シ能

ク自ミツカラ贅ヱヲ施シテ、束脩ミツカラ以上ヲ行テ、來テ見ミ謁ミスル者  
ニハ我われ未タ嘗なほヨリ之ニ教し誨すセ不ずンハアラ未、故ニ江熙カ  
云ク、其ノ翹ギョウ(翹ミマタツ)然トシテ善ニ向ヒ益スヲ思おもフコトヲ  
見みス、古ニハ贅ヱヲ以見ユ、脩ハ脯ナリ、孔力注ニ脩ハ是  
レ脯ナリト云ハ不ト雖、意亦タ脯ヲ離ルルコト得不し、

## 【注】

孔安國曰、言人能奉禮、自行束脩以上、則皆教誨之也、

孔安國カ曰ク、言いふことハ人能ク禮ヲ奉シテ、自束脩以  
上ヲ行ツルトキハ、皆之ヲ教ヘし誨フ、

(一) 「執」、武内本無此字。

(二) 「難」、武内本作「鷄」。

## 【經】

子曰、不憤ふん不啓ふ、不悱ふ不發はつ、

子ノ曰ク、憤(憤)セ不ずンハ啓セ不ず、悱(悱)セ不ずン  
ハ發セ不ず、

## 【疏】

又明孔子教人法也、憤謂學者之心、思義未得、而憤憤然  
也、啓開也、悱謂學者之口欲有所語、而未能宣、悱悱然  
也、發發明也、言孔子之教待人心憤憤、乃後爲開導之、若  
不憤、則不爲開也、又待其口悱悱、而後乃爲發明之、若不  
悱、則不爲發明也、所以然者、人若不悱憤、而先爲啓發  
則、受者識錄不堅、故須悱憤、乃爲發啓則、聽受分明、憶  
之深也、

又孔子人ヲ教ルノ法ヲ明ス、憤ハ學者ノ心、義ヲ思テ未  
タ得未シテ、憤憤然タルヲ謂フ、啓ハ開ナリ、悱ハ學  
者ノ口ニ語フ所有ラント欲シテ、未タ宣フルコト能ハ未シ  
テ、悱悱然タルヲ謂フ、發ハ發明ナリ、言いふことハ孔子ノ  
教ルコト人ノ心ノ憤憤タルヲ待テ、乃シ後二爲ニ之ヲ  
開導ス、若シ憤ふんタル不レハ、開コトヲ爲不ず、又其ノ口ノ  
悱悱タルヲ待テ、而シテ後二乃シ爲ニ之ヲ發明ス、若  
シ悱ふタル不レハ、發明スルコトヲ爲不ず、然ル所以ハ、人  
若シ悱憤ふんタル不シテ、先ツ啓せヲ發はつヲ爲ス則ハ、受ル者  
識録スルコト堅カラ不、故ニ悱憤ふんヲ須テ、乃シ爲ニ發  
啓スル則ハ、聽受スルコト分明ニシテ、之ヲ憶フコト深  
シ、

【經】

舉一隅而示之、不以三隅反則、吾不復、

一隅ヲ舉テ之ニ示スニ、三隅ヲ以反セサル則ハ、吾復  
タセ不、

【疏】

隅角也、床有四角、屋有四角、皆曰隅也、孔子爲教、雖待  
悱憤而爲開發、開發已竟、而此人不識事類、亦不復教之  
也、譬如屋有四角、已示之一角、餘三角從類可知、若此人  
不能以類反識三角、則不復教示也、

隅ハ角ナリ、床ニ四角有リ、屋ニ四角有リ、皆隅ト曰  
フ、孔子教ヲ爲スコト悱憤ヲ待爲ニ開<sup>ミチ</sup>發ス、雖、開<sup>ミチ</sup>發  
スルコト已ニ<sup>ヲハリ</sup>竟テ、此ノ人事ノ類ヲ識ラ不レハ、亦  
復之ニ教ヘ不、譬ハ屋ニ四角有ルカ如シ、已ニ之ニ一角  
ヲ示ス、餘ノ三角ハ類ニ從テ知ヌ可シ、若シ此ノ人類  
ヲ以反テ三角ヲ識ルコト能ハ不<sup>ス</sup>ハ、復教ヘ示サ不、

【注】

鄭玄曰、孔子與人言、必待其人心憤憤口悱悱、乃後啓發、  
爲之說、如此則識思之深也、說則舉一隅以語之、其人不思

其類、則不後重教之也、

鄭玄カ曰ク、孔子人與言フトキハ、必ス其ノ人ノ心ノ憤  
憤口ノ悱悱タルヲ待テ、乃シ後ニ啓<sup>ミチ</sup>發シテ、之カ爲ニ說  
ク、此ノ如キ則ハ識リ思フコトノ深ナリ、說ク<sup>ミチ</sup>則ハ  
一隅ヲ舉テ之ニ語ルニ、其ノ人其ノ類ヲ思ハ不<sup>ス</sup>ル、則  
ハ後重<sup>カサネ</sup>テ之ヲ教ヘ不、

(一) 「已」、武内本作「己」。

(二) 「說」下、武内本有「也」字。

(三) 「後」、武内本作「復」。

【經】

子食於有喪者之側、未嘗飽也、  
子畏有<sup>ウ</sup>ル者ノ側ニ食スルトキニ、未<sup>ム</sup>タ嘗<sup>ムカシ</sup>ヨリ飽<sup>アゲ</sup>マテニセ  
未、

【疏】

謂孔子助葬時也、爲應執事、故必食也、必有哀色、故不飽  
也、故云、禮云、飢而廢事非禮也、飽而忘哀亦非禮也、

孔子葬ヲ助クル時ヲ謂フ、爲ニ事ヲ執ル應シ、故ニ必ス食

ス、必ス哀色有り、故ニ飽クマテニセ不<sup>ス</sup>、故ニ云ク、禮ニ云ク、飢テ事ヲ廢ス禮ニ非<sup>あらす</sup>、飽クマテニ<sup>レテ</sup>而哀ヲ忘ルルハ亦禮ニ非ス、

【經】

子於是日也。哭則不歌、

子是ノ日ニ於テ。哭スル則ハ歌ハ不<sup>す</sup>、

【疏】

謂孔子弔喪之日也、弔喪必哭、哭歌不可同日、故是於弔哭之日不歌也、故范寧云、是日、即弔赴之日也、禮歌哭不同日也、哭則不歌也、

孔子喪ヲ弔<sup>トウツ</sup>ノ日ヲ謂フ、弔<sup>テウ</sup>喪ニハ必ス哭ス、哭<sup>ス</sup>歌日ヲ同フス可<sup>へからす</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ是レ弔<sup>ス</sup>哭ノ日ニ於テ歌ハ不<sup>ス</sup>、故ニ范寧カ云ク、是ノ日トハ、即チ弔<sup>赴</sup>ノ日ナリ、禮ニ歌<sup>ス</sup>哭日ヲ同フセ不<sup>ス</sup>、哭スル則ハ歌ハ不<sup>ス</sup>、

【注】

喪者哀戚、飽食於其側、是無惻隱之心也、

喪ニハ哀戚<sup>セキ</sup>(戚)ス、飽マテニ其ノ側ニ食スルハ、是レ惻<sup>イタム</sup>(惻)隱ノ心無キナリ、

(一) 「未」下、武内本有「有」字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「哭」上、武内本有「故」字。

(四) 「於」、武内本無此字。

【經】

子謂顏淵曰、用之則行、舍之則藏、唯我與爾有是夫、

子顏淵ニ謂テ曰ク、用ル則ハ行ヒ、舍ツル則ハ藏ス、唯タ我ト爾ト是レ有ル夫、(我爾ニ是レ有ルコトヲ與ス)

【疏】

此明顏孔於事等於行藏也、用者謂時世宜可行之事也、藏者謂時世不宜行之事、爾汝也、自降幾以下、而賢人能得、故凡可行用、則顏孔所同、故云、用行捨藏、唯我與爾有是夫、孫綽云、聖人德合於天地、用契於四時、不自昏於盛明、不獨曜於幽夜、顏齊其度、故動止無違、所以影附日月、絕塵於遊場也。一云、與許也、唯我許汝如此也、故江

熙云、<sup>三</sup>聖人作則賢人佐、天地閉則賢人隱、用則行、捨則藏也、唯我許爾有是分者、非聖無以盡賢也、

此ニハ顔孔事ニ於テ行<sup>レ</sup>藏<sup>ヲ</sup>等<sup>フ</sup>スルコトヲ明ス、用トハ時<sup>一</sup>世ノ宜ク行フ可キノ事ヲ謂フ、藏トハ時<sup>一</sup>世ノ宜ク行フ宜カラ不<sup>レ</sup>ルノ事ヲ謂フ、爾ハ汝ナリ、降<sup>レ</sup>幾<sup>ヨ</sup>自<sup>リ</sup>以<sup>テ</sup>下ハ、賢<sup>一</sup>人能ク<sup>レ</sup>得、故ニ凡ソ行ヒ用フ可キ、則ハ顔孔同フスル所ナリ、故ニ云ク、用フルトキハ行ヒ捨ツルトキハ藏ス、唯タ我ト爾與<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>有ル夫、孫綽カ云ク、聖<sup>一</sup>人ハ徳天<sup>一</sup>地ニ合ヒ、用四<sup>一</sup>時ニ契<sup>フ</sup>、自<sup>レ</sup>盛<sup>一</sup>明ニ昏カラ不<sup>レ</sup>、獨<sup>一</sup>り幽<sup>一</sup>夜ニ曜<sup>カ</sup>カ不<sup>レ</sup>、顔其ノ<sup>一</sup>度<sup>ト</sup>ヲ齊<sup>ス</sup>、故ニ動<sup>一</sup>止違フコト無シ、所<sup>一</sup>以<sup>ニ</sup>影ヲ日<sup>一</sup>月ニ附<sup>フ</sup>シ<sup>一</sup>附<sup>ケ</sup>、塵ヲ遊<sup>ナ</sup>場<sup>ニ</sup>絶ス。一ニ云ク、與ハ許ナリ、唯タ我汝此ノ如コトヲ許ス、故ニ江熙カ云ク、聖<sup>一</sup>人作<sup>ル</sup>則<sup>ハ</sup>賢<sup>一</sup>人佐ケ、天<sup>一</sup>地閉ル<sup>一</sup>則ハ賢<sup>一</sup>人隱ル、用ル<sup>一</sup>則ハ行ヒ、捨ツル<sup>一</sup>則ハ藏ス、唯タ我爾<sup>ニ</sup>是<sup>一</sup>ノ分有ルコトヲ許スコトハ、聖ニ非ンハ以テ賢ヲ盡スコト無ケン、

【注】

弘安國曰、言可行則行、可止則止、唯我與顔淵同耳也、

弘安國カ曰ク、言<sup>ハ</sup>行フ可キ<sup>一</sup>則ハ行ヒ、止ム可キ<sup>一</sup>則ハ止ム、唯タ我ト顔淵與<sup>ト</sup>同シキ<sup>一</sup>耳、

【經】

子路曰、子行三軍、則誰與、

子路カ曰ク、子三<sup>一</sup>軍ヲ行ツツル時ハ、誰ニカ<sup>一</sup>與セン、

【疏】

子路聞孔子論行藏、而獨美顔淵、然若行三軍、必當與己、已有勇故也、故問、則誰與也、

子路孔子ノ行<sup>一</sup>藏ヲ論シテ、獨リ顔淵ヲ美ルコトヲ聞ク、然トモ若シ三<sup>一</sup>軍ヲ行<sup>ト</sup>キハ、必ス當ニ己<sup>一</sup>ニ與ス當<sup>ヘ</sup>シ、己勇有ルカ故ナリ、故ニ問フ、則チ誰ニカ<sup>一</sup>與セン、

【注】

孔安國曰、大國三軍、

孔安國カ曰ク、大<sup>一</sup>國ハ三<sup>一</sup>軍、



## 【疏】

天子六軍、大國三軍、小國一軍、軍一萬二千五百人也、

天子ハ六軍、大國ハ三軍、小國ハ一軍、軍ハ一萬二千五百人ナリ、

## 【注】

子路見孔子獨美顏淵、以爲己有勇、至於夫子爲三軍將、亦當唯與己俱、故發此問也、

子路孔子ノ獨リ顏淵ヲ美ルヲ見テ、以爲ラク己勇有リ、夫一子三軍ノ將爲ルニ至テハ、亦當ニ唯タ己與俱ニス當シト（己勇有リ、夫一子三軍ノ將爲ルニ至テハ、亦當ニ唯タ己與俱ニス當シト以爲ヘリ）、故ニ此ノ問ヲ發ス、

## 【疏】

將猶帥也、謂孔子得爲三軍帥時也、

將ハ帥ノ猶シ、孔子三軍ノ帥爲ルコトヲ得ル時ヲ謂フ、

## 【經】

子曰、暴虎憑河、死而無悔者、吾不與也、

子ノ曰ク、暴虎憑河シテ、死スレトモ悔ヒ無ラン者ニハ、吾ハ與セ不、

## 【疏】

孔子聞子路之銜勇、故抑之也、空手搏虎爲暴虎、無舟渡河爲憑河、言捨虎須杖渡河須舟、然後身命可全、若無杖而搏虎、無舟而涉河、必致傷溺、若爲此勇、則我行三軍、所不與也、以斥子路之勇、必不得其死然也、繆播云、聖教軌物、各應其求、隨長短以抑引、隨志分以誘導、使歸於會通、合乎道中、以故、剛勇者、屈以優柔、儉弱者厲以求及、由之性也以勇爲累、常恐有失其分、而覓功銜匠、故因題目於回、舉三軍以致問、將以抑叩道訓、陶染情性、故夫子應、以篤誨、以示厥中也、

孔子子路カ勇ヲ銜フコトヲ聞ク、故ニ之ヲ抑フ、手ヲ空シテ虎ヲ搏ツヲ暴虎ト爲、舟無シテ河ヲ渡ルヲ憑河ト爲、言ハ虎ヲ捨ツニハ杖ヲ須フ河ヲ渡ルニハ舟ヲ須テ、然シテ後ニ身命全カル可シ、若シ杖無シテ虎ヲ搏チ、舟無シテ河ヲ涉ラハ、必ス傷溺（溺）ヲ致サン、若シ此ノ勇ヲ爲サハ、我三軍ヲ行トモ、與セ不ル所ナリ、以テ子路カ勇ニシテ、必ス其ノ死然ヲ得不ランコトヲ斥ル、繆播

カ云ク、聖教ハ物ニ軌<sup>ノリ</sup>トシテ、各其ノ求ニ應ス、長ト短ニ隨テ抑<sup>ノ</sup>引シ、志<sup>カネ</sup>分ニ隨テ誘<sup>カサ</sup>導シテ、會<sup>カナイ</sup>（會）ト通ニ歸シテ、道ノ中ニ合<sup>カ</sup>ヘ使ム、故ヲ以テ、剛<sup>ス</sup>勇ノ者ハ、屈シテ優柔シ、儉弱ノ者ハ、厲<sup>モツ</sup>シテ及ハンコトヲ求ム、由カ性勇ナルヲ以テ累ト（累ト）爲<sup>ス</sup>、常ニ其ノ分ヲ失シテ、功ヲ覓メテ匠ニ銜<sup>テラ</sup>ウコト有コトヲ恐ル、故ニ回ヲ題<sup>ワツライ</sup>目スルニ因テ、三軍ヲ舉テ問ヲ致ス、將ニ抑テ道<sup>ヲ</sup>訓ヲ叩シテ、情<sup>タラ</sup>性ヲ陶<sup>タラ</sup>染セラレント將、故ニ夫子應スルニ、篤<sup>ナ</sup>誨ヲ以、厥ノ中ヲ示ス、

【注】

孔安國曰、暴虎徒搏也、憑河徒涉也、

孔安國カ曰ク、暴<sup>タタ</sup>虎ハ徒<sup>ウ</sup>ニ搏ツソ、憑<sup>タタ</sup>河ハ徒<sup>ウ</sup>ニ涉ルソ、

【疏】

徒空也、謂空手搏也、爾雅云、暴虎徒搏也、郭注云、空手執也、又云、憑河徒涉也、郭云、無舟楫也、

徒ハ空ナリ、空<sup>ウ</sup>手ニシテ搏ツヲ謂フ、爾雅ニ云ク、暴虎ハ徒<sup>タタ</sup>ニ搏ツソ、郭カ注ニ云ク、手ヲ空シテ執ルソ、又云

ク、憑<sup>カサ</sup>河ハ徒<sup>カサ</sup>ニ涉ルソ、郭カ云ク、舟<sup>シ</sup>楫<sup>カサ</sup>（楫）無キノ、必也臨事而懼、好謀而成者也、

【經】

必<sup>かならず</sup>事ニ臨テ懼リ、謀<sup>はかりごと</sup>ヲ好テ成サン者ナリ、

【疏】

孔子既抑子路、而又云、我所以與者、政欲須臨事而懼、又好爲謀事而必成者也。沈居士云、若子路不平與顏淵、而尚其勇、鄙昧也、已甚孔子以之比暴虎憑河、陷之於惡、實爲太深、余以爲子路聞孔子許顏之遠、說而慕之、自恨己才之近、唯強而已、故問曰、子行三軍、則誰與、言必與己也、言許己、以羸近也、故夫子因慰而廣之、言若在三軍、如暴虎憑河、則可賤而不取、謂世之羸勇也、若懼而能謀、抑亦仁賢之次流、謂子路也、如此三軍、則不獨羸近也、

孔子既ニ子路ヲ抑テ、又云ク、我カ與スル所<sup>ゆまん</sup>以<sup>も</sup>ノ者ハ、政ニ事ニ臨テ懼リ、又好<sup>このみ</sup>テ謀ヲ爲シテ事ニシテ必<sup>かならず</sup>成サン者ヲ須<sup>もち</sup>イント欲ス。沈居士カ云ク、若シ子路顏淵與不<sup>はなはたし</sup>平ニシテ、其ノ勇ヲ尚ヒハ、鄙昧ナリ、已ニ<sup>はなはたし</sup>甚ク孔

子之ヲ以テ暴虎憑河ニ比シテ、之ヲ惡ニ陷ルルハ、實ニ太タ深シト爲、余以爲ラク子路孔子ノ顔ヲ許スコトノ遠コトヲ聞キ、説而之ヲ慕フ、自己カオノ近シテ、唯タ強ナルコトヲ恨ムル而已ト（余子路孔子ノ顔ヲ許スコトノ遠コトヲ聞キ、説而之ヲ慕フ、自己カオノ近シテ、唯タ強ナルコトヲ恨ムル而已ト以爲ヘリ）、故ニ問テ曰ク、子三軍ヲ行ハハ、誰ニカ與セン、言ハ必ス己ニ與セン、言ハ己ヲ許スコトハ、麤近ヲ以セン、故ニ夫子因テ慰メ而之ヲ廣ム、言ハ若シ三軍ニ在テ、暴虎憑河ノ如ハ、賤シ而取ラ不ル可シ、世ノ麤勇ナルコトヲ謂フ、若シ懼テ能ク謀ルハ、抑モ亦仁賢ノ次ニ流ナリ、子路ヲ謂フ、此ノ三軍ノ如ハ、則チ獨リ麤近ニ不、

- (一) 「凡」、武内本無此字。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「一」、武内本無此字。
- (五) 「於」、武内本無此字。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「厲」、武内本作「勵」。

- (八) 「而」、武内本無此字。
- (九) 「匠」、武内本作「長」。
- (一〇) 「抑」、武内本作「仰」。
- (一一) 「云」、武内本作「曰」。
- (一二) 「太」、武内本作「大」。
- (一三) 「説」、武内本作「悦」。
- (一四) 「與」下、武内本有「許」字。
- (一五) 「不」下、武内本有「敢」字。

【經】

子曰、富而可求也、雖執鞭之士、吾亦爲之、

子ノ曰ク、富而モ求ム可クンハ、鞭ヲ執ル士ト雖モ、吾亦之ヲ爲ン、

【疏】

孔子意云、夫富貴貧賤者、稟天之命、不可苟且求、若可求而得者、雖假令執鞭賤職、而吾亦爲之則不辭矣、繆協稱袁氏云、執鞭君之御士、亦有祿位於朝也、

孔子ノ意ニ云ク、夫レ富貴貧賤ハ、天ノ命ヲ稟ク、苟（荷）一且ニ求ム可ラ不、若シ求メテ得可クンハ、假令鞭

ヲ執ル賤キ職ト雖モ、吾レ亦之ヲ爲ンコト則チ辭セ不、  
繆協ケウカ袁氏ヲ稱シテ云ク、鞭ヲ執トハ君ノ御士ナリ、亦  
夕朝ニ祿位有リ、

【注】

鄭玄曰、富貴不可求而得者也、

鄭玄カ曰ク、富貴ハ求メテ得可ラ不ル者ナリ、

【疏】

言不可以非理求也、

言ハ非理ヲ以テ求ム可ラ不、

【注】

當修德以得之、

當ニ德ヲ修メテ之ヲ得ウ當シ、

【疏】

若値明世、修德必得也、若逢亂世、雖修德不得、而是得之道也、猶如言寡尤、行寡悔、祿在其中矣、

若シ明世ニ値テ、德ヲ修メハ必ス得ン、若シ亂世ニ逢テ、德ヲ修メテ得ス不ト雖モ、是レ之ヲ得ルノ道ナリ、猶シ言尤コト寡ク、行悔ハ寡キトキハ、祿其ノ中ニ在リトイフカ如シ、

【注】

若於道可求者、雖執鞭賤職、我亦爲之矣、

若シ道ニ於テ求ム可クンハ、鞭ヲ執ル賤キ職ト雖、我亦タ之ヲ爲セン、

【疏】

道猶世道也、若於世道、可求、則吾不辭賤職也、周禮有修狼氏職、掌執鞭以趨避、王出入則、八人夾道、公則六人、侯伯四人、子男二人、鄭言趨去而避行人、若今卒避車之爲也、

道トハ世道ノ猶シ、若シ世道ニ於テ、求ム可クンハ、吾賤職ヲ辭不、周禮ニ修狼氏ノ職有リ、鞭ヲ執テ趨リ避コトヲ掌ル、王出入スル則ハ、八人道ヲ夾ム、公ハ則チ六人、侯伯ハ四人、子男ハ二人、鄭カ言ク趨リ去ケテ行人ヲ避ク、今ノ卒ノ車ヲ避クル爲ノ若シ、

【經】

如不可求者、從吾所好、

如シ求ム可<sup>へからず</sup>不<sup>す</sup>ンハ、吾カ好ム所ニ從ハン、

【疏】

既不可求則、當隨我性所好、我性所好者、古人之道也、

既ニ求ム可<sup>へからず</sup>不<sup>す</sup>ンハ、當ニ我カ性ノ好ム所ニ隨フ當シ、我カ性ノ好ム所ハ、古人ノ道ナリ、

【注】

孔安國曰、所好者、古人之道也、

孔安國カ曰ク、好ム所トハ、古人ノ道ナリ、

- (一) 「者」、武内本作「皆」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「修」、武内本作「條」。
- (四) 「去」、武内本無此字。

【經】

子之所慎、<sup>二</sup>齋、戰、疾、

子ノ慎ム所ハ、齋<sup>サイ</sup>、戰、疾、

【疏】

記孔子所慎之行也、齋者先祭之名也、將欲祭祀則、先散齋<sup>三</sup>七日、致齋<sup>三</sup>三日也、齋之言齊也、人心有欲、散漫不齊、故將接神、先自寧靜、變食遷坐、以自齋潔也、<sup>四</sup>時人慢神、故於齋不愼、而孔子愼之也、戰者、兩刃相交、性命俄頃、身體髮膚、彌宜全重、時多暴虎、不避毀傷、唯孔子愼之、故後則云、子畏於匡、及云、善人教民七年、亦可即戎、又云、以不教民戰、是謂棄之、竝是愼戰也、疾者宜將養制節飲食、以時人不愼、而孔子愼之也、故云、子之所愼、齋、戰、疾也、

孔子ノ慎ム所ノ行ヲ記ス、齋トハ祭ニ先ツノ名ナリ、將ニ祭<sup>シ</sup>祀セント欲スル則ハ、先ツ散<sup>セ</sup>齊スルコト七日、致<sup>サイ</sup>齊スルコト三日、齋カ言ハ齊ナリ、人<sup>一</sup>心ハ欲<sup>ハ</sup>有テ、散<sup>ト</sup>漫トシテ齊<sup>ラ</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ將ニ二神ニ接<sup>マシ</sup>ラント將ルトキハ、先ツ自<sup>ミづから</sup>寧靜ニシテ、食ヲ變シ坐ヲ遷シテ、自<sup>ミづから</sup>齋<sup>ハ</sup>

潔ス、時ノ人神ヲ慢ル、故ニ齋ニ於テ慎マ不、而ルヲ孔子之ヲ慎ム、戰ト者、兩刃相ヒ交テ、性命俄頃ナリ、身體髮膚、彌宜ク全ク重ンス宜シ、時ニ暴虎多シテ、毀傷ヲ避ケ不、唯孔子之ヲ慎ム、故ニ後ニ則チ云ク、子匡ニ畏ル、及ヒ云ク、善人ノ民ヲ教ルコト七年ニシテ、亦戎ニ即ク可シ、又云ク、教ヘ不ルノ民ヲ以、戰ハシム、是レ之ヲ棄ツト謂フ、竝ニ是レ戰ヲ慎ムナリ、疾者宜ク將ニ養テ飲食ヲ制節セ宜シ、以テ時ノ人慎マ不、而ルヲ孔子之ヲ慎ム、故ニ云ク、子ノ慎ム所ハ、齋、戰、疾ナリ、

【注】

孔安國曰、此三者、人所不能慎、而夫子能慎之也、

孔安國カ曰ク、此ノ三ノ者ハ、人ノ慎ムコト能ハ不ル所ナリ、而ルヲ夫子能ク之ヲ慎ム、

- (一) 「齋」、武内本作「齊」。
- (二) 「齊」、武内本作「齋」。
- (三) 「齊」、武内本作「齋」。
- (四) 「齋」、武内本作「齊」。

- (五) 「慢」、武内本作「漫」。
- (六) 「可」、武内本作「不」。
- (七) 「齋」、武内本作「齊」。

【經】

子在齊、聞韶樂、三月不知完味、

子齊ニ在シテ、韶樂ヲ聞テ、三月マテニ完ノ味ヲ知ラ不、

【疏】

韶者舜樂名也、盡善盡美者也、孔子至齊、聞齊君奏於韶樂之盛、而心爲痛傷、故口忘完味、至於一時乃止也、三月一時也、何以然、齊は無道君、而濫奏聖主之樂、器存人乖、所以可傷慨也、故郭象云、傷器存而道廢、得有聲而無時、江熙云、和璧與瓦礫、齊貫、卞子所以惆悵、虞韶與鄭衛比響、仲尼所以永歎、彌時忘味何、遠情之深也、

韶ハ舜ノ樂ノ名ナリ、善盡シ美盡ス者ナリ、孔子齊ニ至テ、齊ノ君ノ韶樂ノ盛ナルヲ奏スルヲ聞テ、心ニ痛傷ヲ爲ス、故ニ口ニ完ノ味ヲ忘ルルコト、一時ニ至テ乃チ止ム、三月ハ一時ナリ、何ヲ以カ然ルトナラハ、齊ハ是レ無道ノ君ニシテ、濫リニ聖主ノ樂ヲ奏ス、器存シ

テ人<sup>ソム</sup>乖ク、傷<sup>カイ</sup>慨ス（傷ミ概ク）可キ所以ナリ、故ニ郭象カ云ク、器<sup>イ</sup>存シテ道<sup>ミチ</sup>廢シ、聲有テ時無コトヲ得コトヲ傷ム、江熙カ云ク、和璧ト瓦礫<sup>リヤク</sup>與、貫ヲ齊スルハ、卞子カ憫<sup>ミ</sup>悵スル（憫悵ム）所以ナリ、虞詡ト鄭衛與響ヲ比スルハ、仲尼ノ永歎<sup>イタ</sup>スル所以ナリ、時ヲ彌<sup>ハタ</sup>ツテ味ヲ忘ルルコトハ何ソヤ、遠情ノ深キナリ、

## 【注】

周生烈曰、孔子在齊、聞習齊君韶樂之盛美、故忽於完味也、

周生烈カ曰ク、孔子齊ニ在シテ、齊ノ君ノ韶樂ノ盛美ナルヲ習スヲ聞ク、故完<sup>シ</sup>ノ味ヲ忽<sup>フ</sup>ル、

## 【疏】

忽猶忘也、范寧云、夫韶乃大虞盡善樂也、齊諸侯也、何得有之乎、曰陳舜之後也、樂在陳、陳教仲竊以奔齊、故得僭之也、

忽ハ忘<sup>コト</sup>ノ猶シ、范寧カ云ク、夫レ韶ハ乃チ大<sup>一</sup>虞ノ善<sup>一</sup>盡セル樂ナリ、齊ハ諸侯ナリ、何ソ之レ有ルコトヲ得ンヤ、曰ク陳ハ舜ノ後ナリ、樂ハ陳ニ在リ、陳ノ教仲竊<sup>ケイ</sup>テ齊ニ奔<sup>ヌス</sup>

ル、故ニ之ヲ僭スルコトヲ得、

## 【經】

曰、不圖爲樂之至於斯也、

ノたまハ  
曰ク、圖<sup>ハカ</sup>ラ<sup>ギ</sup>不リキ樂ヲ爲スコトノ斯ニ至リナントハ、

## 【疏】

此孔子說所以忘味之意也、圖猶謀慮也、爲猶作奏也、樂韶樂也、斯此也、此指齊也、孔子言、實不意慮、奏作聖王之韶樂、而來至此齊侯之國也、或問曰、樂隨人君而變、若人君心善則樂善、心淫則樂淫、今齊君無道、而韶音那獨不變而猶盛耶、且若其音猶盛、則齊民宜從樂化、而齊民猶惡、不隨樂化何也、侃答曰、夫樂隨人君而變者、唯在時王之樂耳、何者如周王遍奏六代之樂、當周公成康之日、則六代者<sup>（三）</sup>聲悉善、亦悉以化民、若幽厲傷周天下大壞、則唯周樂、自隨時君而變壞、其民亦隨時君而惡、所餘殷夏以上五聖之樂、則不隨時變、故韶樂在齊而音猶盛美者也、何以然哉、是聖王之樂、故不隨惡君變也、而武亦善、而獨變者、以其君是周之子孫、子孫既變、故先祖之樂、亦與之而<sup>（二五）</sup>又變也、又既五代音存、而不能化民者、既不隨惡王而變、寧爲惡王所御乎、既不爲所御、故雖存而不化民也。又一通

云、當其末代、其君雖惡、而其先代之樂聲、亦不變也、而其君所奏淫樂、不復奏正樂、正樂故不復化民也、

此ハ孔子味ヲ忘ルル所以ノ意ヲ説ク、圖ハ謀慮ノ猶シ、爲ハ作<sup>（作シ奏ス）</sup>ノ猶シ、樂ハ韶樂ナリ、斯ハ此ナリ、此トハ齊ヲ指ス、孔子ノ言ク、實ニ意イ慮ラ不リキ、聖王ノ韶樂ヲ奏シ作シテ、此ノ齊侯ノ國ニ來リ至ラントイフコトヲ。或ヒト問テ曰ク、樂ハ人君ニ隨テ變ス、若シ人君心善ナル則ハ樂善ナリ、心淫ナル則ハ樂淫ス、今齊ノ君無道ニシテ、而シテ韶ノ音那ソ獨リ變セ不シテ猶ヲ盛ナル耶、且タ若シ其ノ音猶ヲ盛ナル、則ハ齊ノ民宜ク樂ニ從テ化ス宜シ、而シテ齊ノ民猶ヲ惡シ、樂ニ隨テ化セ不ルコトハ何ソヤ。侃答テ曰ク、夫レ樂ハ人君ニ隨テ而シテ變スルトハ、唯タ時ノ王ノ樂ニ在ル耳、何トナレ。周ノ王ノ遍ク六代ノ樂ヲ奏スルカ如キンハ、周公成康ノ日ニ當テハ、六代ハ聲悉ニ善シ、亦悉ニ民ヲ化ス、幽厲周ヲ傷テ天下大ニ壞ルカ若キンハ、唯タ周ノ樂ハ、自時ノ君ニ隨テ而シテ變壞ス、其ノ民モ亦時ノ君ニ隨テ惡シ、餘ル所ノ殷夏以上ノ聖ノ樂ハ、則チ時ニ隨テ變セ不、故ニ韶樂齊ニ在テ而シテ音猶ヲ盛ナ美ナル者ナリ、何ヲ以テカ然ランヤ、是レ聖王ノ樂ハ、故ニ惡ノ君ニ隨テ變セ不、而ルニ武モ亦タ善ニシテ、而

シテ獨リ變スルコトハ、其ノ君ハ是レ周ノ子孫ナルヲ以テ、子孫既ニ變ス、故ニ先祖ノ樂モ、亦之ニ與シテ又變ス、又既ニ五<sup>（五）</sup>代ノ音存シテ、而シテ民ヲ化スルコト能ハ不ルコトハ、既ニ惡ノ王ニ隨テ變セ不、寧<sup>（寧）</sup>口惡ノ王ノ爲ニ御セ所レンヤ、既ニ爲ニ御セ所レ不、故ニ存スト雖モ民ヲ化セ不。又一通ニ云ク、其ノ末代ニ當テ、其ノ君惡シト雖、其ノ先代ノ樂聲、亦變セ不、而ルヲ其ノ君ノ奏スル所淫樂ナルトキハ、復タ正樂ヲ奏セ不、正樂故ニ復民ヲ化セ不、

### 【注】

王肅曰、爲作也、不圖作韶樂、至於此、此齊也、

王肅カ曰ク、爲ハ作、圖ラ不リキ韶樂ヲ作スコト、此ニ至リナントハ、齊ニ此ソ、

(一) 「完」、武内本作「肉」。「完」、疑「六」字之訛。

(二) 「然」下、武内本有「也」字。

(三) 「道」下、武内本有「之」字。

(四) 「主」、武内本作「王」。

(五) 「云」、武内本作「曰」。

(六) 「云」、武内本作「曰」。



(七)「齊君」、武内本無此二字。

(八)「云」、武内本作「曰」。

(九)「善」下、武内本有「之」字。

(一〇)「也」、武内本無此字。

(一一)「教」、武内本作「敬」。

(一二)「意」、武内本作「由」。

(一三)「者」、武内本作「之」。

(一四)「武」上、武内本有「周」字。

(一五)「與」、武内本作「爲」。

(一六)「又」、武内本無此字。

(一七)「正樂」、武内本無此二字。

【經】

冉有曰、夫子爲衛君乎、

冉有カ曰ク、夫<sub>レ</sub>子衛ノ君ヲ爲<sub>ス</sub>ケンヤ、

【疏】

爲猶助也、衛君謂輒也、衛靈公逐太子蒯聵、靈公以魯哀公二年夏四月、薨、而立蒯聵之子輒、爲衛君、孔子時在衛爲輒所賓接、後蒯聵還奪輒國、父子相圍、時人多疑孔子應助輒拒父、故冉有傳物之疑、以問子貢也、故江熙云、夫子在

衛受輒賓主、悠悠者或疑爲之故問也、

爲ハ助ノ猶シ、衛ノ君トハ輒ヲ謂フ、衛ノ靈公太子蒯聵ヲ逐フ、靈公魯ノ哀公二年夏四月ヲ以テ、薨ス、而シテ蒯聵カ子輒ヲ立テテ、衛ノ君ト爲、孔子時ニ衛ニ在テ輒カ爲ニ賓<sub>一</sub>接セ所ル、後ニ蒯聵還テ輒カ國ヲ奪フ、父子相ヒ圍ム、時ニ人<sub>一</sub>多ク孔子輒ヲ助テ父ヲ拒ク應シヤト疑フ、故ニ冉有物ノ疑ヲ傳ヘテ、子貢ニ問フ、故ニ江熙カ云ク、夫<sub>レ</sub>子衛ニ在テ輒カ賓<sub>一</sub>主ヲ受ク、悠悠タル者或ハ之ヲ爲ケンヤト疑フ故ニ問フ、

【注】

鄭玄曰、爲猶助也、衛君者謂輒也、衛靈公逐太子蒯聵、公薨而立孫輒也、

鄭玄カ曰ク、爲ハ助ノ猶シ、衛ノ君トハ輒ヲ謂フ、衛ノ靈公太子蒯聵ヲ逐フ、公<sub>一</sub>薨スルトキニ孫輒ヲ立ツ、

【疏】

公死後、乃立輒也、

公死シテ後、乃チ輒ヲ立ツ、

【注】

後晉趙鞅納蒯聵于戚、

後二晉ノ趙鞅<sup>ア</sup>蒯聵<sup>セキ</sup>ヲ戚<sup>イ</sup>ニ納ル、

【疏】

後謂輒立爲君後也、蒯聵奔在戚、輒立定後、其年六月晉臣趙鞅於戚以納蒯聵、遂入衛奪輒位也、

後トハ輒立テ君ト爲テ後ヲ謂フ、蒯聵奔テ戚ニ在リ、輒立テ定テ後ニ、其ノ年ノ六月二晉ノ臣趙鞅戚於蒯聵ヲ納ル、遂ニ衛ニ入テ輒カ位ヲ奪フ、

【注】

衛石曼姑帥師圍之、

衛ノ石曼姑<sup>イクサ</sup>帥<sup>ヒキ</sup>師イテ之ヲ圍ム、

【疏】

至哀公三年、衛輒之臣、石曼姑帥師圍蒯聵于戚也、

哀公三年ニ至テ、衛ノ輒カ臣、石曼姑<sup>イクサ</sup>帥<sup>ヒキ</sup>師イテ蒯聵ヲ

戚ニ圍ム、

【注】

故問其意助輒否乎、

故ニ其ノ意輒ヲ助ケンヤ否ヤト問フ、

【疏】

其其孔子也、冉有問子貢云、孔子意助輒不也、哀公二年孔子在衛、至十一年夏、反魯、至十五年冬、蒯聵乃勝、輒出奔魯、子路死難、使魯來報孔子也、至十六年正月、蒯聵從戚入衛爲君也、

其トハ孔子ニ其レソ、冉有子貢ニ問テ云ク、孔子ノ意輒ヲ助ケンヤ不ヤ、哀公二年孔子衛ニ在テ、十一年ノ夏ニ至テ、魯ニ反テ、十五年ノ冬ニ至テ、蒯聵乃チ勝ツ、輒魯ニ出奔ス、子路難ニ死ス、使魯ニ來テ孔子ニ報ス、十六年ノ正月ニ至テ、蒯聵戚從リ衛ニ入テ君ト爲ル、

【經】

子貢曰諾、吾將問之、

子貢カ曰ク諾、吾將ニ之ヲ問ハント將、<sup>ス</sup>

【疏】

子貢答冉有也、故先應諾言、吾將入問於孔子助輒不也、

子貢冉有二答フ、故ニ先ツ應<sup>レ</sup>諾シテ言ク、吾將ニ入テ孔子ニ輒ヲ助<sup>レ</sup>ンヤ不ヤト問ハント將、<sup>ス</sup>

【經】

入曰、伯夷叔齊何人也、

入テ曰ク、伯夷叔齊ハ何<sup>ナ</sup>人ソヤ、

【疏】

此子貢入問孔子之辭也、所以不問助輒不、而問夷齊者、不欲斥言衛君事、故以微理求之志也、伯夷叔齊兄弟讓國、而輒父子爭位、其事正反、故問曰、夷齊何人、若孔子答以夷齊爲非、則知助輒、若以夷齊爲是則知不助輒也、

此レハ子貢入テ孔子ニ問フノ辭ナリ、輒ヲ助ケンヤ不ヤト問ハ<sup>サ</sup>不シテ、夷齊ヲ問所<sup>ト</sup>以ハ、衛ノ君ノ事ヲ斥シ<sup>サ</sup>言ハ<sup>ハ</sup>ンコトヲ欲セ<sup>サ</sup>不、故ニ微<sup>ト</sup>理ヲ以テ志ヲ求ム、伯夷叔齊ハ

兄弟國ヲ讓ル、而ルヲ輒ハ父子位ヲ爭フ、其ノ事正ニ<sup>レ</sup>反ス、故ニ問テ曰ク、夷齊ハ何<sup>ナ</sup>人ソヤ、若シ孔子答ルニ夷齊ヲ以非ト爲ハ、輒ヲ助コトヲ知ラン、若シ夷齊ヲ以是ト爲ハ輒ヲ助ケ<sup>サ</sup>不ルコトヲ知ラン、

【經】

子曰、古之賢人也、

子ノ曰ク、古ノ賢人ナリ、

【疏】

答子貢也、言夷齊是古賢人也、

子貢ニ答フ、言ハ夷齊ハ是レ古ノ賢人ナリ、<sup>イフコトヲ</sup>

【經】

曰怨乎、

曰ク怨アリ乎、<sup>イハ</sup>

【疏】

怨恨也、子貢又問、夷齊有怨恨不乎、所以問有恨不者、夷

齊兄弟讓國、隱首陽山、遂餓死首陽山下、賢人相讓而致餓死、應不恨也、

怨ハ恨ナリ、子貢又問フ、夷齊ハ怨ハ恨有リヤ不ヤ、恨有リヤ不ヤト問フ所以ハ、夷齊ハ兄弟國ヲ讓テ、首陽山ニ隱テ、遂ニ首陽山ノ下ニ餓死ス、賢人相讓テ而シテ餓死ヲ致ス、恨ミ不ル應シ、

【經】

曰。求仁而得仁、又何怨乎、

曰ク。仁ヲ求テ仁ヲ得タリ、又何ヲカ怨ンヤ、

【疏】

孔子答云、不怨也、言兄弟相讓、本求仁義、而萬代可美其相讓之德、是求仁得仁也、求之而得、雖死有何怨、是君子殺身成仁、不求生害仁也、

孔子答テ云ク、怨ミ不、言ハ兄弟相ヒ讓テ、本仁義ヲ求ム、而シテ萬代其ノ相讓ルノ德ヲ美ム可シ、是レ仁ヲ求メテ仁ヲ得、之ヲ求テ得タリ、死スト雖モ何ノ怨カ有ン、是レ君子ハ身ヲ殺シテモ仁ヲ成ス、生ヲ求テ仁

ヲ害セ不ルナリ、

【注】

孔安國曰、伯夷叔齊讓國遠去、終於餓死、故問怨乎、以讓爲仁、豈何怨乎、

孔安國カ曰ク、伯夷叔齊ハ國ヲ讓テ遠ク去テ、餓死ニ終フ、故ニ怨アリヤト問フ、讓ヲ以テ仁ト爲、豈ニ何ヲカ怨ンヤ、

【經】

出曰、夫子不爲也、

出テ曰ク、夫子ハ爲ケ不、

【疏】

子貢既聞孔子以夷齊之讓、爲賢且有仁、故知輒父子爭國爲惡也、所以答冉有云、夫子不爲衛君也、

子貢既ニ孔子夷齊カ讓ヲ以、賢ニシテ且ツ仁有リト爲ルコトヲ聞ク、故ニ輒父子國ヲ爭フコトノ惡爲ルコトヲ知ル、所以ニ冉有二答テ云ク、夫子子衛ノ君ヲ爲ケ不、

【注】

鄭玄曰、父子爭國惡行也、孔子以伯夷叔齊、爲賢且仁、故知不助衛君明也、

鄭玄カ曰ク、父<sub>一</sub>子國ヲ爭フハ惡<sub>一</sub>行ナリ、孔子伯夷叔齊ヲ以、賢ニシテ且ツ仁アリト爲、故ニ<sub>一</sub>知ヌ衛ノ君ヲ助ケケルコトハ明ケシ、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「還」、武内本作「不」。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

(四) 「蒯」、武内本無此字。

(五) 「云」、武内本作「曰」。

(六) 「夏」、武内本無此字。

(七) 「正」、武内本作「已」。

(八) 「云」、武内本無此字。

(九) 「遂餓死首陽山」、武内本無此六字。

(一〇) 「餓死」、武内本作「飢致飢」。

(一一) 「云」、武内本作「曰」。

(一二) 「求」、武内本作「安」。

(一三) 「何」、武内本無此字。

(一四) 「且有」、武内本作「爲」。

【經】

子曰、飯蔬食飲水、

子ノ曰ク、蔬<sub>一</sub>食ヲ飯<sub>クラ</sub>ヒ水ヲ飲ミ、

【疏】

此明孔子食無求飽也、飯猶食也、蔬食菜食也、言孔子食於菜食也、而飲水無重肴方丈也、

此レハ孔子食飽ント求ムルコト無コトヲ明ス、飯ハ食ノ猶シ、蔬<sub>一</sub>食ハ菜<sub>一</sub>食ナリ、言<sub>いふことろ</sub>ハ孔子菜<sub>一</sub>食ヲ食テ、而シテ水ヲ飲テ、重<sub>カウ</sub>肴方丈無シ、

【經】

曲肱而枕之、

肱ヲ曲テ枕トシテ、

【疏】

此明孔子居無求安也、肘前曰臂、肘後曰肱、通亦曰臂、言孔子眠曲臂<sub>ミ</sub>而枕之、不錦衾角枕也、

此ハ孔子居<sup>やすから</sup>安<sup>やす</sup>ンコトヲ求ルコト無キコトヲ明ス、肘ノ前ヲ臂ト曰ヒ、肘<sup>ヒデ</sup>ノ後ヲ肱ト曰フ、通シテ亦臂ト曰フ、言<sup>いふこと</sup>ハ孔子眠ルトキニ臂ヲ曲テ枕トシテ、錦衾角<sup>ミツから</sup>枕セ不<sup>ス</sup>、

【經】

樂亦在其中矣、

樂亦其<sup>また</sup>ノ中ニ在リ、

【疏】

孔子麤食薄寢、而歡樂怡暢、自在麤薄之中也、

孔子麤<sup>イ</sup>食薄<sup>チヤフ</sup>寢ス、而シテ歡樂シ怡<sup>ミツから</sup>暢スルコト、自<sup>ミツから</sup>麤薄ノ中ニ在リ、

【注】

孔安國曰、蔬食菜食也、肱臂也、孔子以此爲樂也、

孔安國カ曰ク、蔬<sup>ス</sup>食ハ菜食ソ、肱ハ臂、孔子此ヲ以テ樂ト爲<sup>ス</sup>、

【經】

不義而富且貴、於我如浮雲、

不<sup>ス</sup>義ニシテ富ミ且ツ貴キハ、我ニ於<sup>おいて</sup>浮ヘル雲ノ如シ、

【疏】

富與貴、是人<sup>ト</sup>之所欲、不以其道得之不處也、不義而富貴、於我如天之浮雲也、所以然者、言浮雲自在天、與我何相關、如不義之富貴與我亦不相關也、又浮雲儼聚歛散、不可爲常、如不義富貴、聚散俄頃如浮雲也、

富ト貴與ハ、是レ人ノ欲スル所ナリ、其ノ道ヲ以得<sup>もて</sup>不レハ處<sup>を</sup>ラ不<sup>ス</sup>、不<sup>ス</sup>義ニシテ富<sup>いふこと</sup>貴ナルハ、我ニ於<sup>おいて</sup>天ノ浮雲ノ如シ、然ル所以<sup>ゆゑ</sup>ハ、言ハ浮<sup>フ</sup>雲ハ、自<sup>ミツから</sup>天ニ在テ、我與何ソ相ヒ關ラン、不<sup>ス</sup>義ノ富貴ハ我與亦相ヒ關ラ不ルカ如シ、又浮<sup>タチマチ</sup>雲ハ儼<sup>いふこと</sup>ニ聚リ歛<sup>タラマチ</sup>ニ散ス、常ト爲<sup>ス</sup>可<sup>ス</sup>ラ不<sup>ス</sup>、不<sup>ス</sup>義ノ富貴ノ如ハ、聚散俄頃ニシテ浮雲ノ如シ、

【注】

鄭玄曰、富貴而不以義者、於我如浮雲、非己之有也、

鄭玄カ曰ク、富<sup>しか</sup>貴而モ義ヲ以<sup>もて</sup>セ不<sup>さ</sup>ルコトハ、我ニ於<sup>おいて</sup>浮ヘ

ル「雲ノ如シ、己カ有二非ス、

【疏】

如前釋也

前ノ釋ノ如シ

(一)「也」、武内本無此字。

(二)「曲臂」、武内本作「助肱」。

【經】

子曰、加我數年、五十以學易、可以無大過矣、

子ノ曰ク、我ニ數一<sub>レ</sub>年ヲ加ヘテ、五十二シテ以テ易ヲ學ヒハ、大ナル<sub>レ</sub>過チ無カル可シ、

【疏】

此孔子重易、故欲令學者加功於此書也、當孔子爾時、年已四十五六、故云加我數年、五十而學易也、所以必五十而學易者、人年五十是知命之年也、易有大演之數五十、是窮理盡命之書、故五十而學易也、既學得其理、則極照精微、故身無過失也、云無大過者、小事易見、大事難明、故學照大

理則得一、不復大過、則小者故不失、王弼云、易以幾神爲教、顏淵庶幾有過而改、然則窮神研幾、可以無過、明易道深妙、戒過明訓、微言精粹、熟習然後而存義也、

此レハ孔子易ヲ重ンス、故ニ學者ヲ令テ功ヲ此ノ書ニ加ヘ令メント欲、孔子爾ノ時ニ當テ、年已ニ四十五ニナリ、故ニ云ク我ニ數一<sub>レ</sub>年ヲ加テ、五十二シテ易ヲ學ヒハト、必<sub>レ</sub>五十二シテ易ヲ學フ所以ハ、人ノ年五十八是レ命ヲ知ルノ年ナリ、易ニ大演ノ數五十有リ、是レ理ヲ窮メ命ヲ盡スノ書ナリ、故ニ五十二シテ易ヲ學フトイフ、既ニ學テ其ノ理ヲ得ル、則ハ精微ヲ極照ス、故ニ身ニ過一<sub>レ</sub>失無シ、大ナル<sub>レ</sub>過チ無シト云フコトハ、小事ハ見易シ、大事ハ明メ難シ、故ニ學テ大理ヲ照ス則ハ一ヲ得、復大ナル<sub>レ</sub>過チアラ不シハ、小キナル者ハ故ニ失セ不、王弼カ云ク、易ハ幾神ヲ以テ教ト爲、顏淵カ庶幾過テ改ムルコト有リ、然ラハ則チ神ヲ窮メ幾ヲ研イテ、以テ過チ無カル可シ、明ケシ易道ハ深妙ニシテ、過ヲ戒ムル明訓ナリ、微言精粹(粹)ナリ、熟ク<sub>レ</sub>習テ然シテ後ニ義ヲ存ス、

【注】

易窮理盡性、以至於命、

易ハ理ヲ窮メ性ヲ盡シテ、命ニ至ル、

【疏】

易明乾元亨利貞、窮測陰陽之理、遍盡萬物之性、故云窮理盡性也、又識窮通、故云、以至於命也、

易ハ乾一<sub>ハ</sub>元<sub>ハ</sub>（元）亨<sub>ハ</sub>（亨）利<sub>ハ</sub>（利ス）貞<sub>ハ</sub>（貞ス）ヲ明シ、陰陽ノ理ヲ窮メ<sub>ハ</sub>測ツテ<sub>ハ</sub>、遍ク萬物ノ性ヲ盡ス、故ニ云ク理ヲ窮メ性ヲ盡スト、又窮通ヲ識ル、故ニ云ク、命ニ至ルト、

【注】

年五十而知天命、

年五十二シテ天一命ヲ知ル、

【疏】

年五十應大演之數、與易數同、故知天命也、

人ノ年五十八大演ノ數ニ應ス、易ノ數與同シ、故ニ天一命ヲ知ル、

【注】

以知天命之年、讀至命之書、

天一命ヲ知ルノ年ヲ以テ、命ニ至ルノ書ヲ讀ム、

【疏】

其數會同也、

其ノ數會<sub>ハ</sub>（會）<sub>ハ</sub>同ス、

【注】

故可以無大過也、

故ニ大ナル<sub>ハ</sub>過チ無カル可シ、

【疏】

照幾窮理、故無失也、而王朗又爲一通云、鄙意以爲易蓋先聖之精義、後聖無間然者也、是以孔子即而因之、少而誦習、恆以爲務、稱五十而學者、明重易之至、欲令學者專精於此書、雖老不可以廢<sub>五</sub>也、

幾ヲ照シ理ヲ窮ム、故ニ失無シ、而ルニ王朗又一通ヲ爲



シテ云ク、鄙<sup>〃</sup>意ニ以<sup>おも</sup>爲<sup>け</sup>ラク易ハ蓋<sup>け</sup>シ先<sup>〃</sup>聖ノ精<sup>〃</sup>義ニシテ、後<sup>〃</sup>聖聞<sup>〃</sup>然スルコト無<sup>も</sup>キ者ナリト（易ハ蓋<sup>け</sup>シ先<sup>〃</sup>聖ノ精<sup>〃</sup>義ニシテ、後<sup>〃</sup>聖聞<sup>〃</sup>然スルコト無<sup>も</sup>キ者ナリト以<sup>おも</sup>爲<sup>け</sup>ヘリ）、是ヲ以<sup>おも</sup>テ孔子即<sup>ツ</sup>イ而<sup>テ</sup>之レニ因<sup>テ</sup>テ、少<sup>フ</sup>ク而<sup>シテ</sup>誦<sup>〃</sup>習シテ、恆<sup>〃</sup>ニ以<sup>おも</sup>テ務ト爲<sup>〃</sup>、五<sup>〃</sup>十二シテ學フト稱スルコトハ、易ヲ重<sup>〃</sup>ンスルノ至<sup>〃</sup>レルコトヲ明シテ、學者ヲ令<sup>シ</sup>テ此ノ書ヲ專<sup>〃</sup>ラ<sup>〃</sup>精<sup>ク</sup>クセ令<sup>シ</sup>メント欲ス、老タリト雖モ廢<sup>〃</sup>□可<sup>サ</sup>ラ不<sup>〃</sup>、

（一）「失」下、武内本有「之」字。

（二）「云」武内本作「曰」。

（三）「天」、武内本無此字。

（四）「幾」、武内本作「樂」。

（五）空格、武内本作有「倦」字。

# 【經】

子所雅言、

子ノ雅<sup>マ</sup>シク言フ所ハ、

# 【疏】

子孔子也、雅正也、謂孔子平生讀書、皆正言之、不爲私所避諱也、

子ハ孔子ナリ、雅ハ正ナリ、謂ル孔子平生書ヲ讀ムコト、皆正シク之ヲ言フ、私ニ避ケ諱ム所ヲ爲サス、

# 【注】

孔安國曰、雅言正言也、

孔安國カ曰ク、雅言ハ正言ソ、

# 【經】

詩、書、執禮、皆雅言也、

詩、書、執禮、皆雅<sup>ミナマサ</sup>シク言フ、

# 【疏】

此是所不諱之書也、詩及書、禮、皆正言之也、六籍皆正言、獨云詩、書、禮者、舉一隅、餘三隅可反也、故顧歡云、夫引網尋綱、振裘提領、正言此三、則靡典不統矣、

此レハ是レ諱マ<sup>ス</sup>不<sup>〃</sup>ル所ノ書ナリ、詩及ヒ書、禮、皆正シク之ヲ言フ、六<sup>〃</sup>籍ハ皆正シク言フ、獨リ詩、書、禮ト云フハ、一<sup>〃</sup>偶フ舉テ、餘ノ三<sup>〃</sup>偶ハ反ス可<sup>ヘ</sup>シ、故ニ顧歡カ云ク、夫レ網ヲ引クンハ綱ヲ尋ネ、裘ヲ振ルニハ領ヲ提ク、

正ニ此ノ三ヲ言フ、則ハ典トシテ統ヘ不トイフト靡シ、

【注】

鄭玄曰、讀先王典法、必正言其音、然後義全、故不可有所諱也、

鄭玄カ曰ク、先王ノ典法ヲ讀ムトキニ、必ス正シク其ノ音ヲ言テ、然シテ後ニ義全シ、故ニ諱ム所有ル可不、

【疏】

若讀書避諱則、疑誤後生、故禮云、教學臨文不諱、詩書不諱是也、

若シ書ヲ讀テ避ケ諱ム則ハ、後生ヲ疑誤ス、故ニ禮ニ「云ク、教學ハ文ニ臨テハ諱マ不、詩書諱マ不ル是ナリ、

【注】

禮不誦、故言執也、

禮ハ誦セ（誦マ）不、故ニ執ト言フ、

【疏】

釋不直云詩書禮、而禮上長云執之義也、背文而讀曰誦、詩是詠歌、書是謨詰、故竝須誦之、而禮但執文、依事而行、不須背文之誦、故曰執也、

直ニ詩書禮ト云ハ不シテ、而シテ禮ノ上ニ長スニ執ヲ云フノ義ヲ釋ス、文ニ背テ讀ムヲ誦ト曰フ、詩ハ是レ詠歌ス、書ハ是レ謨詰（謨詰）ナリ、故ニ竝ニ須ク之ヲ誦ス須シ、而ルニ禮ハ但タ文ヲ執テ、事ニ依テ行フ、文ニ背クノ誦ヲ須チ（須イ）不、故ニ執ト曰フ、

（一）「云」、武内本作「曰」。

【經】

葉公問孔子於子路、

葉公孔子ヲ子路ニ問フ、

【疏】

葉公楚臣也、食菜於葉、楚僭稱王、故臣稱公、自比諸侯也、問子路以論孔子之事也、但不知所問何事也、

葉公ハ楚ノ臣ナリ、菜ヲ葉ニ食ム、楚僭シテ王ト稱ス、故ニ臣ヲ公ト稱ス、自諸侯ニ比ス、子路ニ問テ孔子ノ事ヲ論ス、但タニ問所何トイフ事トイフコトヲ知ラ不、

【經】

子路不對、

子路對ヘ不、

【疏】

所問之事、當乖孔子之德、故子路不對之也、故江熙云、葉公見夫子數應聘而不遇、尚以其問近、故不答也。李充云、凡觀諸問聖師於弟子者、謬道也則、稱而近之、誣德也、必揚而抑之、未有默然而不答者也、疑葉公問之、必將欲致之爲政、子路知夫子之不可屈、故未許其說耳、

問所ノ事、當ニ孔子ノ德ニ乖ク當シ、故ニ子路之ニ對ヘ不、故江熙カ云ク、葉公夫子ノ數聘ニ應シテ遇ハ不ルヲ見ル、尚ヲ其ノ問ノ近キヲ以テス、故ニ答ヘ不。李充カ云ク、凡ソ諸聖師ヲ弟子ニ問フ者ヲ觀ルニ、道ヲ謬フトス、則ハ、稱シテ之ヲ近ク、德ヲ誣ユルトキハ、必揚テ之

ヲ抑フ、未タ默然トシテ答ヘ不ル者有未、疑ラクハ葉公之ヲ問テ、必ス將ニ之ヲ致シテ政ヲ爲シメント欲セント將、子路夫子ノ屈ス可不ルコトヲ知ル、故ニ未タ其ノ說ヲ許サズ耳、

【注】

孔安國曰、葉公名諸梁。楚大夫也、食菜於葉、僭稱公、不對者、未知所以答也、

孔安國カ曰ク、葉公名ハ諸梁。楚ノ大夫ナリ、菜ヲ葉ニ食ム、僭シテ公ト稱ス、對ヘ不ルコトハ、未タ答ヘン所ヲ知未、

【經】

子曰、汝奚不曰、其爲人也、發墳忘食、樂以忘憂、不知老之將至也云爾、

子ノ曰ク、汝奚ソ曰ハ不ツツル、其レ人ト爲リ、墳リヲ發シテ食ヲ忘ス、樂以テ憂ヲ忘タリ、老ノ將ニ至リナント將ルコトヲ知ラ不ト爾云フナラン、

【疏】

孔子問子路不對、故以此言、語子路也、奚何也、其其孔子也、謂孔子慨世道之不行、故發憤而忘於飲食也、又飲水曲肱、樂在其中、忘於貧賤之憂也、又年雖耆朽、而信天任命、不知老之將至也、言葉公問汝、汝何不曰我有如此之德云爾以示之也、然此諸語當是斥於葉公也、李充云、夫子乃抗論儒業大、明其志、使如此之徒、絕望於覬覦、不亦弘而廣乎、江熙云、葉公唯知執政之貴、不識天下復有勝遠。故欲令子路抗明素業、無嫌於時、得以清波濯彼穢心也、

孔子子路力對へ不ルヲ聞ク、故ニ此ノ言ヲ以テ、子路ニ語ル、奚ハ何ナリ、其トハ孔子ニ其ソ、謂ル孔子世ニ道ノ行ハレ不ルコトヲ慨ク、故ニ憤ヲ發シテ食ヲ飡コトヲ忘ス、又水ヲ飲ミ肱ヲ曲テ、樂ニ其ノ中ニ在テ、貧賤ノ憂ヲ忘ス、又年耆<sup>マカ</sup>朽スト雖モ、天ニ信<sup>マカ</sup>セ命ニ任セテ、老ノ將ニ至リナント將ルコトヲ知ラ不<sup>ス</sup>言<sup>イハス</sup>ハ葉公汝ニ問フ、汝何ソ我カ此ノ如ノ德有ルコトヲ曰テ爾云テ之ニ示サ不<sup>ス</sup>ルヤ、然トモ此ノ諸ノ語ハ當ニ是レ葉公ヲ斥ス<sup>サ</sup>（斥ル）當シ、李充カ云ク、夫子儒業ノ大ヲ抗<sup>カウ</sup>（抗）論シテ、其ノ志ヲ明シテ、此クノ如ノ徒ヲ使テ、望ヲ覬<sup>ケル</sup>覬<sup>ユ</sup>ニ絶セ使ム、亦タ弘ニシテ廣メ不<sup>ス</sup>ンヤ（不ルカ）、江熙カ云ク、葉

公唯タ政ヲ執ルノ貴コトヲ知テ、天<sup>カミ</sup>下ニ復勝遠有ルコトヲ識ラ不<sup>ス</sup>。故ニ子路ヲ令<sup>シ</sup>テ素業ヲ抗<sup>カウ</sup>明シテ、時ニ嫌コト無シテ、清波ヲ以テ彼ノ穢心ヲ濯コトヲ得令メント欲ス、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「也」、武内本無此字。
- (四) 「墳」、武内本作「憤」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、我非生而知之者、

子ノ曰ク、我ハ生<sup>ムまれながら</sup>ニシテ知レル者ニ非<sup>あらす</sup>、

【疏】

知之謂知事理也、孔子謙以同物、故云我有所知、非生而自然知之者也、玉藻云、此蓋自同常教、以身率物者也、

之ヲ知ルトハ事<sup>コト</sup>理ヲ知ルヲ謂フ、孔子謙シテ以テ物ニ同

ス、故ニ云ク我カ知ル所有ルハ、ノたまは生ニシテ自然ニ  
之ヲ知ル者ニ非、玉藻ニ云ク、此レハ蓋シ自常ノ教ニ  
同シテ、身ヲ以物ヲ率フル者ナリ、

## 【經】

好古敏而以求之者也、

古ヲ好ンテ敏ニシテ求メタル者ナリ、

## 【疏】

我既不生知、而今有所知者、政由我所好古人之道、疾速以  
求、知之也、敏疾速也、

我既ニ生ニシテ知ラ不、而ルヲ今知ル所有ルハ、政ニ我  
古一人ノ道ヲ好ム所、疾速ニシテ求ルニ由テ、之ヲ知レ  
リ、敏ハ疾速ナリ、

## 【注】

鄭玄曰、言此者、勉勸人於學也、

鄭玄カ曰ク、此ヲ言フコトハ、人ヲ學ニ勉メ勸ム、

(一)「云」、武内本作「曰」。

## 【經】

子不語怪、力、亂、神、

子怪、力、亂、神ヲ語ラ不、

## 【疏】

怪怪異也、謂妖孽之事也、力謂多力也、若烏獲舉千鈞之屬  
也、亂謂臣子弑害君父之事也、神謂鬼神之事也、此四事言  
之無益於教訓、故孔子語不及之也。或問曰、易文言孔子所  
作、云臣弑君子弑父、竝亂事、而云孔子不語之何也、答  
曰、發端曰言、答述曰語、此云不語、謂不誦答耳、非云不  
言也、

怪ハ怪異ナリ、妖孽ノ事ヲ謂フ、力トハ多力ヲ謂フ、烏  
獲カ千鈞ヲ舉ルカ若キノ屬ナリ、亂トハ臣子君父ヲ弑  
害スルノ事ヲ謂、神トハ鬼神ノ事ヲ謂フ、此ノ四事ハ之  
ヲ言テ教訓ニ益無シ、故ニ孔子語テ之ニ及ハ不。或ヒト  
問テ曰ク、易ノ文言ハ孔子ノ作スル所ナリ、云ク臣君ヲ  
弑シ子父ヲ弑スト、竝ニ亂ノ事ナリ、而ルヲ孔子之ヲ語ラ  
不ト云フコトハ何ソヤ、答テ曰ク、端ヲ發シテ言ト曰ヒ、

答述スルヲ語ト曰フ、此ニ語ラ不ト云ハ、誦答セ不ルヲ謂フ耳、言ハ不ト云フニ非、

【注】

王肅曰、怪怪異也、

王肅カ曰ク、怪ハ怪異、

【疏】

舊云、如山啼鬼哭之類也、

舊ニ云ク、山ノ啼キ鬼ノ哭スルノ類ノ如シ、

【注】

力謂若梟盪舟

力トハ梟<sup>ガウ</sup>ガ舟ヲ盪<sup>ヲ</sup>シ

【疏】

梟多力、能陸地推舟也、盪推也、

梟ハ多力ニシテ、能ク陸地ニ舟ヲ推ス、盪ハ推ナリ、

【注】

烏獲舉千鈞之屬、

烏獲カ千鈞ヲ舉ルノ屬<sup>タクビ</sup>ノ若キヲ謂、

【疏】

烏獲古時健兒也、三十斤曰鈞、烏獲能舉三萬斤重也、

烏獲ハ古時ノ健兒ナリ、三十斤ヲ鈞ト曰フ、烏獲ハ能ク三萬斤ノ重キヲ舉ク、

【注】

亂謂臣弑君、子弑父也、

亂トハ臣君ヲ弑シ、子父ヲ弑スルヲ謂フ、

【疏】

惡逆爲亂甚者也、

惡逆ニシテ亂ヲ爲スノ甚キ者ナリ、

## 【注】

神謂鬼神之事也、

神トハ鬼ノ事ヲ謂フ、

## 【疏】

子路問事鬼神、孔子云、不能事人、焉能事鬼、是不言也、

子路鬼ノ神ニ事ヘンコトヲ問フ、孔子ノ云ク、人ニ事ルコト能ハ不、焉ソ能ク鬼ニ事ヘント、是レ言ハ不ルナリ、

## 【注】

或無益於教化也、

或ハ教化ニ益無シ、

## 【疏】

解不言怪、力、神、三事也、

怪、力、神ノ三事ヲ言ハ不ルコトヲ解ス、

## 【注】

或所不忍言也、

或ハ忍テ言ハ不ル所ナリ、

## 【疏】

解不言亂事。或通云、怪力是一事、亂神是一事、都不言此二事也、故李充云、力不由理、斯怪力也、神不由正、斯亂神也、怪力亂神有興於邪、無益於教、故不言也、

亂事ヲ言ハ不ルコトヲ解ス。或ル通ニ云ク、怪力ハ是レ一―事、亂ノ神ハ是レ一―事ナリ、都テ此ノ二―事ヲ言ハ不、故ニ李充力云ク、力理ニ由ラ不ルハ、斯レ怪力ナリ、神正シキニ由ラ不ルハ、斯レ亂神ナリ、怪力亂神ハ邪ヨリ興ルコト有リ、故ニ益無シ、故ニ言ハ不、

(一) 「屬」、武内本作「事」。

(二) 「弑」、武内本作「殺」。

(三) 「弑」、武内本作「殺」。

(四) 「屬」下、武内本有「也」字。

(五) 「云」、武内本作「曰」。

(六) 「不」、武内本作「未」。

(七)「事」下、武内本有「也」字。

(八)「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、我三人行、必得我師焉、擇其善者而從之、其不善者而改之、

子ノ曰ク、我レ三人ヲ行ナツツルトキハ、必<sup>かならず</sup>我カ<sup>レ</sup>師ヲ得、其ノ善キ<sup>レ</sup>者ヲ擇テ之ニ從フ、其ノ善カラ不<sup>さ</sup>ルヲハ之ヲ改ム、

【疏】

此明人生處世則、宜更相進益、雖三人同行、必推勝而引劣、故必有師也、有勝者、則諮受自益、故云擇善而從之也、有劣者、則以善引之、故云其不善者而改之、然善與不善、即就一人上爲語也、人不具足、故取善改惡、亦更相師改之義也、故王朗云、于時道消俗薄、鮮能宗賢尚勝、故託斯言、以厲之、夫三人行、猶或有師、況四海之内、何求而不應哉、縱能尚賢、而或滯於一方者、又未盡善也、故曰、擇其善者而從之、其不善者而改之、

此レハ人<sup>レ</sup>生テ世ニ處ル<sup>とる</sup>則ハ、宜ク<sup>カハルカハル</sup>更<sup>レ</sup>相ヒ進<sup>レ</sup>益ス<sup>ハ</sup>宜<sup>ハ</sup>

キコトヲ明ス、三人行ヲ同フスト雖モ、必<sup>かならず</sup>勝レルヲ推シテ而シテ劣<sup>ワト</sup>レルヲ引ク、故ニ必ス師有リ、勝レルコト有ル者ニハ、諮<sup>と</sup>ヒ<sup>レ</sup>受テ自<sup>みづか</sup>益ス、故ニ云ク善ヲ擇テ之ニ從フト、劣コト有ル者ヲハ、善ヲ以テ之ヲ引ク、故ニ云ク其ノ善カラ不<sup>さ</sup>ル者ヲハ之ヲ改ム、然トモ善ト不<sup>さ</sup>善與、即チ一人ノ上ニ就テノ語ト爲<sup>ス</sup>、人員<sup>じん</sup>足アラ不<sup>す</sup>、故ニ善ヲ取テ惡ヲ改ム、亦<sup>カハル</sup>更<sup>レ</sup>相ヒ<sup>レ</sup>師トシテ之ヲ改ルノ義ナリ、故ニ王朗カ曰ク、時<sup>ニ</sup>道消シ俗<sup>ウスラ</sup>薄イテ、能ク賢ヲ宗ヒ勝レルヲ尚<sup>タカニ</sup>コト鮮シ、故ニ斯ノ言ニ託シテ、之ヲ厲ス、夫レ三人ノ行タモ、猶ヲ或ハ師有リ、況ヤ四海ノ内、何ヲ求ルトシテカ應セ不ランヤ、縱<sup>タト</sup>イ<sup>レ</sup>能ク賢ヲ尚<sup>タカニ</sup>フモ、或ハ一方ニ滯<sup>トトコラ</sup>ル者ハ、又未<sup>いま</sup>善ヲ盡サ未<sup>タカニ</sup>、故ニ曰ク、其ノ善キ<sup>レ</sup>者ヲ擇テ而シテ之ニ從ヒ、其ノ善カラ不<sup>さ</sup>ル者ヲハ之ヲ改ム、

【注】

言我三人行、本無賢愚、

言<sup>いふこと</sup>ハ我<sup>われ</sup>三人行フトキハ、本ト賢<sup>いふこと</sup>愚無シ、

【疏】

就注意、亦是敵者也、既俱非具德、則遞有優劣也、



注ノ意ニ就ハ、亦タ是レ敵者ナリ、既ニ俱ニ員<sup>ニ</sup>德ニ非  
ル、則ハ遞<sup>トシ</sup>ニ優<sup>タカ</sup>劣<sup>ガイ</sup>(優リ劣ル)有リ、

【注】

擇善從之、不善改之、故無常師也、

善ヲ擇テ之ニ從ヒ、善カラ不<sup>ス</sup>ルヲハ之ヲ改ム、故ニ常ノ  
師無シ、

【疏】

我師彼之長、而改彼之短、彼亦師我之長、而改我之短、既  
更相師法、故云無常師也。或問曰、何不二人、必云三人  
也、答曰、二人則、彼此自好、各言我是、若有三人則、恆  
一人見二人之有是非明也、

我<sup>わ</sup>彼<sup>か</sup>ノ長<sup>ちやう</sup>ヲ師<sup>し</sup>トシテ、彼<sup>か</sup>ノ短<sup>たん</sup>ヲ改<sup>か</sup>ム、彼<sup>か</sup>亦<sup>また</sup>我<sup>われ</sup>カ長<sup>ちやう</sup>ヲ師<sup>し</sup>  
シテ、我<sup>われ</sup>カ短<sup>たん</sup>ヲ改<sup>か</sup>ム、既<sup>すで</sup>ニ更<sup>さら</sup>ニ相<sup>あひ</sup>ヒ師<sup>し</sup>法<sup>ぽう</sup>タリ、故<sup>ゆゑ</sup>ニ云  
ク常<sup>じやう</sup>ノ師<sup>し</sup>無<sup>な</sup>シ。或<sup>ある</sup>ヒト問<sup>と</sup>テ曰<sup>い</sup>ク、何<sup>なん</sup>ソニ人<sup>ひと</sup>トイハ不<sup>ふ</sup>シテ、  
必<sup>かならず</sup>ニ三人<sup>さんじん</sup>ト云<sup>い</sup>フヤ、答<sup>こた</sup>テ曰<sup>い</sup>ク、二<sup>ふた</sup>人<sup>にん</sup>ナル則<sup>すなは</sup>ハ、彼<sup>か</sup>此<sup>こ</sup>  
自<sup>みづか</sup>ラ好<sup>この</sup>ミシテ、各<sup>おの</sup>我<sup>われ</sup>カ是<sup>これ</sup>ヲ言<sup>い</sup>フ、若<sup>も</sup>シ三<sup>さん</sup>人<sup>にん</sup>有<sup>あ</sup>ル則<sup>すなは</sup>ハ、  
恆<sup>つね</sup>ニ一<sup>ひと</sup>人<sup>にん</sup>ハ二<sup>ふた</sup>人<sup>にん</sup>ノ是<sup>これ</sup>非<sup>ひ</sup>有<sup>あ</sup>ルコトヲ見<sup>み</sup>ルコト明<sup>あ</sup>ケシ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「遞」、武内本作「遽」。

【經】

子曰、天生德於予、桓魋其如予何、

子ノ曰<sup>のたまは</sup>ク、天<sup>てん</sup>德<sup>とく</sup>ヲ予<sup>よ</sup>ニ生<sup>な</sup>セリ、桓魋<sup>たい</sup>其<sup>その</sup>レ予<sup>よ</sup>ヲ如<sup>いか</sup>何<sup>ん</sup>、

【疏】

予<sup>よ</sup>我<sup>われ</sup>也、桓魋<sup>たい</sup>宋<sup>そう</sup>司馬<sup>し</sup>也、凶<sup>こ</sup>愚<sup>ご</sup>心恆<sup>つね</sup>欲<sup>よく</sup>害<sup>がい</sup>孔子<sup>こうし</sup>、孔子<sup>こうし</sup>故<sup>ゆゑ</sup>明<sup>めい</sup>言<sup>げん</sup>、  
語<sup>ご</sup>之<sup>これ</sup>使<sup>し</sup>其<sup>その</sup>凶<sup>こ</sup>心<sup>しん</sup>止<sup>とど</sup>也、言<sup>い</sup>天<sup>てん</sup>生<sup>な</sup>聖<sup>せい</sup>德<sup>とく</sup>我<sup>われ</sup>、我<sup>われ</sup>與<sup>よ</sup>天<sup>てん</sup>同<sup>どう</sup>然<sup>ぜん</sup>、桓魋<sup>たい</sup>雖<sup>すなは</sup>無<sup>な</sup>  
道<sup>だう</sup>、安<sup>やす</sup>能<sup>あた</sup>違<sup>ちが</sup>天<sup>てん</sup>而<sup>して</sup>害<sup>がい</sup>我<sup>われ</sup>乎<sup>や</sup>、故<sup>ゆゑ</sup>云<sup>い</sup>如<sup>いか</sup>予<sup>よ</sup>何<sup>ん</sup>也、夫<sup>そ</sup>凶<sup>こ</sup>心<sup>しん</sup>亦<sup>また</sup>宜<sup>あた</sup>不<sup>ふ</sup>屢<sup>りう</sup>  
謝<sup>しゃ</sup>、而<sup>して</sup>有<sup>あ</sup>時<sup>とき</sup>須<sup>す</sup>以<sup>もつ</sup>道<sup>だう</sup>折<sup>せ</sup>之<sup>これ</sup>、故<sup>ゆゑ</sup>江<sup>かう</sup>熙<sup>し</sup>云<sup>い</sup>、小<sup>せう</sup>人<sup>にん</sup>爲<sup>な</sup>惡<sup>あく</sup>、以<sup>もつ</sup>理<sup>り</sup>喻<sup>よ</sup>之<sup>これ</sup>  
則<sup>すなは</sup>、愈<sup>い</sup>凶<sup>こ</sup>強<sup>かう</sup>、晏<sup>えん</sup>然<sup>ぜん</sup>待<sup>たい</sup>之<sup>これ</sup>、則<sup>すなは</sup>更<sup>さら</sup>自<sup>みづか</sup>處<sup>こ</sup>、亦<sup>また</sup>猶<sup>なほ</sup>匡<sup>かう</sup>人<sup>にん</sup>聞<sup>きこ</sup>文<sup>ぶん</sup>王<sup>わう</sup>德<sup>とく</sup>、而<sup>して</sup>  
兵<sup>へい</sup>解<sup>かい</sup>也、

予<sup>よ</sup>ハ我<sup>われ</sup>ナリ、桓魋<sup>たい</sup>ハ宋<sup>そう</sup>ノ司馬<sup>し</sup>ナリ、凶<sup>こ</sup>愚<sup>ご</sup>ニシテ心<sup>しん</sup>ニ恆<sup>つね</sup>ニ  
孔子<sup>こうし</sup>ヲ害<sup>がい</sup>セント欲<sup>よく</sup>ス、孔子<sup>こうし</sup>故<sup>ゆゑ</sup>ニ明<sup>めい</sup>ニ言<sup>げん</sup>テ、之<sup>これ</sup>ニ語<sup>ご</sup>テ其<sup>その</sup>ノ  
凶<sup>こ</sup>心<sup>しん</sup>ヲ使<sup>し</sup>テ止<sup>とど</sup>メ使<sup>し</sup>、言<sup>い</sup>ハ天<sup>てん</sup>聖<sup>せい</sup>ノ德<sup>とく</sup>ヲ我<sup>われ</sup>ニ生<sup>な</sup>セリ、我<sup>われ</sup>ト  
天<sup>てん</sup>與<sup>よ</sup>然<sup>ぜん</sup>ヲ同<sup>どう</sup>ス、桓魋<sup>たい</sup>無<sup>な</sup>道<sup>だう</sup>ナリト雖<sup>すなは</sup>、安<sup>やす</sup>ソ能<sup>あた</sup>ク天<sup>てん</sup>ニ違<sup>ちが</sup>ツテ  
我<sup>われ</sup>ヲ害<sup>がい</sup>セシヤ、故<sup>ゆゑ</sup>ニ云<sup>い</sup>ク予<sup>よ</sup>ヲ如<sup>いか</sup>何<sup>ん</sup>ト、夫<sup>そ</sup>レ凶<sup>こ</sup>心<sup>しん</sup>ヲハ亦<sup>また</sup>  
宜<sup>あた</sup>ク屢<sup>りう</sup>ニ謝<sup>しゃ</sup>セ不<sup>ふ</sup>ル宜<sup>あた</sup>シ、而<sup>して</sup>シテ時<sup>とき</sup>有<sup>あ</sup>テ須<sup>す</sup>ク道<sup>だう</sup>ヲ以<sup>もつ</sup>之<sup>これ</sup>ヲ

折ク須、故ニ江熙カ云ク、小人惡ヲ爲ルニ、理ヲ以之ヲ  
諭ス則ハ、愈凶強ナリ、晏然トシテ之ヲ待テ（待ト  
キハ）、則チ更ニ自處ス（處ル）、亦匡人文王ノ德ヲ  
聞テ、兵解クルカ猶シ、

【注】

荀子曰、桓魋宋司馬黎也、天生德於予者、謂授我以聖性  
也、合德天地、吉而無不利、故曰其如予何也、

荀子カ曰ク、桓魋ハ宋ノ司馬黎ソ、天德ヲ予ニ生セリト  
ハ、我ニ授ルニ聖性ヲ以テスルヲ謂フ、德ヲ天地ニ合ヘ  
テ、吉ニシテ利アラ不トイフコト無シ、故ニ曰ク其レ予  
ヲ如何ト、

- (一) 「語」、武内本作「論」。
- (二) 「德」下、武内本有「於」字。
- (三) 「心」、武内本作「人」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「王」下、武内本有「之」字。

【經】

子曰、二三子、以我爲隱子乎、

子ノ曰ク、二三子、我ヲ以テ子ニ隱セリト爲ル乎、

【疏】

二三子、諸弟子也、孔子聖道深遠、諸弟子學所不及、而有  
怨者、恆言、孔子於己有所隱惜、故孔子合呼而問之云、汝  
等言我有所隱於汝乎也、

二三子ハ、諸弟子ナリ、孔子ノ聖道深遠ニシテ、  
諸弟子學ヘトモ及ハ不ル所ナリ（所ニシテ）、而シテ怨  
ミ有ル者、恆ニ言ク、孔子己ニ於テ隱シ惜ム所有ト、故  
ニ孔子合セ呼テ而シテ之ニ問テ云ク、汝等我ヲ汝ニ隱  
ス所有リト言フ乎、

【經】

吾無隱乎爾、

吾爾ニ隱スコト無シ、

## 【疏】

爾汝也、先呼問之此更語之云、吾無所隱於汝也、

爾ハ汝ナリ、先ツ呼テ之ヲ問テ此ニ更ニ之ニ語テ云ク、  
吾汝ニ隱ス所無シト、

## 【注】

苞氏曰、二三子、謂諸弟子也、聖人智廣道深、弟子學之不能及、以爲有所隱匿。故解之也、

苞氏カ曰ク、二二三子トハ、諸弟子ヲ謂フ、聖人ハ智廣ク道深シ、弟子之ヲ學ヘトモ及フコト能ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、以爲<sup>カ</sup>ラク隱シ<sup>カ</sup>匿ス所有リト(隱シ<sup>カ</sup>匿ス所有リト以爲ヘリ)。故ニ之ヲ解ク、

## 【經】

吾無所行、而不與二三子者、是丘也、

吾カ行フ所トシテ、二三子ト與ニセ不トイフコト無キハ、是レ丘ナリ、

## 【疏】

行猶爲也、丘孔子名也、孔子已向云無隱、故此更自稱名、而說無隱之事、使之信也、言凡我所爲之事、無不與汝共之者、是丘之心如此也、

行ハ爲(爲)ノ猶シ、丘ハ孔子ノ名ナリ、孔子已向云無隱スコト無シト云フ、故ニ此ニ更ニ自名ヲ稱シテ、隱スコト無キノ事ヲ説テ、之ヲ使テ信セ使ム、言ハ凡ソ我カ爲ル所ノ事、汝與之ヲ共ニセ不トイフコト無キハ、是レ丘カ心此ノ如シ、

## 【注】

苞氏曰、我所爲、無不與爾共之者、是丘之心、

苞氏カ曰ク、我カ爲ル所、爾與之ヲ共ニセ不トイフコト無キハ、是レ丘カ心ナリ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「心」下、武内本有「也」字。

【經】

子以四教、文、行、忠、信、

子四ヲ以教フ、文、行、忠、信、

【疏】

孔子爲教、恆用此四事爲首、故云、子以四教也、李充云、  
其典籍辭義謂之文、孝悌恭睦謂之行、爲人臣則忠、與朋友  
則信、此四者教之所先也、故以文發其蒙、行以積其德、忠  
以立其節、信以全其終也、

孔子教ヲ爲スニ、恆ニ此ノ四事ヲ用テ首<sup>ツ</sup>ト爲<sup>ス</sup>、故  
ニ云ク、子四ヲ以教フ、李充カ云ク、其レ典<sup>イハ</sup>籍ノ辭<sup>ハ</sup>義之  
ヲ文ト謂フ、孝悌恭<sup>ボク</sup>睦之ヲ行ト謂フ、人<sup>ハ</sup>臣爲ル則ハ  
忠アリ、朋<sup>ト</sup>友ニ與スル則ハ信アリ、此ノ四ノ者ハ教ヘノ  
先トスル所ナリ、故ニ文ヲ以テハ其ノ蒙ヲ發シ、行<sup>コレモ</sup>以  
テ其ノ德ヲ積ミ、忠<sup>コレモ</sup>以テ其ノ節ヲ立シ、信以テ其ノ  
終ヲ全ス、

【注】

四者有形質、可舉以教也、

四ノ者ハ形質有リ、舉テ以テ教フ可シ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「友」下、武内本有「交」字。

【經】

子曰、聖人吾不得而見之矣、得見君子者斯可矣、

子ノ曰ク、聖人ヲハ吾レ得テ見<sup>ス</sup>ナナンヌ、君<sup>ハ</sup>子ヲ見ルコ  
トヲ得テンハ斯レ可ナリ、

【疏】

孔子歎世無賢聖也、言吾已不能見世有聖人、若得見有君子  
之行、則亦可矣、言世亦無此也、然君子之稱、上通聖人、  
下至片善、今此上云不見聖、下云得見君子、則、知此之君  
子賢人以下也、故王弼曰、此爲聖人與君子異也、然德足君  
物、皆稱君子、亦有德者之通稱也、

孔子世ニ賢<sup>ハ</sup>聖無コトヲ歎ス、言<sup>ハ</sup>吾已ニ世ニ聖人<sup>ハ</sup>有  
ルコトヲ見ルコト能ハ<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>、若シ君<sup>ハ</sup>子ノ行有ルコトヲ見ル  
コトヲ得テンハ、亦可ナリ、言<sup>ハ</sup>世ニ亦此レ無シ、然  
ルニ君<sup>ハ</sup>子ノ稱ハ、上聖人ニ通シ、下片善ニ至ル、今<sup>ハ</sup>此

二上ニ聖ヲ見不ト云ヒ、下ニ君一子ヲ見ルコトヲ得テンハト云フ、則ハ、知ヌ此ノ君一子ハ賢一人ヨリ以下ナルコトヲ、故ニ王弼カ曰ク、此ニハ聖一人ト君一子與ノ異ヲ爲ス、然トモ德物ニ君タルニ足ルヲ、皆君一子ト稱ス、亦有德ノ者ノ通稱ナリ、

【注】

疾世無明君也、

世ニ明一君無キコトヲ疾ム、

【經】

子曰、善人吾不得而見之矣、

子ノ曰ク、善一人ヲハ吾得テ見不ナンヌ、

【疏】

善人之稱、亦上通聖人、下通一分、而此所言指賢人以下也、言世道流喪、吾復不得善人也、

善一人ノ稱ハ、亦上聖一人ニ通シ、下一分ニ通ス、此ニ言フ所ハ賢人以一下ヲ指ス、言ハ世道流喪シテ、吾復

善一人ヲ得不、

【經】

得見有恆者、斯可矣、

恆有ル者ヲ見ルコトヲ得テンハ、斯レ可ナリ、

【疏】

有恆、謂雖不能作善、而守常不爲惡者也、言爾時非唯無作片善者、亦無直置不爲惡者、故亦不得見也、

恆有トハ、善ヲ作スコト能ハ不ト雖、常ヲ守テ惡ヲ爲不ルノ者ヲ謂フ、言ハ爾ノ時唯タ片善ヲ作ス者無コトヲ非ル、亦直ニ置テ惡ヲ爲不ル者無シ、故ニ亦見コトヲ得不、

【經】

亡而爲有、虛而爲盈、約而爲泰、難乎有恆矣、

亡ケレトモ有リト爲、虛シケレトモ盈テリト爲、約シケレトモ泰ナリト爲、難イ矣恆有ルコト、

【疏】

此目不恆之人也、亡無也、當時澆亂、人皆誇張、指無爲有、說虛作盈、家貧約、而外詐奢泰、皆與恆反、故云、難乎有恆矣、故江熙云、言世人負情反實、逐波流遷、若影無持係索、此無恆難也、

此レハ恆アラ不ルノ人ヲ目ク、亡ハ無ナリ、當一時澆（澆）<sup>ニコル</sup>亂ニシテ、人皆誇（誇）<sup>クワ</sup>（張）<sup>ハル</sup>ニシテ、無ヲ指シテ有ト爲、虛ヲ說テ盈ト作ス、家貧ク約シクシテ、外ニ詐<sup>イツワリ</sup>テ奢<sup>セハセ</sup>泰ニシテ、皆ナ恆與反ス（反ク）、故ニ云ク、難イ乎恆有ルコト、故ニ江熙カ云ク、言ハ世人情ニ負キ實ニ反シテ、波ヲ逐テ流ニ遷ス、影ノ持シテ索ヲ係クルコト無キカ若シ、此ノ恆無コト難キナリ（此レ恆ネ無シ難イカナ）、

【注】

孔安國曰、難可名之爲有常也、

孔安國カ曰ク、之ヲ名ケテ常有リト爲可キコト難シ、

【經】

子釣而不綱<sup>三</sup>、

子釣スレトモ綱セ不<sup>ス</sup>、

【疏】

周公之教、不得無殺、是欲因殺止殺、故同物有殺也、釣者一竿屬一鉤、而取魚也、綱者作大綱、橫遮於廣水、而羅列多鉤著之、以取魚也、孔子用一竿而釣則、一一得魚是所少也、若綱橫流而取則、得者多、則孔子所不爲也、故云、子釣而不綱也、

周公ノ教モ、殺無キコトヲ得不<sup>ス</sup>、是レ殺ニ因テ殺ヲ止メント欲、故ニ物ニ同フシテ殺有リ、釣ハ一竿ニ一鉤ヲ屬シテ、魚ヲ取ル、綱ト者大綱ヲ作テ、横ニ廣水ヲ遮テ、多一鉤ヲ羅列シテ之ヲ著ケテ、魚ヲ取ル、孔子ハ一竿ヲ用テ釣ル則ハ、一一ニ魚ヲ得ルコト是レ少キ所ナリ、綱ヲ流ニ横テ取ルカ若キンハ、得ル者多シ、則チ孔子ノ爲不<sup>ス</sup>ル所ナリ、故ニ云ク、子釣スレトモ綱セ不<sup>ス</sup>、

【經】

弋不射宿、

（一）「言」、武内本作「吾」。

（二）「云」、武内本作「曰」。

弋スレトモ宿ヲ（宿ヲ）射不、

【疏】

弋者繳射也、北人皆多繳射取鳥也、宿者夜栖宿之鳥也、孔子亦繳射、唯白日用事、而不及夜射栖宿之鳥也、所以然者、宿鳥夜聚有群、易得多、故不射之也、又恐驚動夜宿、仁心所不忍也、故孫綽云、殺理不可頓去、故禁網而存宿也、繆協云、將令物生有路人殺有節、所以易其生、而難其殺也、

弋者繳（繳）射ナリ、北人ハ皆多ク繳射シテ鳥ヲ取ル、宿ト者夜栖宿スルノ鳥ナリ、孔子モ亦繳射ス、唯白日ニ事ヲ用フ、而シテ夜ニ及テ栖宿ノ鳥ヲ射不、然ル所以ハ、宿鳥ハ夜聚テ群スルコト有リ、多ヲ得ルコト易シ、故ニ之ヲ射不、又夜宿ヲ驚動センコトヲ恐、仁心ノ忍ヒ不ル所ナリ、故ニ孫綽カ云ク、殺ノ理ハ頓ニ去ク可不、故ニ綱ヲ禁シテ宿ヲ存ス、繆協カ云ク、將ニ物ノ生ヲ令テ路有ラシメ人ノ殺ヲシテ節有ラ令メント將、其ノ生ヲ易フシテ、其ノ殺ヲ難スル所以ナリ、

【注】

孔安國曰、釣者一竿釣也、綱者爲大綱、以橫絕流、以繳繫鉤、羅屬著綱也、

【疏】

孔安國カ曰ク、釣ハ一竿ノ釣ソ、綱ハ大綱ヲ爲ツテ横ニ流ヲ絶シテ、繳ヲ以鉤ニ繫ケテ、羅屬シテ綱ニ著ケタリ、繳繩也、以小繩係釣、而羅列、屬著大繩繳也、

繳ハ繩ナリ、小繩ヲ以テ釣ニ係ケテ、羅列シテ、大繩繳ニ屬著ス、

【注】

弋繳射也、

弋ハ繳射、

【疏】

解繳射者多家、一云、古人以細繩、係丸而彈謂爲繳射也、一云、取一杖長、一二尺計、以長繩係此杖、而橫颺以取鳥謂爲繳射也、鄭玄注周禮司弓矢云、結繳於矢、謂之矰、矰

高也、詩云、弋鳬與雁、司弓矢又云、田弋充籠箠矢、共矰矢、注云、籠竹箠也、矰矢不在箠者、爲其相繞亂、將用乃共之也、侃案鄭意、則繳射、是細繩係箭而射也、

繳射ヲ解スル者家多シ、一二云ク、古一人ハ細繩ヲ以テ、丸（<sup>フハヤリ</sup>丸）ヲ係テ而シテ彈スルヲ謂テ繳射ト爲、一二云ク、一ノ杖ノ長サ、一二尺計リナルヲ取テ、長繩ヲ以此ノ杖ニ係ケテ、横ニ颺ゲテ鳥ヲ取ルヲ謂テ繳射ト爲、鄭玄カ注ノ周禮ノ司弓矢ニ云ク、繳ヲ矢ニ結フヲ、之ヲ矰ト謂フ、矰ハ高ナリ、詩ニ云ラク、鳬ト雁與ヲ弋ス、司弓矢ニ又云ク、田（<sup>田</sup>）弋ニ籠箠ニ矢ヲ充ツ、矰矢ヲ共ニス、注ニ云ク、籠ハ竹箠ナリ、矰矢ヲ箠ニ在カ<sup>カ</sup>ルコトハ、其ノ相ヒ繞<sup>カタ</sup>亂センカ爲ナリ、將ニ用ント將トシテ乃チ之ヲ共ニス、侃鄭カ意ヲ案スルニ、則チ繳射ハ、是細繩ヲ箭ニ係ケテ射ルナリ、

【注】

宿宿鳥也、

宿ハ宿鳥ソ、

【疏】

或云、不取老宿之鳥也、宿鳥能生伏、故不取也、此通不及夜也、

或ハ云ク、老宿ノ鳥ヲ取不、宿鳥ハ能ク生伏ス（伏ス）、故ニ取ラ不、此ノ通ハ夜ニ及ハ不、

（一）「網」、武内本作「網」。下同。

（二）「公」、武内本作「孔」。

（三）「云」、武内本作「曰」。

（四）「云」、武内本作「曰」。

（五）「鉤」、武内本作「釣」。

（六）「繳」、武内本無此字。

【經】

子曰、蓋有不知而作之者、我無是也、

子曰<sup>のたまは</sup>曰ク、蓋シ知ラ不シテ作スル者有ラン、我<sup>わ</sup>是レ無シ、

【疏】

不知而作、謂妄作穿鑿、爲異端也、時蓋多有爲此者、故孔



子云、我無是不知而作之事也、

知ラ<sup>ナ</sup>不シテ作スルトハ、妄ニ穿鑿ヲ作シテ、異<sup>ナ</sup>端ヲ爲スルヲ謂フ、時ニ蓋シ多ク此ヲ爲ス者有リ、故ニ孔子ノ云ク、我ハ是ヲ知ラ<sup>ナ</sup>不シテ之ヲ作スル事無シ、

【注】

荀子曰、時人多有穿鑿、妄作篇籍者、故云然也、

荀子カ曰ク、時ノ<sup>ミタリ</sup>人多ク穿鑿シテ、妄ニ篇籍ヲ作ス者有リ、故ニ然云フ、

【經】

多聞擇其善者、而從之、

多ク聞テ其ノ善キ者ヲ擇テ、從フ、

【疏】

因戒妄作之人也、言豈得妄爲穿鑿耶、<sup>〇</sup>人居世間、若有耳多所聞、則擇善者、從之者也、

因テ妄ニ作スルノ人ヲ戒ム、言ハ豈<sup>いかごろ</sup>妄ニ穿鑿ヲ爲スコ

トヲ得ンヤ、人世<sup>〇</sup>間ニ居テ、若シ耳ニ多ク聞ク所有ラハ、善キ者ヲ擇テ、之ニ從ハン者ナリ、

【經】

多見而識之

多ク見テ識ルハ

【疏】

若因多所見則識錄也、多見不云擇善者、與上文、亦從可知也、

若シ多ク見ル所ニ因ル則ハ識<sup>とま</sup>錄ス、多ク見テ善キ者ヲ擇フト云ハ不<sup>さ</sup>ルコトハ、上與文ヲ互フ、亦從テ知ヌ可シ、

【經】

知之次也

知ルカ次ナリ

【疏】

若多聞擇善、多見錄善、此雖非生知、亦是生知之者次也、

若シ多ク聞テ善ヲ擇ヒ、多ク見テ善ヲ録ス、此レ<sup>ムまれナカラ</sup>生ニシテ知ルニ非スト雖モ、亦是レ<sup>ムまれナカラ</sup>生ニシテ知ル者ノ次ナリ、

【注】

孔安國曰、如此、次於生知之者也、

孔安國カ曰ク、此ノ如クナルハ、<sup>ムまれナカラ</sup>生ニシテ知ルニ次ク者ナリ、

(二) 「耶」、武内本作「也」。

【經】

互鄉難與言、

互鄉<sup>トモ</sup>與<sup>ユ</sup>ニ言ヒ難シ(難キ)、

【疏】

互鄉鄉名也、此一鄉之人、皆專愚、不可與之共言語也、

互鄉ハ鄉ノ名ナリ、此ノ一<sup>ミナ</sup>鄉ノ人、皆專<sup>ミナ</sup>愚ニシテ、之<sup>コレト</sup>與共ニ言<sup>ヘカ</sup>ハ語ス可<sup>ス</sup>ラ不、

【經】

童子見

童子見ユ

【疏】

童子十九以下、未冠者也、見來見孔子也、此互鄉有一少兒、來見孔子也、琳公云<sup>二</sup>、此八字通爲一句、言此鄉有一童子、難與言耳、非一鄉皆專惡也、

童<sup>一</sup>子トハ十一以下、未<sup>一</sup>冠ノ者ナリ、見トハ來テ孔子ニ見ユルソ、此ノ互鄉ニ一ノ少<sup>一</sup>兒有リ、來テ孔子ニ見ユ、琳公カ云ク、此ノ八<sup>一</sup>字ヲ通シテ一句ト爲<sup>ス</sup>、言<sup>ミ</sup>ハ此ノ鄉ニ一<sup>一</sup>童<sup>一</sup>子有リ、與<sup>トモ</sup>ニ言ヒ難キ耳、一<sup>一</sup>鄉皆專<sup>ミナ</sup>ラニ惡<sup>ス</sup>ニ非、

【經】

門人惑、

門人惑イヌ、

## 【疏】

門人孔子諸弟子也、惑猶嫌怪也、言彼一鄉皆惡、況復小兒乎、孔子忽然見之、故弟子皆嫌惑之也、

門人トハ孔子ノ諸弟子ナリ、惑ハ嫌怪ノ猶シ、言ハ彼ノ一郷皆惡シ、況ヤ復小兒ヲヤ、孔子忽然トシテ之ニ見ユ、故ニ弟子皆之ヲ嫌惑ス、

## 【注】

鄭玄曰、互郷郷名也、其郷人言語、自專、不達時宜、而有童子、來見孔子、門人怪孔子見也、

鄭玄カ曰ク、互郷ハ郷ノ名ナリ、其ノ郷人ノ言語、自專ニシテ、時ノ宜ニ達セ不、而ルヲ童子有リ、來テ孔子見ユ、門人孔子ノ見コトヲ怪ム、

## 【經】

子曰、與其進也、不與其退也、

子曰ク、其ノ進シニハ與セン、其ノ退カンニハ與セ不、

## 【疏】

孔子爲門人、釋惑也、言凡教化之道、唯進是與、唯退是抑、故無來而不納、豈不本其所本耶、故云、與其進、不與其退也、

孔子門人ノ爲ニ、惑ヲ釋ク、言ハ凡ソ教化ノ道、唯進ムニハ是ニ與シ、唯タ退クニハ是ヲ抑フ、故ニ來タルト而納レ不トイフコト無シ、豈ニ其ノ本トスル所ヲ本ケ不ンヤ、故ニ云ク、其ノ進シニハ與セン、其ノ退シニハ與セ不、

## 【經】

唯何甚、

唯何ソ甚シキ、

## 【疏】

言教化與進、而汝等怪之、此亦一何太甚也、唯語助也、

言ハ教化ハ進ニ與ス、而ルヲ汝等之ヲ怪ム、此レ亦一ヘニ何ソ太甚シキヤ、唯ハ語ノ助ナリ、

【注】

孔安國曰、教誨之道、與其進、不與其退、怪我見此童子、惡惡何一甚也、

孔安國カ曰ク、教誨ノ道、其ノ進マンニハ與セン、其ノ退カンニハ與セ不、我カ此ノ童子ニ見ルコトヲ怪ム、惡ヲ惡ムコト何ソ一ヘニ甚シキヤ、

【疏】

言汝等爲惡其鄉、而憎其善童、所以是惡惡之甚也、

言ハ汝等其ノ鄉ヲ惡ムト爲テ、其ノ善童ヲ憎ムコトハ、是レ惡ヲ惡ムコトノ甚キ所以ナリ、

【經】

人潔己以進、

人已ヲ潔シテ以テ進ニハ、

【疏】

更釋教誨所以與進之義也、言人有來進師門者、非潔則不進、進則必是潔己者也、

更ニ教誨ノ進ムニ與スル所以ノ義ヲ釋ス、言ハ人師門ニ來リ進ムコト有ル者ハ、潔ニ非ル則ハ進マ不、進ム則ハ必ス是レ己ヲ潔スル者ナリ、

【經】

與其潔也、不保其往也、

其ノ潔ニハ與セン、其ノ往ヲハ保タ不、

【疏】

往謂已過之行、言其既潔已而猶進之、是與其潔也、而誰保其往日之所行耶、何須惡之也、顧歡曰、往謂前日之行也、夫人之爲行、未可一必、或有始無終、或先迷後得、故教誨之道、潔則與之、往日之行、非我所保也、

往トハ已ニ過ルノ行ヲ謂フ、言ハ其レ既ニ己ヲ潔シテ猶ヲ之レニ進ハ、是レ其ノ潔ニハ與セン、誰カ其ノ往日ノ行ヲ所ヲ保タン、何ソ之ヲ惡ミンスルコトヲ須イン、顧歡カ曰ク、往トハ前日ノ行ヲ謂フ、夫レ人ノ行ヲ爲スコト、未ターツニ必ストス可未、或ハ始有テ終無シ、或ハ先迷テ後ニ得、故ニ教誨ノ道、潔キ則ハ之ニ與ス、往日ノ行ハ、我保ム所ニ非ス、

【注】

鄭玄曰、往猶去也、人虚已自潔而來、當與其進之、亦何能保其去後之行也、

鄭玄カ曰ク、往ハ去ノ猶シ、人已ヲ虚ニシテ自潔シテ來ラハ、當ニ其ノ進ニハ與ス當シ、亦何ソ能ク其ノ去テ後ノ行ヲ保ン、

【疏】

虚謂清其心也、然鄭注云、去後之行、亦謂今日之前、是已去之後也、

虚トハ其ノ心ヲ清クスルヲ謂フ、然ルニ鄭カ注ニ云ク、去テ後ノ行トハ、亦タ今日ヨリ前ヲ謂フ、是レ已ニ去ルノ後ナリ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「諸」、武内本無此字。
- (三) 「小」、武内本作「少」。
- (四) 「其」、武内本作「是」。
- (五) 「之」、武内本無此字。

【經】

子曰、仁遠乎哉、我欲仁、斯仁至矣、

子ノ曰ク、仁遠カレヤ、我仁ヲ欲スレハ、斯ニ仁至ル、

【疏】

世人不肯行仁、故孔子引之也、問言、仁道遠乎也、言其不遠也、但行之由我、我行即是、此非出自遠也、故云、我欲仁而斯仁至也、斯此也、江熙云、復禮一日、天下歸仁、是能仁至近也、

世人肯テ仁ヲ行ハ不、故ニ孔子之ヲ引ク、問テ言ク、仁道遠カレヤ、言ハ其レ遠カラ不、但タ之ヲ行フコトハ我ニ由ル、我行フトキハ即チ是ナリ、此レ遠キ自出ルニ非ス、故ニ云ク、我仁ヲ欲スレハ斯ニ仁至ル、斯ハ此ナリ、江熙カ云ク、禮ニ復スルコト一日モスレハ、天下仁ニ歸ス、是レ能ク仁ハ至テ近キナリ、

【注】

荀氏曰、仁道不遠之、行之則是至也、

荀氏カ曰ク、仁道遠カラ不、之行フ則ハ是ニ至ル、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「能」、武内本無此字。

(三) 「之」、武内本無此字。

【經】

陳司敗問、昭公知禮乎、

陳司敗問ク、昭公禮ヲ知レリヤ、

【疏】

昭公魯君也、陳司敗見孔子而問魯君知禮以不也、

昭公ハ魯ノ君ナリ、陳司敗孔子ニ見テ魯ノ君ノ禮ヲ知ルヤ  
以テ不<sup>い</sup>ヤト問フ、

【注】

孔安國曰、司敗官名也、陳大夫也、昭公魯昭公也、

孔安國カ曰ク、司敗ハ官ノ名、陳ノ大夫、昭公ハ魯ノ昭  
公、

【經】

孔子對曰、知禮、

孔子對テ曰ク、禮ヲ知レリ、  
ノたまは

【疏】

答司敗云、昭公稠文知禮也、

司敗ニ答テ云ク、昭公文ヲ稠<sup>シ</sup>シクス禮ヲ知レリ、  
ノたまは

【經】

孔子退、

孔子退ク、

【疏】

答司敗竟、而退去、

司敗ニ答ヘ竟テ、退キ去ル、

【經】

揖巫馬期而進之<sup>(四)</sup>

巫馬期ヲ揖シテ進テ

【疏】

揖者、古人欲相見、前進皆先揖之也、巫馬期孔子弟子也、司敗知昭公無禮、故問孔子、孔子答曰、知禮、而司敗心所不許、故孔子退而後、揖孔子弟子、進之欲與語也、

揖トハ、古人相ヒ見ント欲スルトキハ、前ミ進テ皆先ツ之ヲ揖ス、巫馬期ハ孔子ノ弟子ナリ、司敗昭公ノ禮無コトヲ知ル、故ニ孔子ニ問フ、孔子答ヘテ曰ク、禮ヲ知レリト、而ルヲ司敗心ニ許サ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>所ナリ、故ニ孔子退<sup>テ</sup>而後ニ、孔子ノ弟子ヲ揖シテ、進テ與ニ語ラント欲<sup>ス</sup>、

【經】

曰、吾聞君子不黨、君子亦黨乎、

曰ク、吾聞ク君子ハ黨セ<sup>ス</sup>不<sup>ト</sup>、君子モ亦タ黨スヤ、

【疏】

相助匿非曰黨、昭公不知禮、而孔子云知禮、所以是黨也、故司敗語巫馬<sup>云</sup>、吾從來聞、君子之人、義與比、無所私相阿黨、孔子既是君子、而今匿君之惡、故云、君子亦黨乎

也、

相<sup>レ</sup>助ケテ非ヲ匿<sup>カ</sup>ス黨ト曰フ、昭公禮ヲ知ラ<sup>ス</sup>不<sup>テ</sup>、而ルヲ孔子禮ヲ知レリト云フ、是レ黨スル所以ナリ、故ニ司敗巫馬ニ語テ云ク、吾從來聞ク、君子ノ人ハ、義ト與ニ比シテ、私ニ相ヒ阿<sup>ラ</sup>リ黨スル所無シト、孔子ハ既ニ是レ君子ナリ、而ルヲ今君ノ惡ヲ匿<sup>カ</sup>ス、故ニ云ク、君子モ亦黨スヤ、

【經】

君娶於呉、

君呉ニ娶レリ、

【疏】

司敗此舉昭公不知禮事也、昭公是周公後、呉是太伯後、太伯是周公伯祖、昭公與呉同是姬姓、周禮百世婚姻不通、而昭公娶其呉之女、故云君娶於呉也、

司敗此レハ昭公ノ禮ヲ知ラ<sup>ス</sup>不<sup>ル</sup>事ヲ舉ク、昭公ハ是レ周公ノ後ナリ、呉ハ是レ太伯ノ後ナリ、太伯ハ是レ周公ノ伯祖ナリ、昭公ハ呉與同ク是レ姫<sup>キ</sup>姓ナリ、周ノ禮二百世

婚姻スルコト通セ不<sup>+</sup>、而ルヲ昭公ハ其ノ呉ノ女ヲ娶ル、故ニ君呉ニ娶<sup>メ</sup>レリト云フ、

【經】

爲同姓、謂之呉孟子、

同<sup>一</sup>姓ナルカ爲ニ、之ヲ呉孟子ト謂フ、

【疏】

禮稱婦人、皆稱國及姓、猶如齊姜秦嬴之屬也、魯之娶呉、當謂爲呉姬、而昭公爲呉是同姓、故諱不得言呉姬、而謂呉孟子也、

禮ニ婦人ヲ稱スルニ、皆國及ヒ姓ヲ稱ス、猶<sup>なほ</sup>シ齊姜秦嬴<sup>エイ</sup>ノ屬ノ如シ、魯ノ呉ニ娶ラハ、當ニ謂テ呉<sup>ス</sup>姫ト爲<sup>ス</sup>當シ、而ルヲ昭公呉ハ是レ同<sup>一</sup>姓ナルカ爲ニ、故ニ諱テ呉<sup>ヘ</sup>姫ト言フヲ得不<sup>ス</sup>、而シテ呉孟子ト謂フ、

【經】

君而知禮、孰不知禮、

君<sup>一</sup>而モ禮ヲ知レラハ、孰カ禮ヲ知レラ不<sup>ン</sup>、

【疏】

孰誰也、君娶同姓、若是知禮、<sup>(二)</sup>則誰爲惡事者、而謂爲不知禮乎、

孰ハ誰ナリ、君同<sup>一</sup>姓ヲ娶ル、若シ是レ禮ヲ知レラハ、誰カ惡<sup>一</sup>事ヲ爲<sup>な</sup>ス者ニ、而<sup>シテ</sup>謂テ禮ヲ知ラ不ト爲<sup>セ</sup>ンヤ、

【注】

孔安國曰、巫馬期弟子也、名施。相助匿非曰黨、魯呉俱姫姓也、禮同姓不婚、而君娶呉之、當稱呉姫、諱曰呉孟子也、

孔安國カ曰ク、巫馬期ハ弟子ナリ、名ハ施<sup>シ</sup>、相ヒ助ケテ非ヲ匿<sup>カ</sup>スヲ黨ト曰フ、魯呉ハ俱ニ姫<sup>キ</sup>姓ナリ、禮ニ同<sup>一</sup>姓ハ婚セ不<sup>ス</sup>、而ルヲ君呉ニ娶レリ、當ニ呉<sup>ヘ</sup>姫ト稱ス當シ、諱テ呉孟子ト曰フ、

【經】

巫馬期以告、

巫馬期以テ告<sup>マウ</sup>ス、



## 【經】

巫馬期得司敗之語、還則具述之、以告孔子也、

巫馬期司敗カ語ヲ得テ、還テ則チ具ニ之ヲ述テ、以テ孔子ニ告ス、

## 【經】

子曰丘也幸、苟有過、人必知之、

子ノ曰ク丘幸アリ、苟モ過チ有ルトキハ、人必ス之ヲ知ル、

## 【疏】

孔子得巫馬<sup>(二)</sup>之告、而自稱名云、是己幸、受以爲過者也、故云、苟有過、人必知之也、所以然者、昭公不知禮、而我答司敗云、知禮者、若使司敗無譏、則千載之後、遂承信我言、用昭公所行、爲知禮則、禮亂之事、從我而始、今得司敗見非、而我受以爲過、則後人不謬、故我所以爲幸也、繆協<sup>(三)</sup>云、諱則非諱、斯誠然矣、若受以爲過、則所以諱者又以明矣、亦非諱也、向司敗之問、則詭言以爲諱、今巫馬師徒將明其義、故向之言爲合禮也、苟曰合禮<sup>(四)</sup>、則不爲黨矣、今以不受若爲過<sup>(五)</sup>、則何禮之有乎、

孔子巫馬カ告ヲ得テ、自名ヲ稱シテ云ク、是レ己ニ幸

アリ、受テ以テ過<sup>アヤマ</sup>チト爲ル者ナリ、故ニ云ク、苟モ過チ有ルトキハ、人必ス之ヲ知ル、然ル所以ハ、昭公禮ヲ知ラ不、而ルヲ我司敗ニ答テ云ク、禮ヲ知レリト、若司敗ヲ使テ譏ルコト無カラ使メハ、則チ千載ノ後、遂ニ我カ言ヲ承ケ信シテ、昭公ノ行フ所ヲ用テ、禮ヲ知レリト爲ル則ハ、禮ノ亂ルルノ事、我從リシテ始マル、今司敗ニ非ラ見ルコトヲ得テ、我受テ以テ過ト爲ハ、後人謬ラ不、故ニ我幸ト爲ル所以ナリ、繆協カ云ク、諱ム則ハ諱ムニ非スト、斯レ誠ニ然リ、受テ以テ過ト爲ルカ若キ<sup>こと</sup>ンハ、諱ム所以ノ者又以明ナリ、亦諱ムニ非ルナリ、向ニ司敗カ問フトキハ、則チ言ヲ詭ヘテ諱ムコトヲ爲ス、今巫馬師徒將ニ其ノ義ヲ明ニセント將、故ニ向ノ言禮ニ合フト爲、苟ニ禮ニ合フト曰フ、則ハ黨ヲ爲サ不、今以テ受テ若シ過ト爲不<sup>セ</sup>ンハ、何ノ禮カ有ラン乎、

## 【注】

孔安國曰、以司敗之言、告也、諱國惡禮也、

孔安國カ曰ク、司敗カ言ヲ以テ、告スソ、國ノ惡ヲ諱ムハ禮ナリ、

【疏】

諱國之惡、是禮之所許也、

國ノ惡ヲ諱ムハ、是レ禮ノ許ス所ナリ、

【注】

聖人智深道弘、故受以爲過也、

聖人ハ智「深ク道」弘シ、故ニ受テ以テ過チト爲ス、

【疏】

涅而不緇、故受之也、

涅スレトモ緇マ<sup>ク</sup>不<sup>サ</sup>、故ニ之ヲ受ク、

(一)「也」下、武内本有「陳有司敗之官也」七字之疏文。

(二)「云」、武内本作「曰」。

(三)「稠文」、武内本無此字。

(四)「之」、武内本作「也」。

(五)「孔子」、武内本無此字。

(六)「馬」下、武内本有「期」字。

(七)「云」、武内本作「曰」。

(八)「也」、武内本無此字。

(九)「也」、武内本無此字。

(一〇)「於」、武内本無此字。

(一一)「若」、武内本作「君」。

(一二)「馬」下、武内本有「期」字。

(一三)「云」、武内本作「曰」。

(一四)「詭」、武内本作「說」。

(一五)「也苟曰合禮」、武内本無此五字。

(一六)「若」、武内本無此字。

【經】

子與人歌、而善必使反之、而後和之、

子人與歌フトキニ、善キトキハ必ス反<sup>カヘツサフ</sup>セ使メテ、而シテ<sup>シ</sup>後ニ之ヲ和ス、

【疏】

此明孔子重於正音也、反猶重也、孔子與人共歌、若彼人歌、善合於雅頌者、則孔子欲重聞其音曲、故必使重歌也、重歌既竟、歡<sup>ウレ</sup>之無已、故孔子又自歌、以答和之也、衛瓘<sup>ヱ</sup>云、禮無不答歌、以和相答也、其善乃當和音不相反、故今

更爲歌、然後和也、案衛之後句、不及也、

此レハ孔子ノ正<sup>ト</sup>音ヲ重<sup>ウタウタ</sup>ニスルコトヲ明ス、反ハ重<sup>ニ</sup>ノ猶<sup>シ</sup>シ、孔子人與<sup>ト</sup>共ニ歌フトキニシテ、若<sup>モ</sup>シ彼ノ<sup>ノ</sup>人ノ歌、善ク雅<sup>ニ</sup>頌<sup>ニ</sup>合<sup>カナ</sup>フトキハ、則チ孔子重テ其ノ音<sup>ノ</sup>曲ヲ聞カント欲、故ニ必ス重テ歌ハ使<sup>シ</sup>ム、重テ歌コト既ニ<sup>ニ</sup>竟テ、之ヲ歡<sup>ヨロコ</sup>フ已ムコト無シ、故ニ孔子又<sup>ミツカラ</sup>自<sup>ニ</sup>歌テ、以テ之ヲ答<sup>ニ</sup>和ス、衛瓘カ云ク、禮ニ答<sup>ス</sup>一歌セ不<sup>ス</sup>トイフコト無シ、以テ和シテ相<sup>ニ</sup>答ス、其レ善キトキハ乃チ當<sup>マサ</sup>ニ和<sup>ニ</sup>音シテ（和<sup>ニ</sup>音シテハ）相<sup>ニ</sup>ヒ<sup>カヘツサフ</sup>反<sup>ニ</sup>セ<sup>ニ</sup>ル當<sup>ニ</sup>シ、故ニ今<sup>イマ</sup>更<sup>ニ</sup>二歌ハシムルコトヲ爲<sup>ナ</sup>シテ、然シテ<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>和ス、衛力後ノ句ヲ案スルニ、及ハ不<sup>ス</sup>、

【注】

樂其善、故使重歌、而後自和之也、

其ノ<sup>レ</sup>善<sup>ニ</sup>ヲ樂ム、故ニ重テ歌ハ使<sup>シ</sup>メテ、而シテ<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>自<sup>ミツカラ</sup>之ヲ和ス、

【疏】

如前釋也

前ノ釋ノ如シ

- (一) 「歡」、武内本作「欽」。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「反」、武内本作「及」。

【經】

子曰、文莫吾猶人也、

子ノ<sup>ノ</sup>曰ク、文莫ナルコト吾猶<sup>ワレナ</sup>ヲ人ノ猶<sup>ニ</sup>シ、

【疏】

孔子謙也、文文章也、莫無也、無猶不也、孔子言、我之文章不勝於人、故云、吾猶人也、

孔子ノ謙ナリ、文トハ文<sup>ノ</sup>章ナリ、莫ハ無ナリ、無ハ不ノ猶<sup>ニ</sup>シ、孔子ノ<sup>ノ</sup>言ク、我力文章人ニ勝<sup>マサ</sup>ラ不、故ニ云ク、吾猶<sup>ワレナ</sup>ヲ人ノ猶<sup>ニ</sup>シ、

【注】

莫無也、文無者、猶俗言文不也、文不吾猶人者、言凡文皆不勝於人也、

莫ハ無ナリ、文<sup>一</sup>無トハ、猶<sup>なほ</sup>シ俗ノ文<sup>一</sup>不ト言ハンカ猶シ、  
文<sup>一</sup>不ナルコト吾<sup>われ</sup>猶<sup>なほ</sup>ヲ人ノ猶<sup>こゝろ</sup>シトハ、言<sup>いふ</sup>ハ凡<sup>みな</sup>ソ文<sup>こと</sup>皆人ニ  
勝<sup>まさ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、

【疏】

何云、俗云文不、當是于時呼文不勝人、爲文不也、

何カ云ク、俗ニ文<sup>一</sup>不ト云ク、當ニ是レ時于文人ニ勝<sup>まさ</sup>ラ不  
ルヲ呼テ、文<sup>一</sup>不ト爲<sup>ス</sup>當<sup>へ</sup>シ、

【經】

躬行君子、則吾未之有得也、

躬<sup>み</sup>ニ君<sup>一</sup>子ヲ行フコトハ、吾<sup>われ</sup>未<sup>いまだ</sup>得ルコト有ラ未<sup>ス</sup>、

【疏】

又謙也、躬身也、言我文既不勝人、故身自行君子之行  
者、則吾亦未得也、

又謙ナリ、躬ハ身ナリ、言<sup>いふ</sup>ハ我カ文既二人ニ勝<sup>まさ</sup>ラ不<sup>ス</sup>、  
故二身<sup>みづから</sup>自<sup>みづから</sup>君<sup>一</sup>子ノ行ヲ行コトハ、吾<sup>われ</sup>亦未<sup>ス</sup>タ得未<sup>ス</sup>、

【注】

孔安國曰、躬爲君子行、己未能得之也、

孔安國カ曰ク、躬ニ君<sup>一</sup>子ノ行ヲ爲ルコトハ、己<sup>おのれ</sup>未<sup>いまだ</sup>之ヲ  
得<sup>う</sup>ルコト能ハ未<sup>ス</sup>、

(一) 「云」。武内本作「曰」。

(二) 「行」、武内本無此字。

【經】

子曰。若聖與仁則、吾豈敢、

子ノ曰ク。若<sup>も</sup>シ聖ト仁與<sup>ト</sup>ハ（聖ト仁與<sup>ト</sup>ノ若<sup>コト</sup>キンハ）、吾<sup>われ</sup>豈  
ニ敢<sup>あは</sup>テセンヤ、

【疏】

亦謙也、言聖及仁、則吾不敢自許有、故云豈敢也、

亦タ謙ナリ、言<sup>いふ</sup>ハ聖ト仁及<sup>ト</sup>ハ、則<sup>すなは</sup>チ吾<sup>われ</sup>敢<sup>みづから</sup>テ自<sup>みづから</sup>有ト許  
サ不<sup>ス</sup>、故ニ云<sup>ス</sup>ク豈ニ敢<sup>あは</sup>テセンヤ、

【注】

孔安國曰、孔子謙不敢自名仁聖也、

孔安國カ曰ク、孔子謙シテ敢テ自仁<sup>ミツカラ</sup>聖<sup>ナツ</sup>二名ケラレ<sup>ス</sup>不、

【疏】

不敢自名已有此二事也、

敢テ自<sup>ミツカラ</sup>己<sup>レ</sup>此<sup>ミツカラ</sup>ノ二事有<sup>ナウ</sup>ト名ケ<sup>ス</sup>不、

【經】

抑爲之不厭、誨人不倦、則可謂云爾已矣、

抑<sup>ソノモマナ</sup>爲<sup>レ</sup>ンテ厭ハ<sup>ス</sup>不、人ヲ誨<sup>フシ</sup>ヘテ倦マ<sup>ウ</sup>不<sup>ス</sup>、爾カ云フト謂フ可<sup>ヘカ</sup>ラク已<sup>ノミ</sup>、

【疏】

孔子雖不受仁聖之目、而以此二事自許也、抑語助也、爲猶學也、爲之不厭、謂雖不敢云自有仁聖、而學仁聖之道不厭也、學而不厭、又教誨不倦、乃可自謂如此耳也、

孔子仁<sup>ナ</sup>聖ノ目ヲ受ケ<sup>ナ</sup>不ト雖モ、而モ此ノ二ノ事ヲ以テ

自<sup>ミツカラ</sup>許ス、抑ハ語ノ助ナリ、爲ハ學ノ猶シ、之ヲ爲<sup>マナ</sup>テ厭

ハ<sup>ス</sup>不、謂テ敢テ自<sup>ミツカラ</sup>仁<sup>ミツカラ</sup>聖有<sup>ト云</sup>ハ不ト雖モ、而モ仁<sup>ミツカラ</sup>聖ノ道ヲ學テ厭ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>ルナリ、學テ厭ハ<sup>ス</sup>不、又教ヘ<sup>レ</sup>誨テ倦マ<sup>ウ</sup>不、乃チ自<sup>ミツカラ</sup>此ノ如シト謂フ可<sup>ヘカ</sup>ラク耳、

【經】

公西華曰。正唯弟子不能學也、

公西華カ曰ク。正<sup>マダ</sup>シク唯タ弟子學フコト能ハ<sup>ス</sup>不、

【疏】

公西華聞孔子自云學仁聖不厭、又教人不倦、故已自稱弟子、以往諮也、言正如夫子所自許之事、則弟子亦不能學有此事也、

公西華孔子ノ自<sup>ミツカラ</sup>仁<sup>ミツカラ</sup>聖ヲ學テ厭ハ<sup>ス</sup>不、又人ヲ教テ倦マ<sup>ウ</sup>不ト云フコトヲ聞ク、故ニ已<sup>オノレミツカラ</sup>自<sup>ミツカラ</sup>弟子ト稱シテ、以テ往テ諮フ、言ハ正<sup>マダ</sup>シ夫子ノ自<sup>ミツカラ</sup>許ス所ノ事ノ如シ、弟子亦學テ此ノ事有<sup>ルコト</sup>能ハ<sup>ス</sup>不、

【注】

馬融曰、正如所言、弟子猶不能學也、況仁聖乎也、

馬融カ曰ク、正シトハ言フ所ノ如キノ、弟<sup>マサ</sup>子猶ヲ學コト能ハ<sup>ス</sup>不、況ヤ仁<sup>一</sup>聖ヲヤ、

(一) 「不敢自名<sup>己</sup>有此二事也」十字、武内本在前疏文

「故云豈敢也」下。

(二) 「有」、武内本作「爲」。

(三) 「馬融」、武内本作「荀氏」。

【經】

子疾病、

子ノ疾病ナリ、  
<sup>やまい</sup>

【疏】

疾甚曰病、孔子疾甚也、

疾ノ甚キヲ病ト曰フ、孔子ノ疾<sup>やまい</sup>甚シ、

【經】

子路請禱、

子路禱ラント請フ、

【疏】

禱謂祈禱鬼神、以求福也、孔子疾<sup>シ</sup>甚、故子路請於孔子、欲爲孔子祈求福也、

禱トハ鬼<sup>一</sup>神ニ祈リ禱テ、福<sup>さいはひ</sup>ヲ求ルヲ謂フ、孔子ノ疾ヒ<sup>一</sup>甚シ、故ニ子路孔子ニ請テ、孔子ノ爲ニ福ヲ祈リ<sup>一</sup>求メン<sup>一</sup>ト欲、

【注】

荀氏曰、禱禱請於鬼神也、

荀氏カ曰ク、禱トハ鬼<sup>一</sup>神ニ禱リ<sup>一</sup>請ソ、

【經】

子曰有諸、

子ノ曰ク、有リヤ、  
<sup>のたまは</sup>

【疏】

諸之也、孔子言、死生有命、不欲有禱、故反問子路、有此禱<sup>三</sup>請之事乎、心不許、

諸ハ之ナリ、孔子ノ言ハ、死<sup>イ</sup>生命有リ、禱ルコト有ラン  
コトヲ欲セ<sup>サ</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ反テ子路ニ問フ、此ノ禱<sup>コト</sup>リ、請<sup>コト</sup>ノ事有  
リ乎<sup>ヤ</sup>ト、心ニ許サ不<sup>ス</sup>、

【注】

周生烈曰、言有此禱請於鬼神之事乎也、

周生列カ曰ク、言<sup>イフコト</sup>ハ此ノ鬼<sup>イ</sup>神ニ禱<sup>イ</sup>リ、請<sup>イ</sup>フノ事有リヤ、

【經】

子路對曰、有之、誄曰、禱爾于上下神祇、

子路對ヘテ曰ク、有リ、誄<sup>ルイ</sup>ニ曰ラク、上<sup>イ</sup>下ノ神祇ニ禱<sup>イ</sup>、  
爾ストイヘリ、

【疏】

子路不達孔子意、聞孔子之問、仍引得古舊禱天地之誄辭、  
以答孔子也、故云有之、誄曰也、天曰神、地曰祇也、

子路孔子ノ意ニ達セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、孔子ノ問ヲ聞テ、仍<sup>ヨリ</sup>テ古<sup>イ</sup>舊<sup>イ</sup>天<sup>イ</sup>地<sup>イ</sup>  
ニ禱<sup>イ</sup>ルノ誄<sup>ルイ</sup>ノ辭ヲ引<sup>イ</sup>キ得<sup>イ</sup>テ、孔子ニ答フ、故ニ云ク、之  
レ有リ、誄ニ曰クト、天ヲ神ト曰ヒ、地ヲ祇ト曰フ、

【注】

孔安國曰、子路失旨也、誄禱篇名也、

孔安國カ曰ク、子路旨ヲ失ス、誄ハ禱篇ノ名ナリ、

【疏】

誄者、謂如今行狀也、誄之言累也、人生有德行、死而累列  
其行之迹、爲誄也、

誄トハ、今ノ行<sup>イ</sup>狀ノ如キヲ謂フ、誄カ言ハ累<sup>カス</sup>(累)ナ  
リ、人生テ德<sup>イ</sup>行有リ、死シテ其ノ行ノ迹ヲ累<sup>カス</sup>列シテ、  
謚ト爲<sup>ス</sup>、

【經】

子曰、丘之禱之久矣、

子ノ曰<sup>のたまは</sup>ク、丘カ禱<sup>イ</sup>ルコト久シ、

【疏】

子路既不達孔子意、而引舊禱天地之誄、孔子不欲非之、故  
云、我之禱已久、今則不復須也、實不禱、而云久禱者、聖  
人德合神明、豈爲神明、所禍病、而祈之乎。樂肇<sup>④</sup>云、案説

者徒謂無過可謝、故止子路之請、不謂上下神祇非所宜禱也、在禮天子祭天地、諸侯祭山川、大夫奉宗廟、此禮祀典之常也、然則禱爾于上下神祇、乃天子禱天地之辭也、子路以聖人動應天命、欲假禮祈福二靈、孔子不許直言絕之也、曰丘禱久矣、豈此欲乎率夫舊辭也、自知無過可謝、而云丘之禱久矣、豈其辭乎、夫聖行無違、凡庸所知也、子路豈誣夫子於神明哉、以爲祈福、自不主以謝過爲名也、若以行合神明無所禱請、是聖人無禱請之禮、夫知如是、則禮典之言棄金縢之義廢矣、侃謂、若案何集則子路自不達旨、引得舊禱天地之誄、是子路之失、亦復何傷、若如樂義、則猶是使門人爲臣之意也、然無臣非君、而子路欲此、亦不達之甚、乃得深於請禱之過耳、幸不須譏此而同彼、不如依何集爲是也、

子路既ニ孔子ノ意ニ達セ<sup>ス</sup>不シテ、舊<sup>モト</sup>天<sup>ノ</sup>地ニ禱ルノ誄ヲ引ク、孔子之ヲ非<sup>ス</sup>ランコトヲ欲セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、故ニ云ク、我カ禱ルコト已ニ久シト、今<sup>イマ</sup>則チ復タ須<sup>ス</sup>イ不<sup>ス</sup>、實ハ禱ラ不<sup>ス</sup>、而ルヲ久ク禱ルト云フコトハ、聖人ノ德神明ニ合<sup>カナ</sup>フ、豈ニ神明ノ爲ニ、禍<sup>ウラ</sup>病セ所レテ、之ヲ禱ランヤ、樂肇カ云ク、案スルニ說<sup>タタ</sup>者徒ニ謂ラク過ノ謝ス可キ無シ、故ニ子路カ請フヲ止ムト<sup>ト</sup>（過ノ謝ス可キ無シ、故ニ子路カ請フヲ止ムト謂ヘリ）、上下ノ神祇ハ宜ク禱ル宜キ所ニ非スト

謂ハ不<sup>ス</sup>、禮ニ存<sup>ツキ</sup>テ天<sup>ノ</sup>地ヲ祭リ、諸侯ハ山川ヲ祭リ、大夫ハ宗廟ニ奉<sup>ツカ</sup>フ、此レ禮ノ祀<sup>シ</sup>典ノ常ナリ、然レハ則チ上下ノ神祇ニ禱爾スルハ、乃チ天<sup>ノ</sup>地ニ禱ルノ辭ナリ、子路聖人ノ動天<sup>ノ</sup>命ニ應スル以テ、禮ヲ假テ福<sup>サイハヒ</sup>ヲ二靈ニ禱ラント欲ス、孔子直ニ言テ之ヲ絶センコトヲ許サ不<sup>ス</sup>、曰ク丘カ禱ルコト久シト、豈ニ此レ夫ノ舊<sup>シタカ</sup>ニ率ハント欲スルノ辭ナランヤ、自過ノ謝ス可キ無コトヲ知テ、而シテ云ク丘カ禱ルコト久シト、豈ニ其ノ辭ナランヤ、夫レ聖<sup>ノ</sup>行ノ違<sup>タカ</sup>フコト無コトハ、凡庸ノ知ル所ナリ、子路豈ニ夫<sup>ノ</sup>子ヲ神明ニ誣<sup>シヒ</sup>シヤ、以<sup>おも</sup>爲ラク福ヲ禱ルコト、自<sup>みづか</sup>主トシテ過ヲ謝スルヲ以テ名ト爲<sup>セ</sup>不ト（福ヲ禱ルコト、自<sup>みづか</sup>主トシテ過ヲ謝スルヲ以テ名ト爲<sup>セ</sup>不ト以<sup>おも</sup>爲ヘリ）、若シ行神明ニ合<sup>カナ</sup>フヲ以テ禱リ請フ所無クンハ、是レ聖人禱リ請フノ禮無ケン、夫レ知ヌ是ノ如キンハ、禮典ノ言棄<sup>コトタタ</sup>レ金縢ノ義廢レン、侃謂ラク、何カ集ヲ案スルカ若キンハ子路自<sup>みづか</sup>旨ニ達セ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>、舊<sup>モト</sup>天<sup>ノ</sup>地ニ禱ルノ誄ヲ引キ得、是レ子路カ失ナリ、亦<sup>モ</sup>復何<sup>ノ</sup>ヲ傷マン、若シ樂カ義ノ如キンハ、是レ門人ヲ使<sup>シ</sup>テ臣爲<sup>タ</sup>ラ使ルノ意ノ猶シ、然ルニ臣無シ君ニ非ス、而ルヲ子路此ヲ欲セハ、亦不<sup>ス</sup>達ノ甚ナリ、請ヒ禱ルノ過ヨリ深キコトヲ得ル耳、幸ニ此ヲ譏<sup>ソシ</sup>ツテ彼ト同フスルコトヲ須<sup>ス</sup>イ不<sup>ス</sup>、如カ不<sup>ス</sup>何カ集ニ依テ是ト爲<sup>セ</sup>ンニハ、



【注】

孔安國曰、孔子素行合於神明、故曰、丘之禱之<sup>九</sup>之久矣、

孔安國カ曰ク、孔子素ヨリ行<sup>モト</sup>神明ニ合フ、故ニ曰<sup>カ</sup>ク、  
丘カ禱ルコト久シト、

(一) 「疾」、武内本作「病」。

(二) 「禱請」、武内本作「祈禱」。

(三) 「許」下、武内本有「也」字。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「祭」、武内本作「祈」。

(六) 「二」、武内本作「上」。

(七) 「乎」、武内本無此字。

(八) 「夫」、武内本無此字。

(九) 「之」、武内本無此字。

【經】

子曰、奢則不遜、儉則固、

子ノ曰ク、奢<sup>とぎん</sup>ル<sup>シタカラフ</sup>則ハ不<sup>シ</sup>遜<sup>イヤ</sup>(遜)ナリ、儉ナル<sup>イヤ</sup>則ハ固<sup>イヤ</sup>シ、

【疏】

不遜者、僭濫不恭之謂也、固陋也、人若奢華則、僭濫不恭、若儉約則、固陋不及禮也、

不<sup>シ</sup>遜トハ、僭<sup>シ</sup>濫不<sup>シ</sup>恭ノ謂ナリ、固ハ陋ナリ、人若<sup>ヒトモ</sup>シ奢<sup>シ</sup>華ナル<sup>とぎん</sup>則ハ、僭<sup>シ</sup>濫不<sup>シ</sup>恭ナリ、若シ儉<sup>シ</sup>約ナル<sup>シ</sup>則ハ、固<sup>シ</sup>陋ニシテ禮ニ及ハ<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>

【經】

與其不遜也、寧固、

其ノ不<sup>シ</sup>遜ナラン<sup>ヨリ</sup>與ハ、寧<sup>むし</sup>固<sup>イヤ</sup>シカレ、

【疏】

二事乃俱爲失、若不遜陵物、物必害之、傾覆之期、俄頃可待、若止復固陋、誠爲不逮、而物所不侵、故與其不遜、寧爲固陋也、

二<sup>ニ</sup>事ハ乃チ俱ニ失ト爲<sup>ス</sup>、若シ不遜ニシテ物ヲ陵<sup>しの</sup>クトキハ、物<sup>かならず</sup>必<sup>ズ</sup>之ヲ害ス、傾覆ノ期、俄頃ニシテ待ツ可シ、若シ止<sup>タ</sup>タ復固<sup>シ</sup>陋ナルトキハ、誠ニ逮<sup>ヲヨ</sup>ハ不ト爲<sup>ス</sup>、而ルヲ物侵サ<sup>さ</sup>不<sup>ス</sup>ル所ナリ、故ニ其ノ不<sup>シ</sup>遜ナラン<sup>ヨリ</sup>與ハ、寧<sup>むし</sup>固<sup>シ</sup>陋ヲ爲<sup>セ</sup>

ン、

【注】

孔安國曰、俱失之也、奢不如儉、奢則僭上、儉則不及禮耳、固陋也、

孔安國カ曰ク、俱ニ失セリ、奢ハ儉ニ如カ不<sup>ス</sup>、奢ル<sup>とぎん</sup>則ハ上ニ僭ス、儉ナル則ハ禮ニ及ハ不ラク耳、固ハ陋、

(一) 「逮」、武内本作「遜」。

(二) 「故」下、武内本有「云」字。

【經】

子曰、君子坦蕩蕩、

子ノ曰ク、君<sup>タシ</sup>子ハ坦蕩<sup>タシ</sup>蕩タリ、

【疏】

坦蕩蕩、心貌寬曠、無所憂患也、君子内省不疾故也、

坦蕩<sup>タシ</sup>蕩トハ、心<sup>タシ</sup>貌寬曠ニシテ、憂<sup>タシ</sup>患スル所無ナリ、君<sup>タシ</sup>子ハ内ニ省ルニ疾<sup>タシ</sup>マシ不ルカ故ナリ、

【經】

小人長戚戚、

小<sup>タシ</sup>人ハ長<sup>セキ</sup>戚<sup>タシ</sup>戚タリ、

【疏】

長戚戚、恆憂懼也、小人好爲罪過、故恆懷憂懼也、江熙曰、君子坦爾夷任、蕩然無私、小人馳競於榮利、耿介於得失、故長爲愁府也、

長<sup>タシ</sup>戚<sup>タシ</sup>戚ハ、恆<sup>ツネ</sup>ニ憂<sup>タシ</sup>懼スルソ、小<sup>タシ</sup>人ハ好<sup>コノミ</sup>テ罪<sup>タシ</sup>過ヲ爲<sup>ナ</sup>ス、故ニ恆ニ憂<sup>タシ</sup>懼ヲ懷<sup>イタ</sup>ク、江熙カ曰ク、君<sup>タシ</sup>子ハ坦<sup>タシ</sup>爾トシテ夷<sup>タシ</sup>任ス、蕩<sup>タシ</sup>然トシテ私無シ、小<sup>タシ</sup>人ハ榮<sup>タシ</sup>利ニ馳<sup>ハ</sup>セ<sup>タシ</sup>競<sup>タシ</sup>テ、得失ニ耿介ナリ、故ニ長ク愁<sup>タシ</sup>府爲<sup>タ</sup>リ、

【注】

鄭玄曰、坦蕩蕩、寬廣貌也、長戚戚、多憂懼貌也、

鄭玄カ曰ク、坦<sup>タシ</sup>蕩<sup>タシ</sup>蕩ハ、寬<sup>タシ</sup>廣ノ貌、長<sup>タシ</sup>戚<sup>タシ</sup>戚ハ、憂<sup>タシ</sup>懼多キ貌、

【經】

子温而厲、威而不猛、恭而安、

子温ニシテ厲ニ、威アリテ猛カラ不、恭ニシテ安シ、

【疏】

明孔子德也、亦有云子曰者、亦靡在也、温和潤也、厲嚴也、人温和者、好不能嚴厲、孔子温和而能厲也、又人作威者、心事雄猛、孔子威能不猛也、又恭者、好聳歛不安、孔子恭而能安也、故王弼云、温者不厲、厲者不温、威者心猛、不猛者不威、恭則不安、安者不恭、此對反之常名也、若夫温和而能厲、威而不猛、恭而能安、斯不可名之理全矣、故至和之調、五味不形、大成之樂、五聲不分、中和備質、五材無名也、

孔子ノ德ヲ明ス、亦子曰ト云フ者有リ、亦タハ在ルコト靡シ、温和潤ナリ、厲ハ嚴ナリ、人温和ナル者ハ、好テ嚴厲ナルコト能ハ不、孔子ハ温和ニシテ能ク厲ナリ（厲シ）、又人威ヲ作ス者ハ、心雄猛ヲ事トス、孔子ハ威アツテ能ク猛カラ不、又恭ナル者ハ、好テ聳歛ニシテ安カラ不、孔子ハ恭ニシテ能ク安シ、故ニ王弼カ云ク、温和ナル者ハ厲カラ不、厲キ者ハ温和ナラ不、威アル者ハ心猛

シ、猛カラ不ル者ハ威アラ不、恭ナル則ハ安カラ不、安キ者ハ恭シカラ不、此レ對反ノ常ノ名ナリ、夫ノ温和ニシテ能ク厲ク、威アリテ猛カラ不、恭シフシテ能ク安キカ若キンハ、斯レ名ツク可キノ理全カラ不、故ニ至和ノ調ハ、五味形レ不、大成ノ樂ハ、五聲分タ不、中和ノ備質ハ、五材ノ名無シ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「者」、武内本作「和」。
- (三) 「者」、武内本無此字。